

番匠雛形

7

267

066550-000-5

7-267

番匠雛形

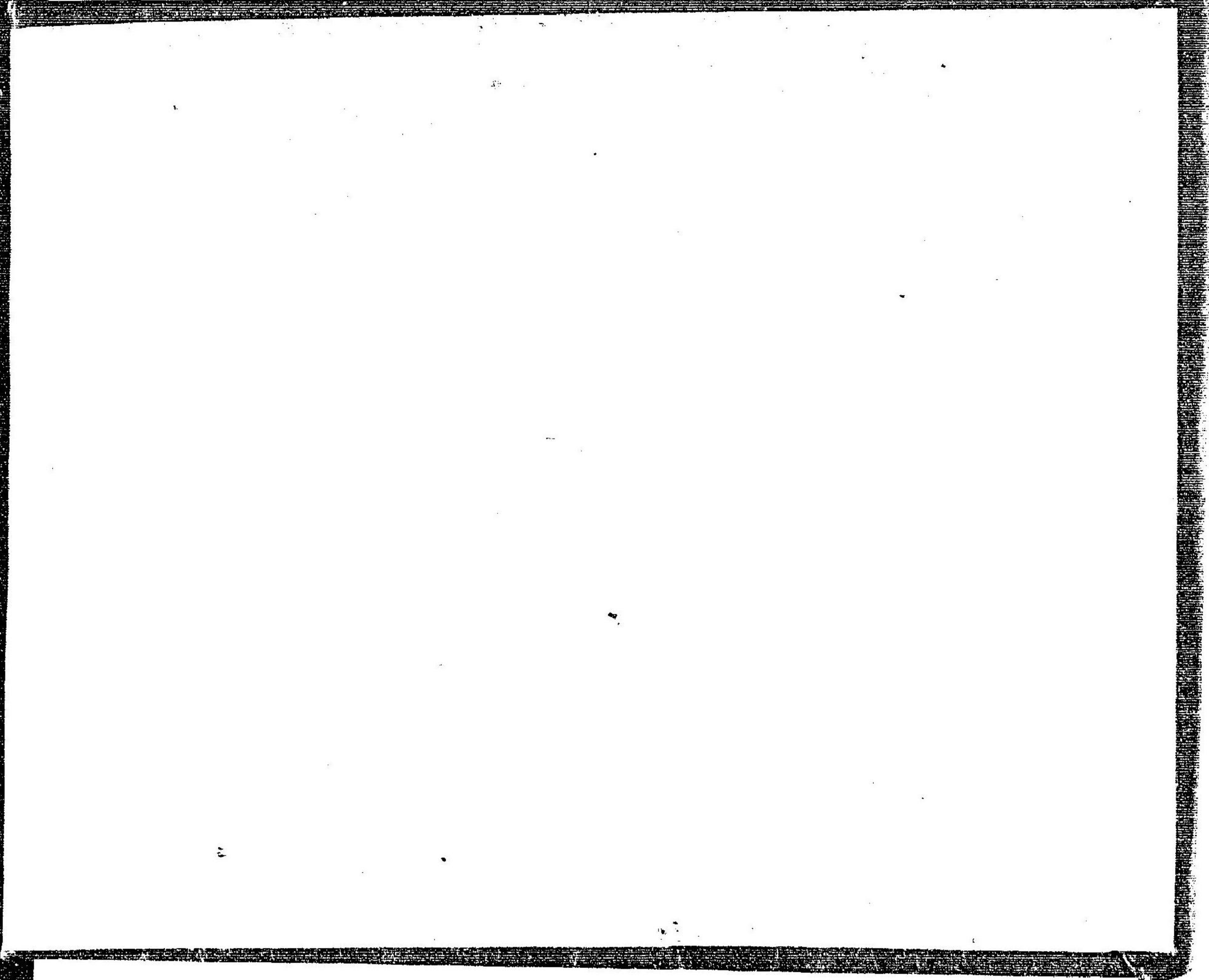
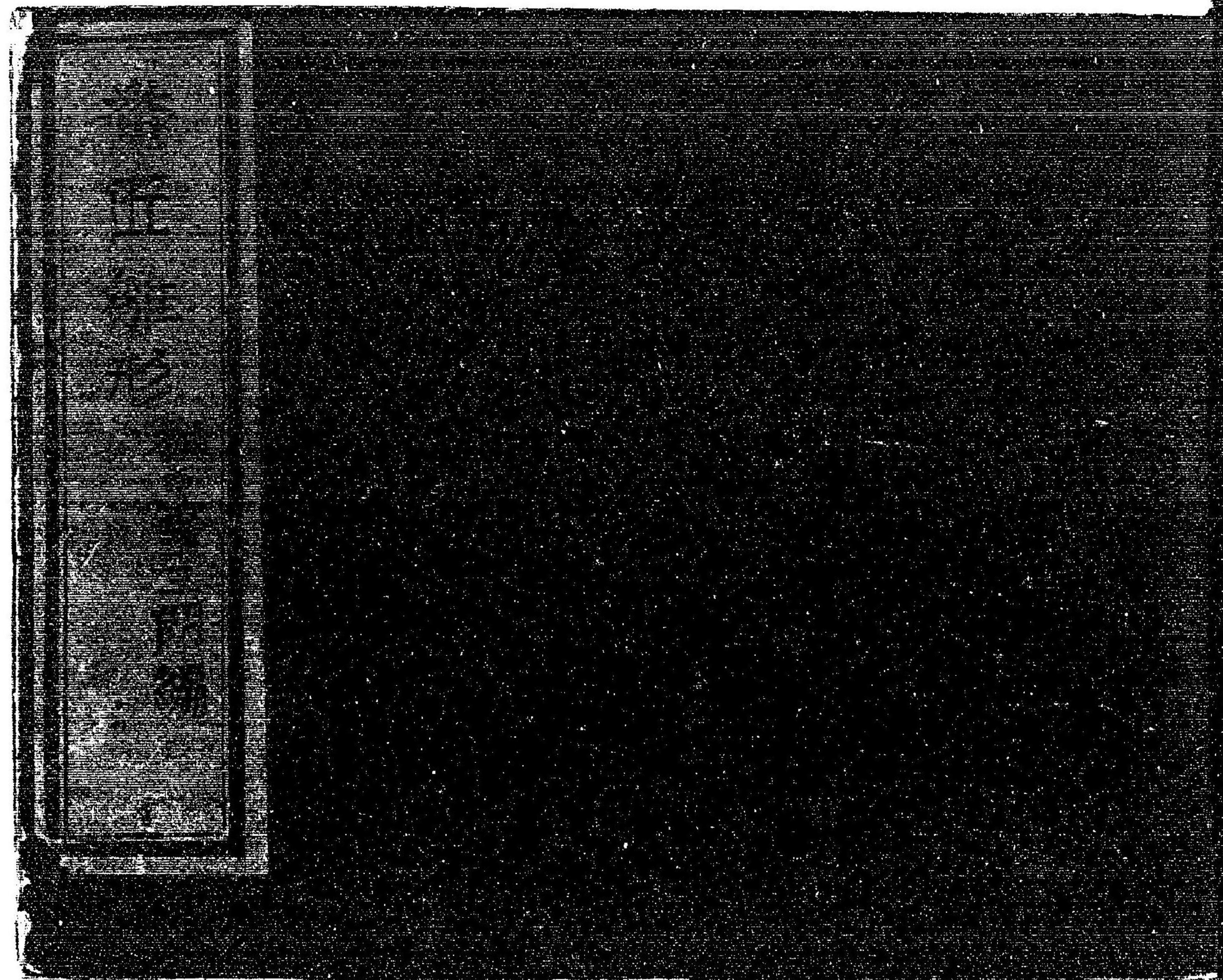
樋口 繁三郎 / 編

M13.12

CDC-0210









海區

離形

大森之全藏

至

或

此書



末寺

本堂  
明  
國

成  
美

龍  
能  
匠

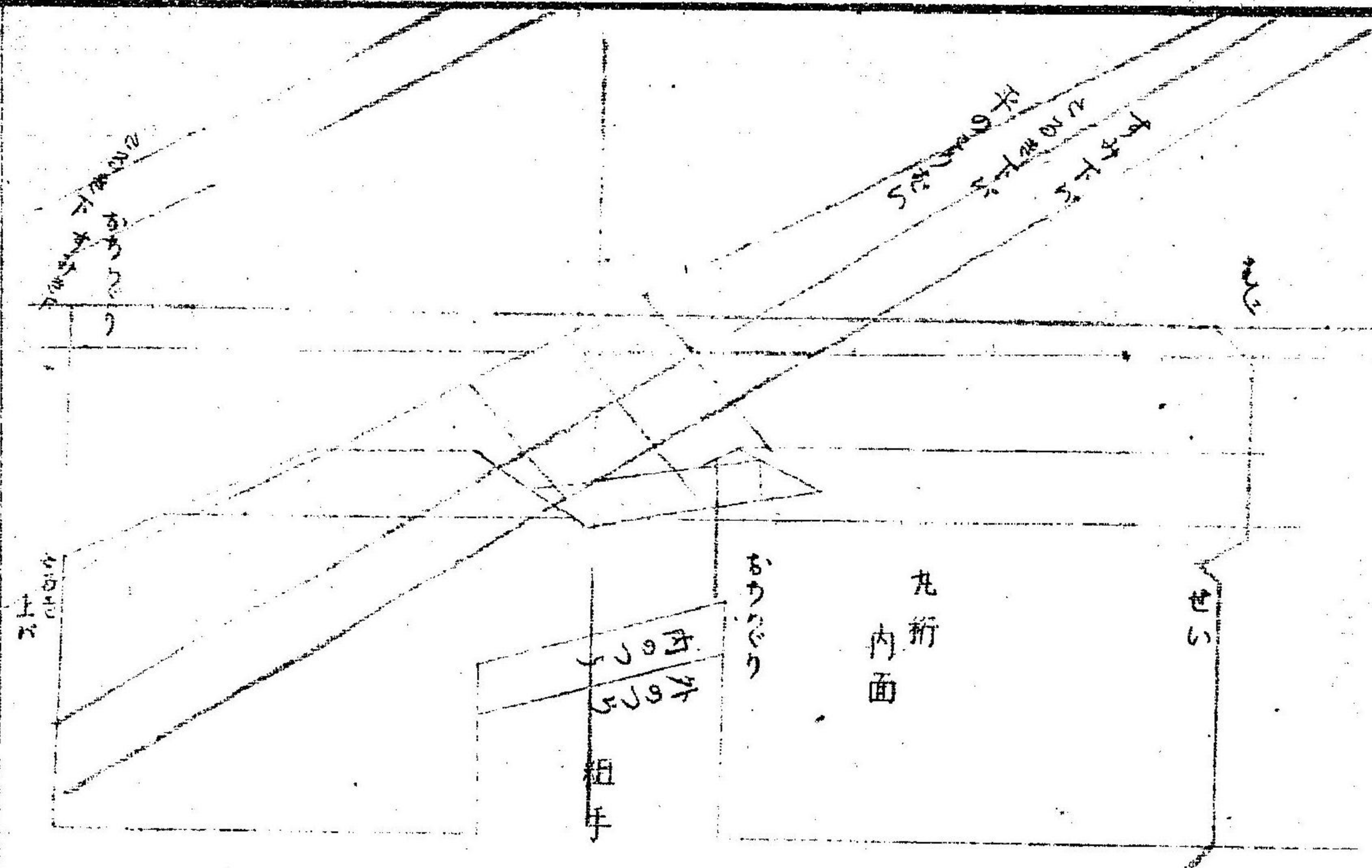


何言

大工師形言たるや、其來名人之  
 術書多々ありき、其うち、  
 此の法一なるに依りて、今あるに、  
 此の規矩を、集りて、全くと、  
 工家、めえり、  
 其の、  
 西海、  
 其法、

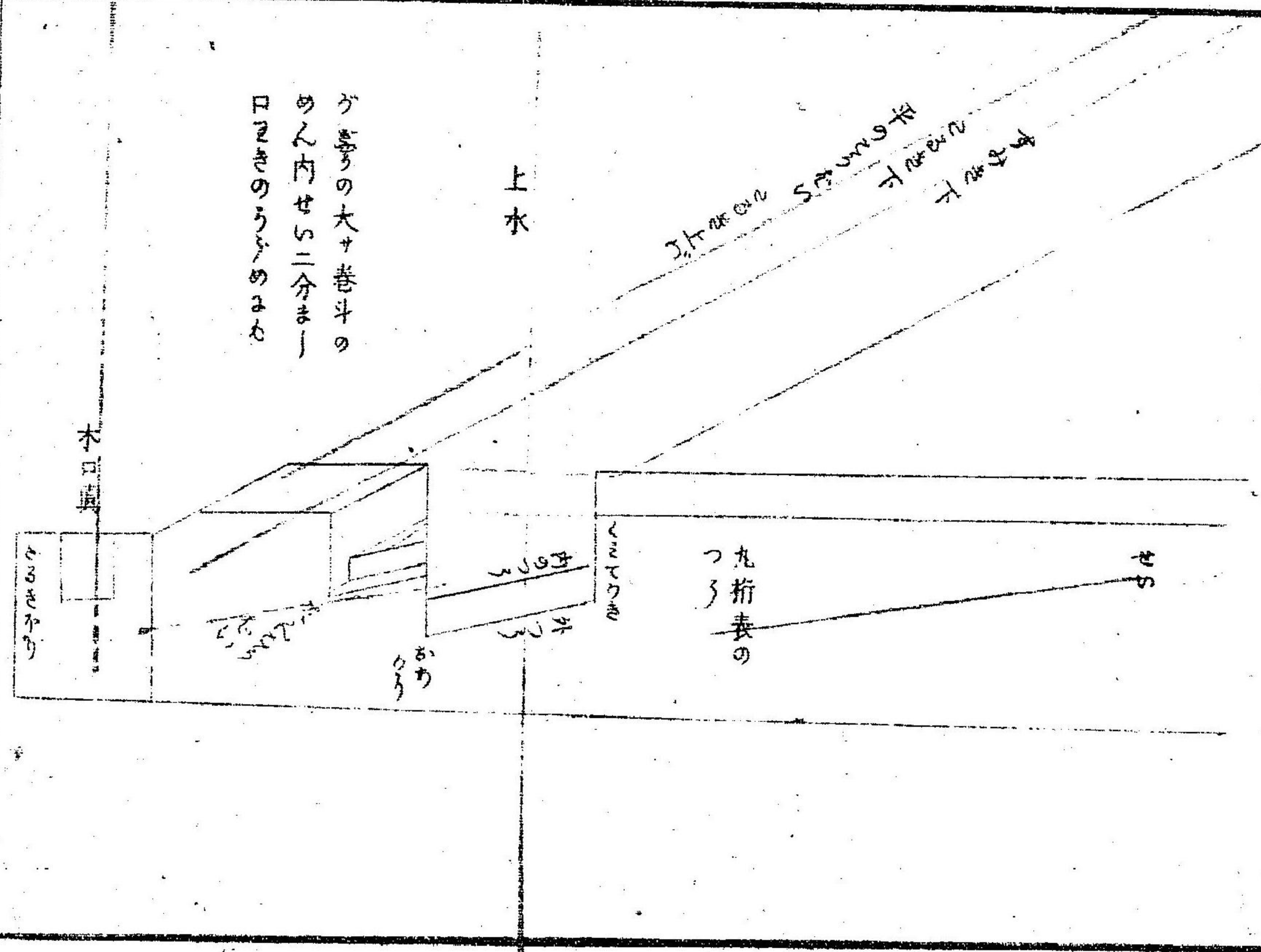
編輯者 磯

九折組手内面之圖





丸桁根組之圖

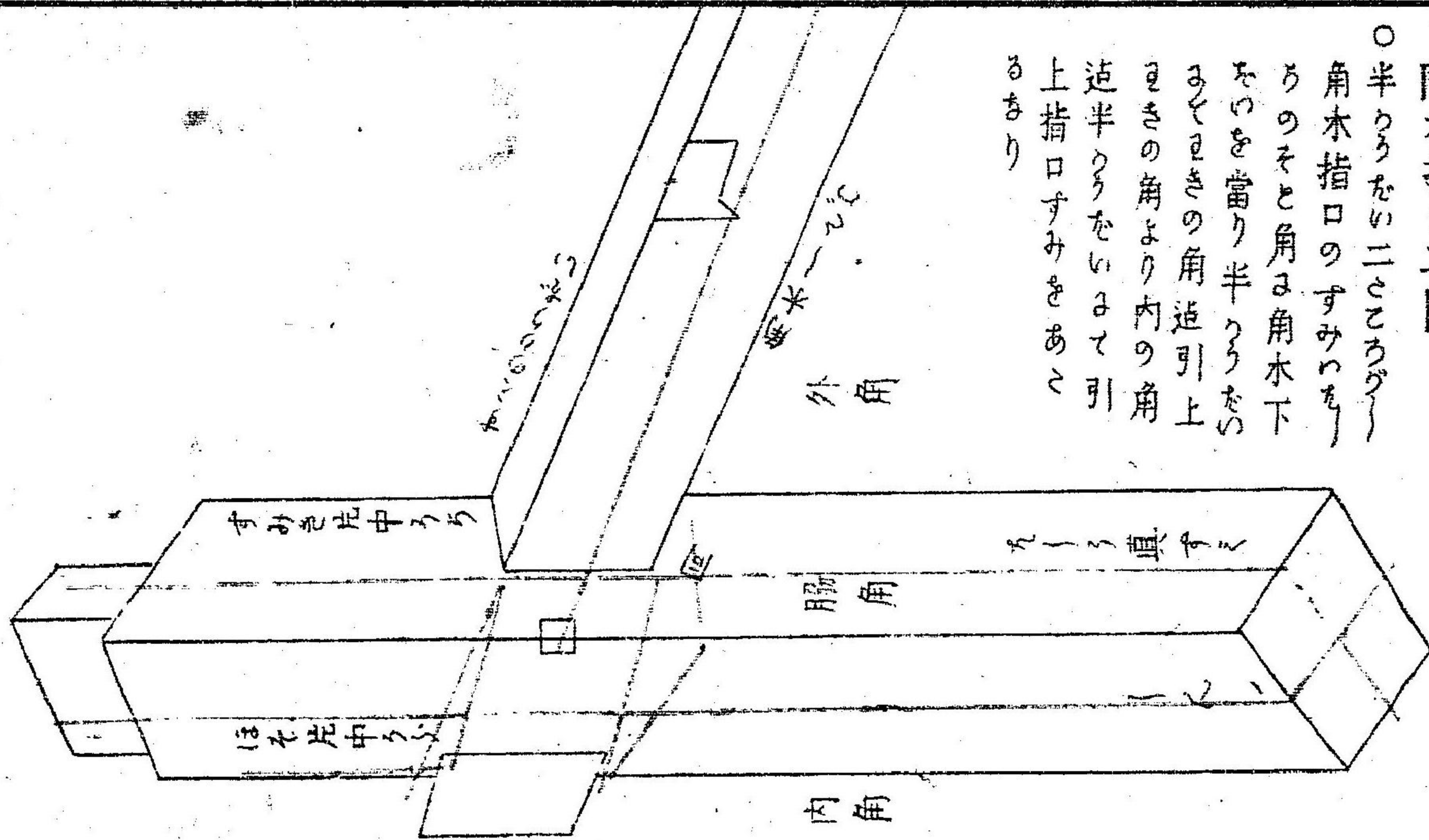


がきうの大ナ巻斗の  
めん内せい二分まゝ  
口まきのうとめまむ

隅水指口之圖

定木柱の頭黒も同

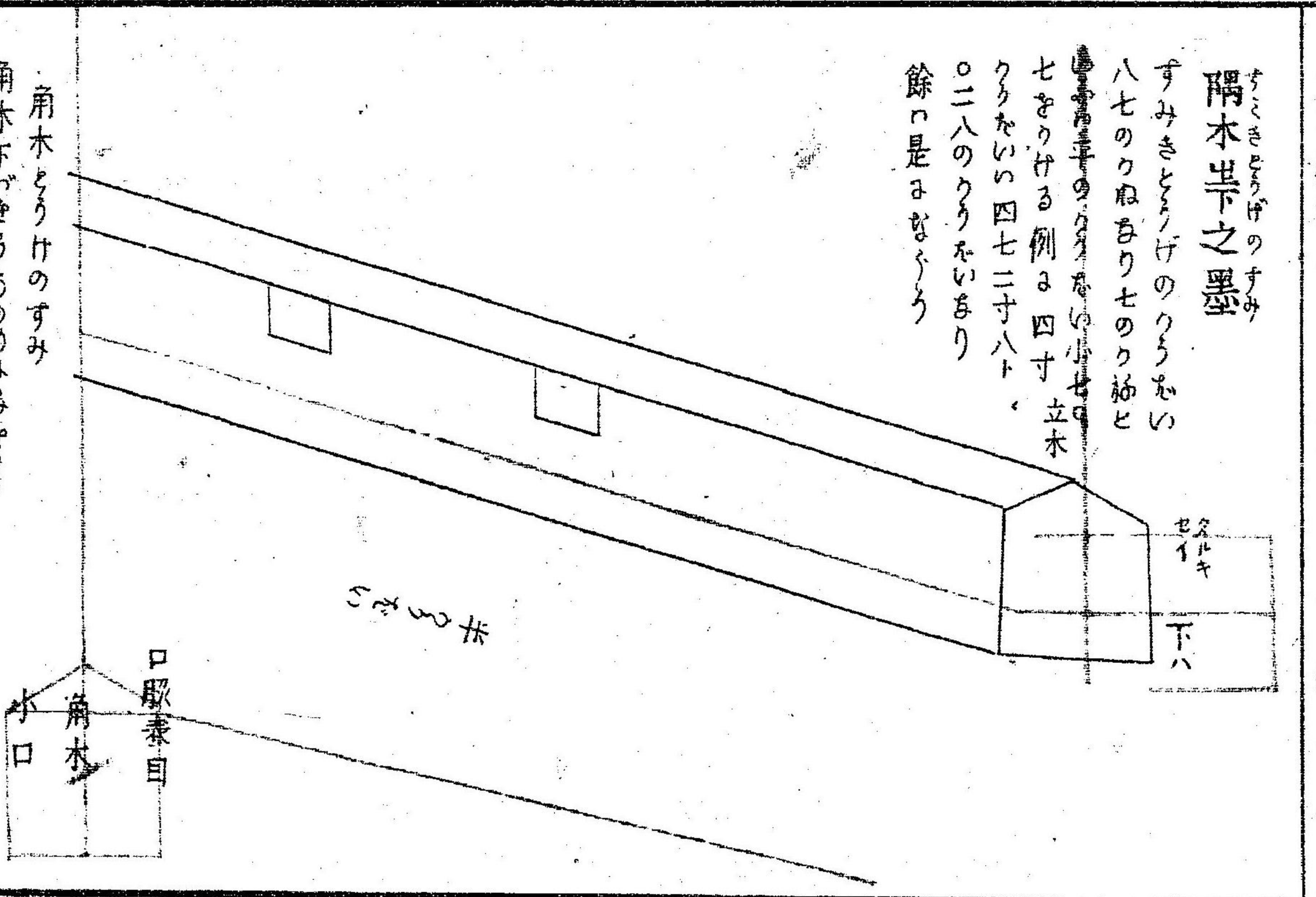
○半のうをい二ところが  
角水指口のすまのを  
りのそと角は角木下  
をいど當り半のうをい  
みてまきの角造引上  
まきの角より内の角  
造半のうをいにて引  
上指口すまをあこ  
るあり





### 隅木下之墨

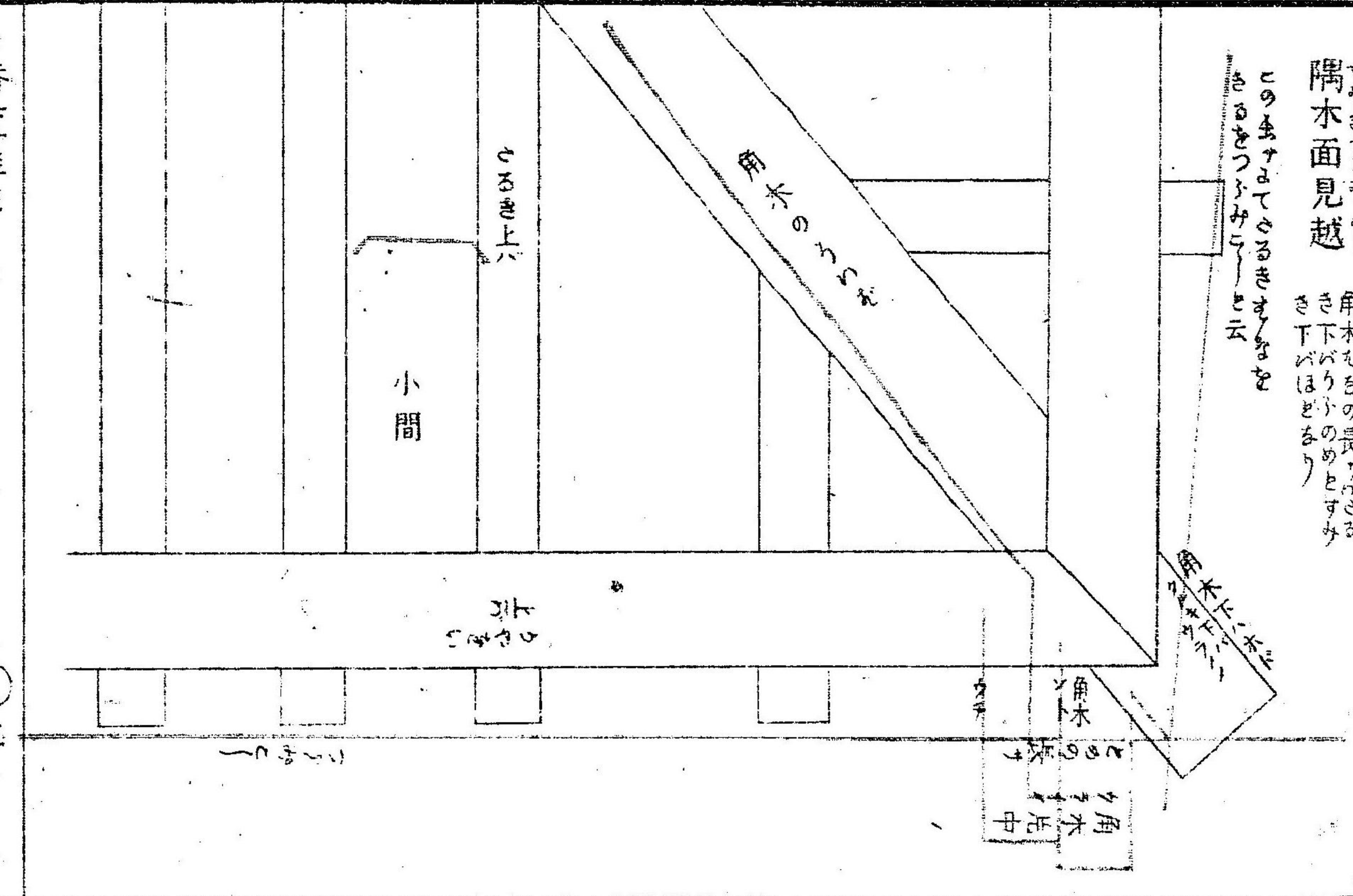
すくきとらげのすみ  
すみきとらげのくうない  
八七のりぬまり七のりぬと  
七さりける例は四寸立木  
くうないの四七二寸八ト  
〇二八のくうないあり  
餘は是をさる



角木とらげのすみ  
角木下びさりのめいさき  
半のりさるて引

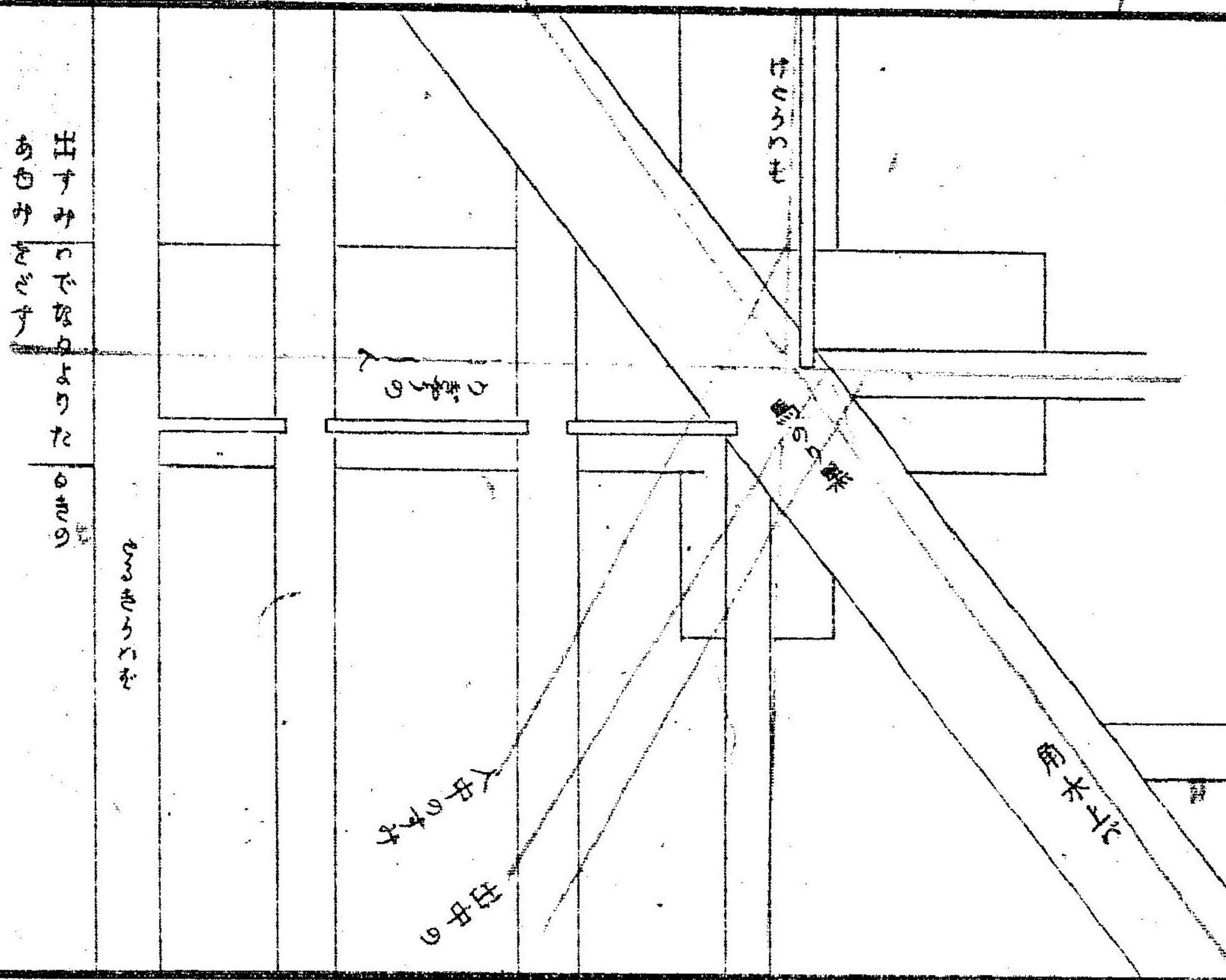
### 隅水面見越

角木をるの長アのさる  
さ下びさりのめとすみ  
さ下はほどさる

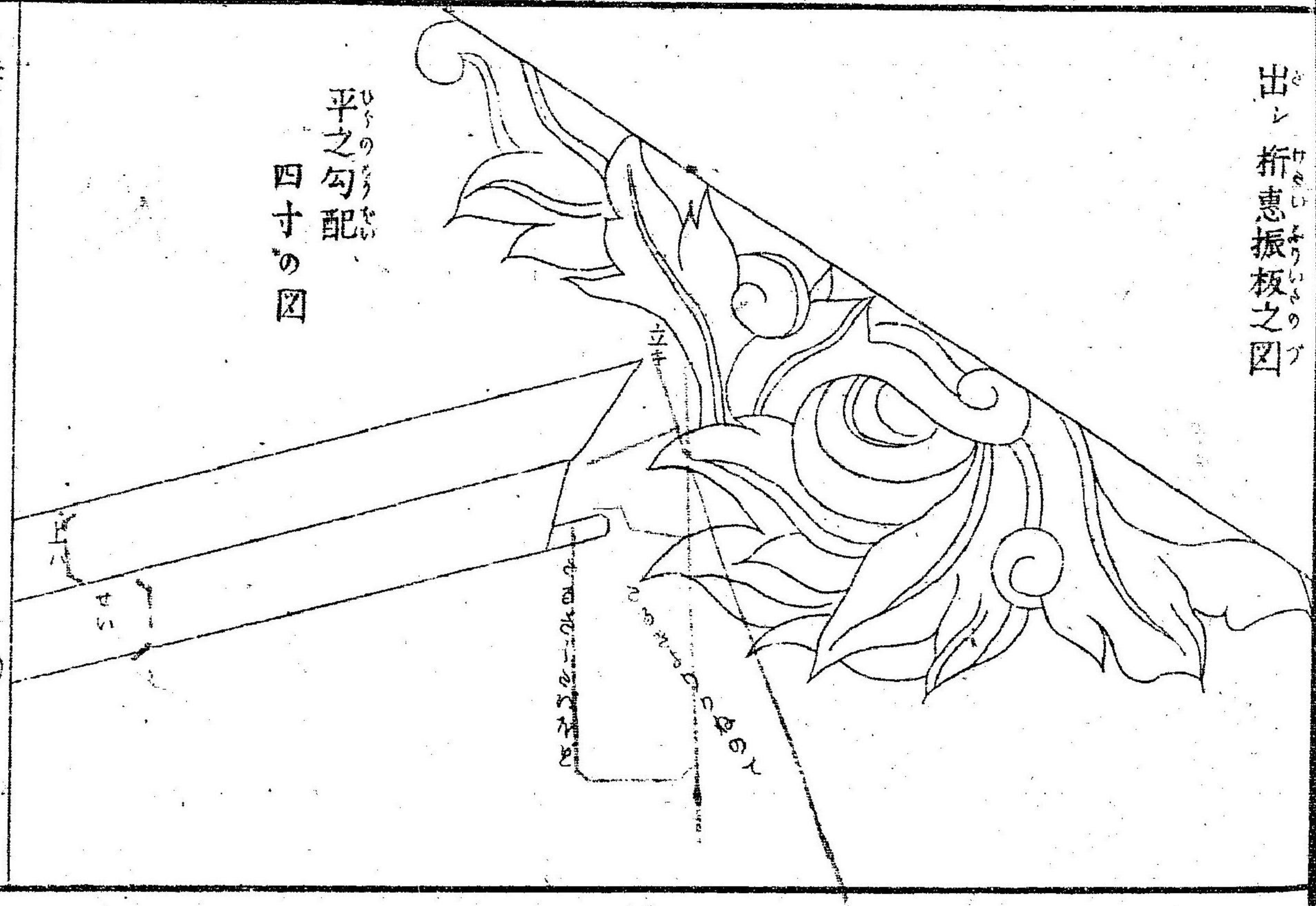




隅 出中人中之圖 光 馬のり墨



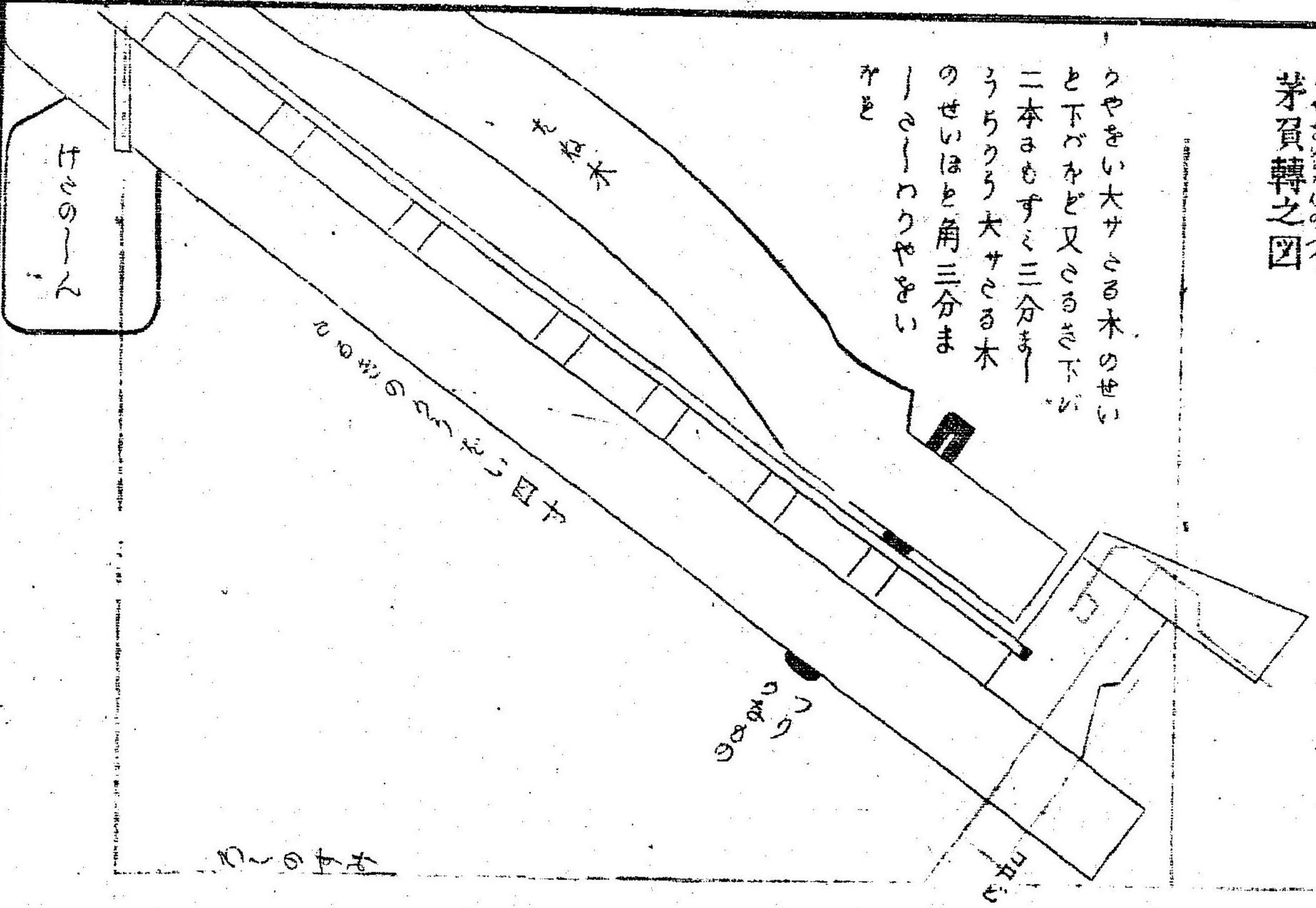
出 折惠振板之圖





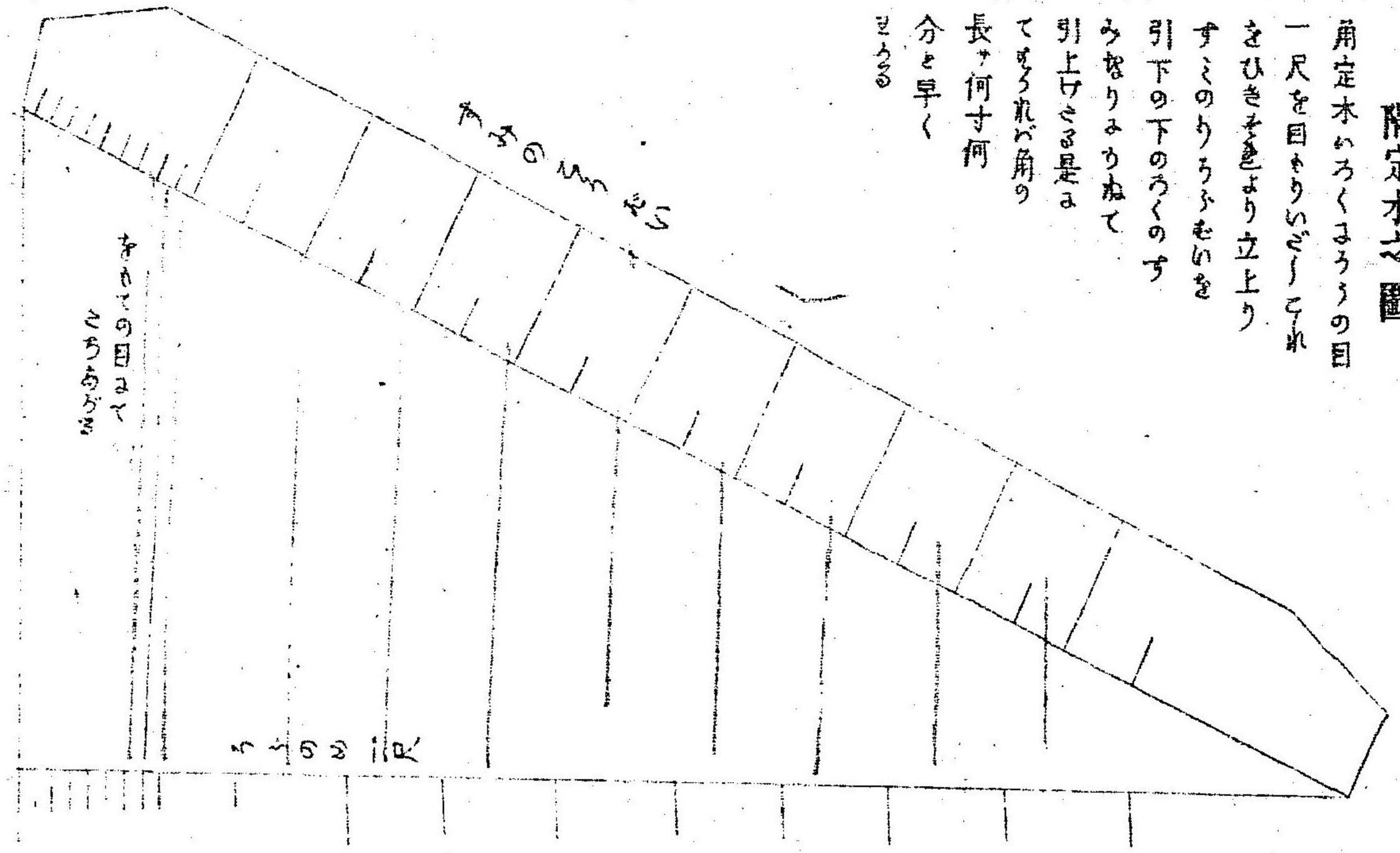
茅負轉之図

ウヤきい大サなる木のせい  
と下ガカど又くるさ下い  
二本もすく三分ま  
うらりう大サなる木  
のせいほと角三分ま  
一〜二ウヤきい  
ヤ



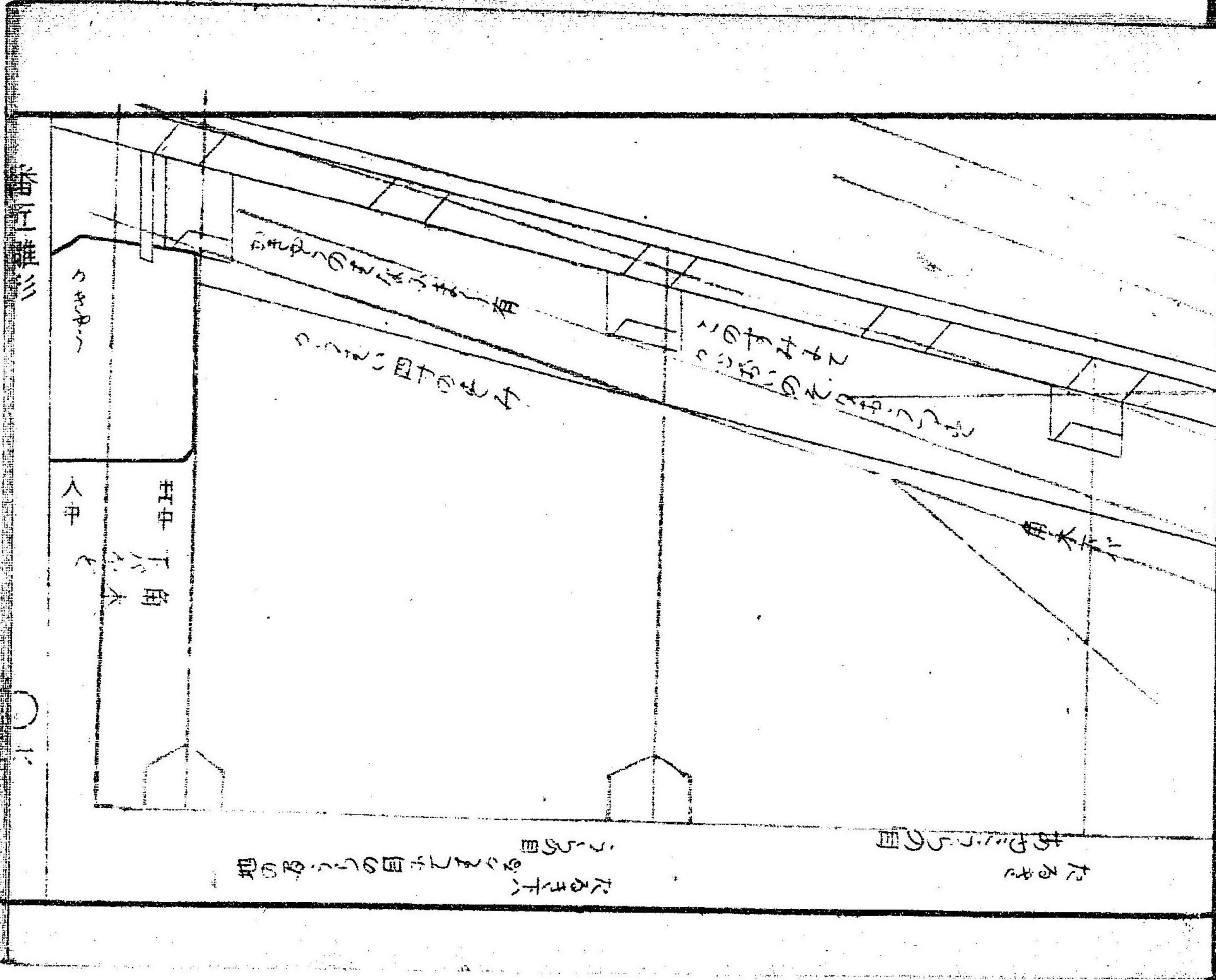
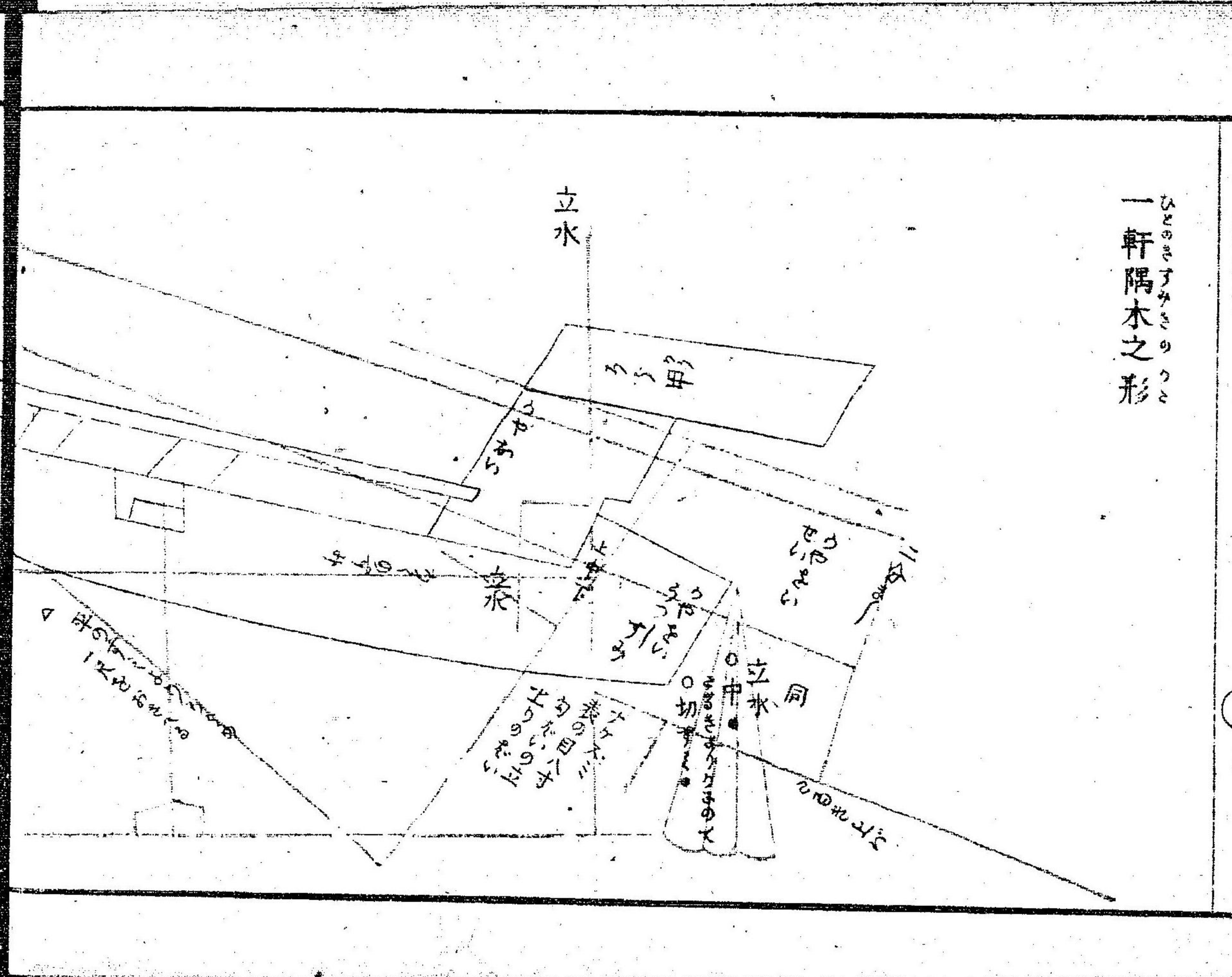
隅定木之圖

隅定木はろくまうろの目  
一尺を回りのいごりこれ  
をひきそきより立上り  
すくのりうすむいを  
引下の下のろくのす  
みなりまうねて  
引上げさる是は  
てまうねの角の  
長々何寸何  
分と早く  
まうね



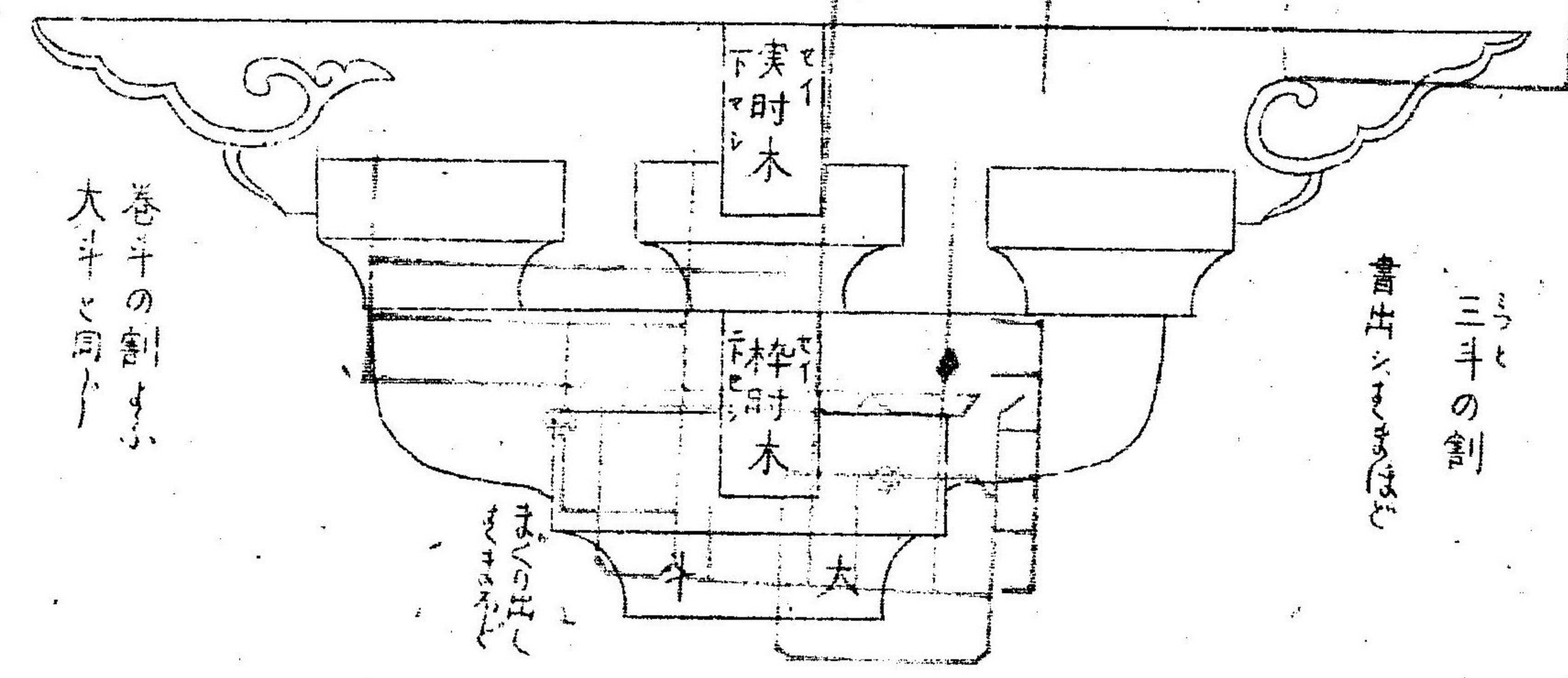


一軒隅木之形





長ハ拾ノ  
割ニシテ六  
ツセイニサ  
グメル也  
又セツセ  
ニトルモ  
リ毒カザ  
リハ六分  
五分ニモ  
イヲトハ  
モアリミ  
ナ明ニヲ  
ズ

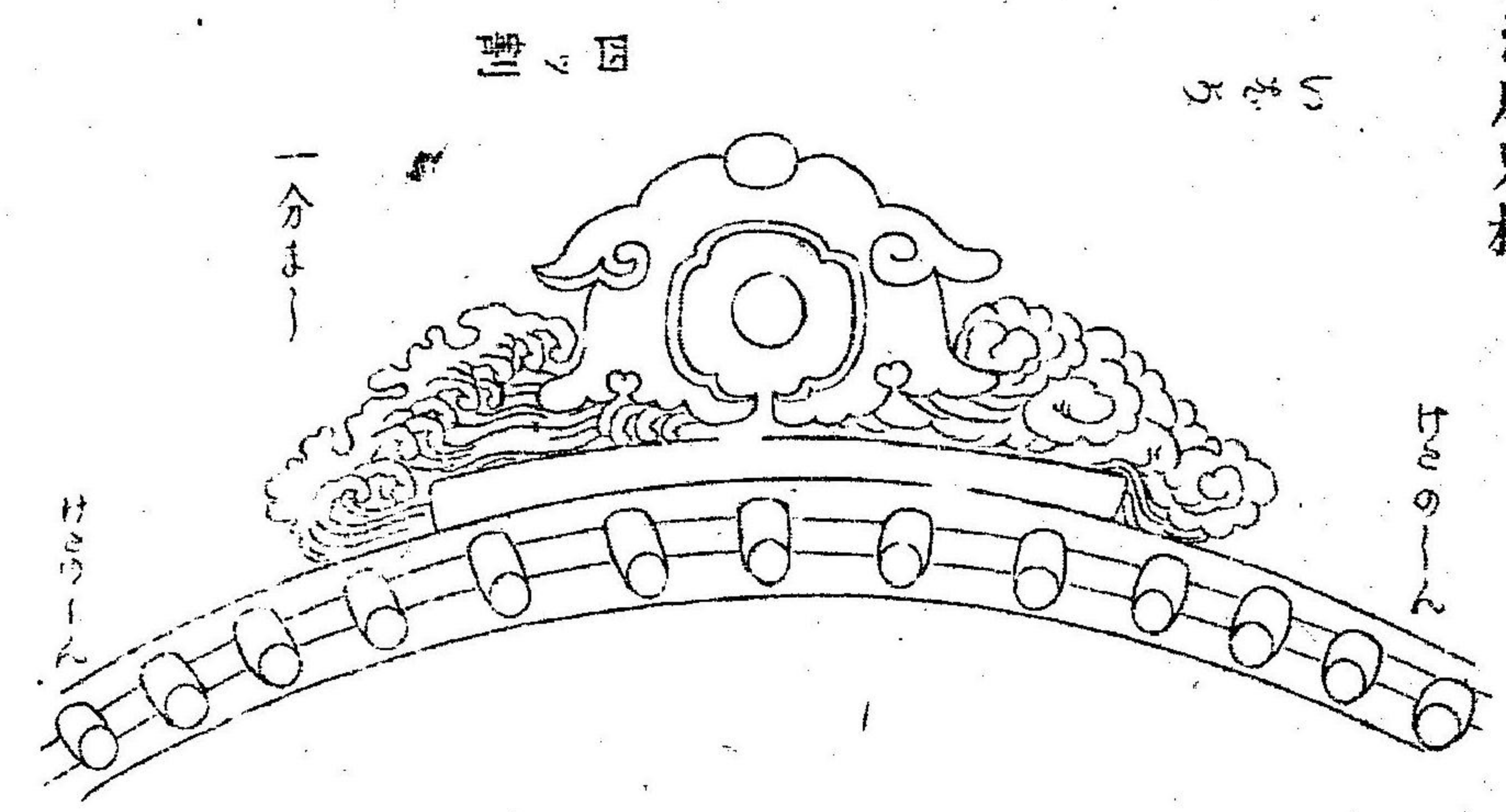


三斗の割  
書出シ

卷斗の割  
大斗と同ト

まへのはく  
まへのはく

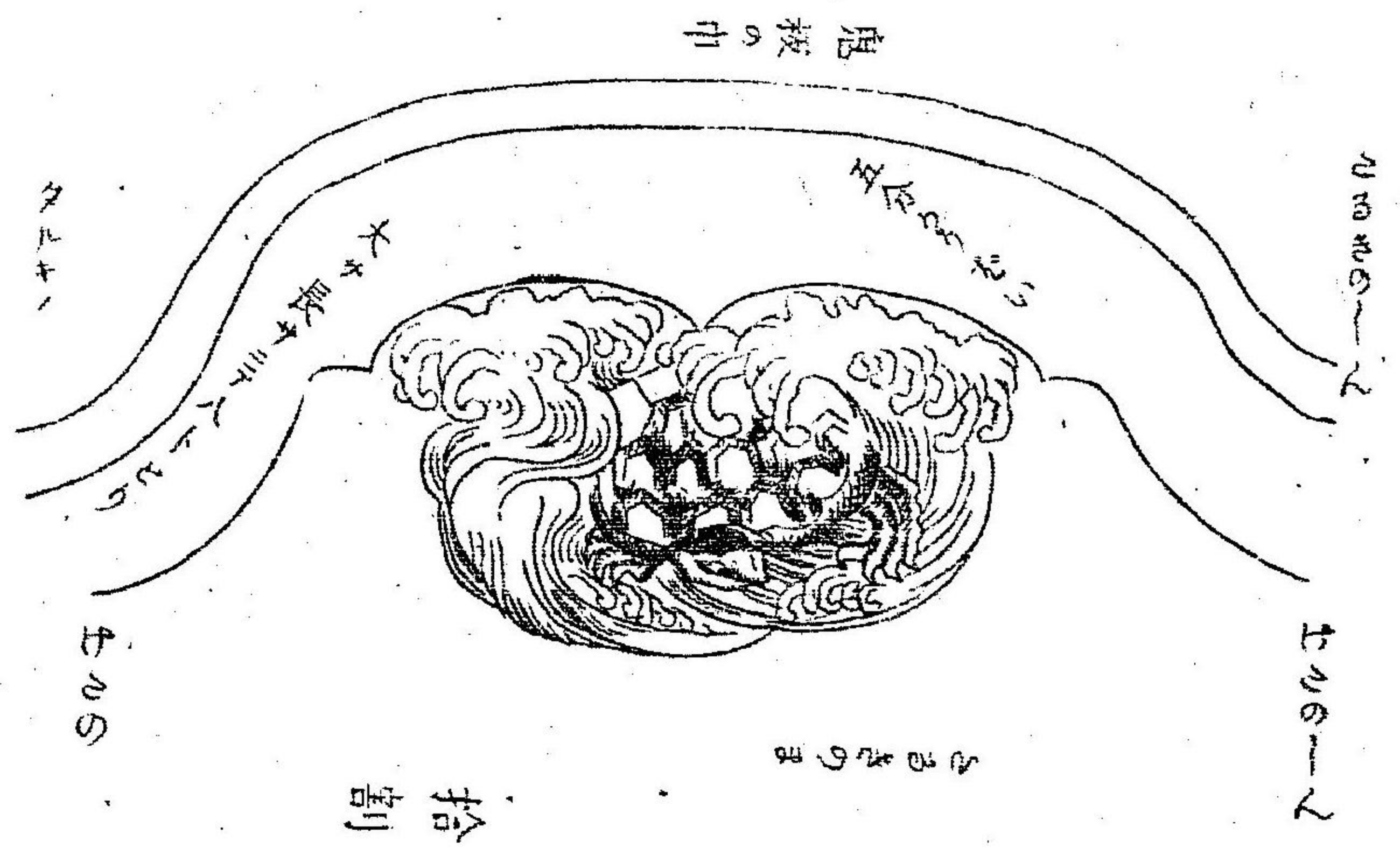
○唐波風鬼板



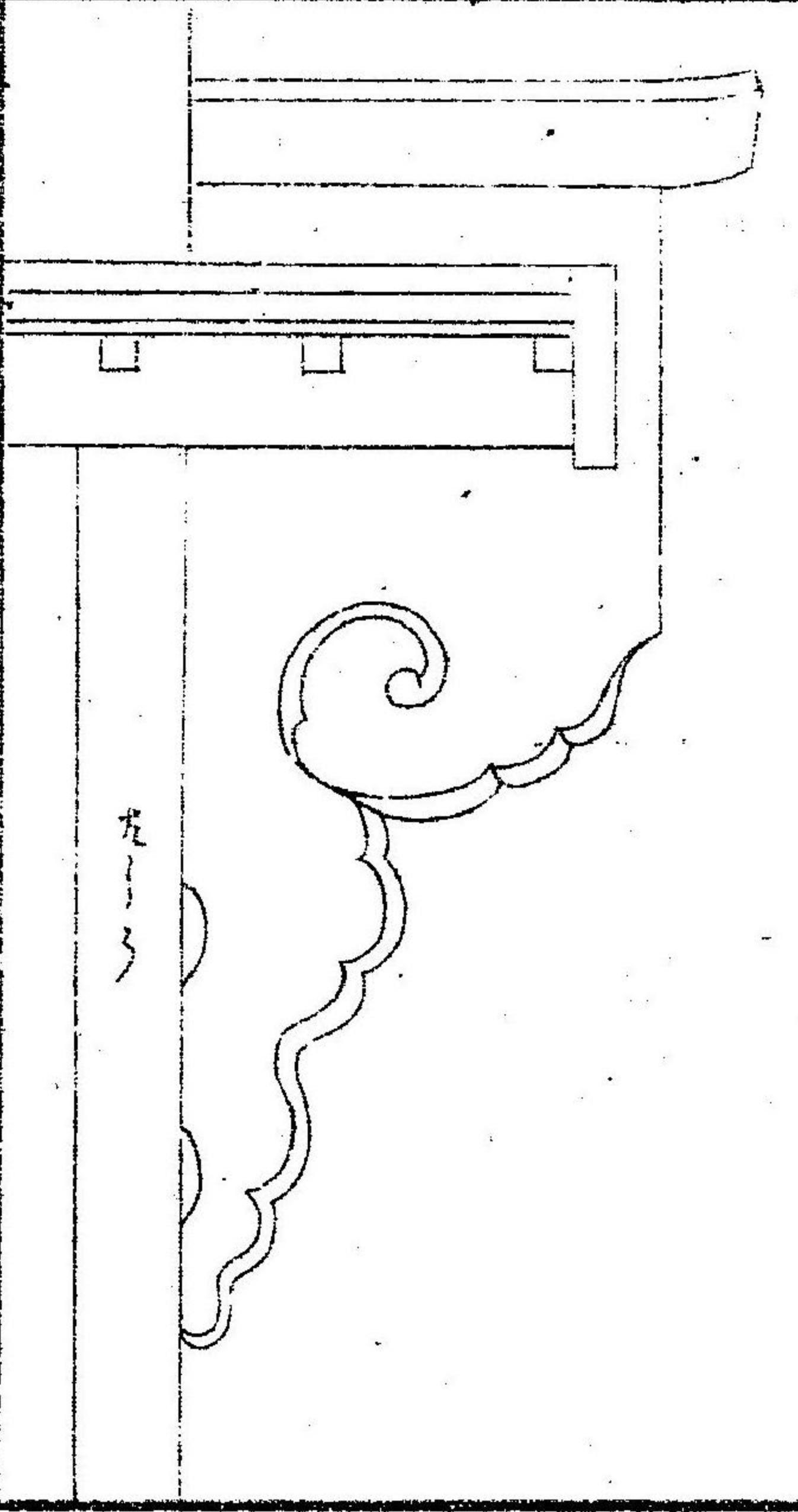
唐波風の斗



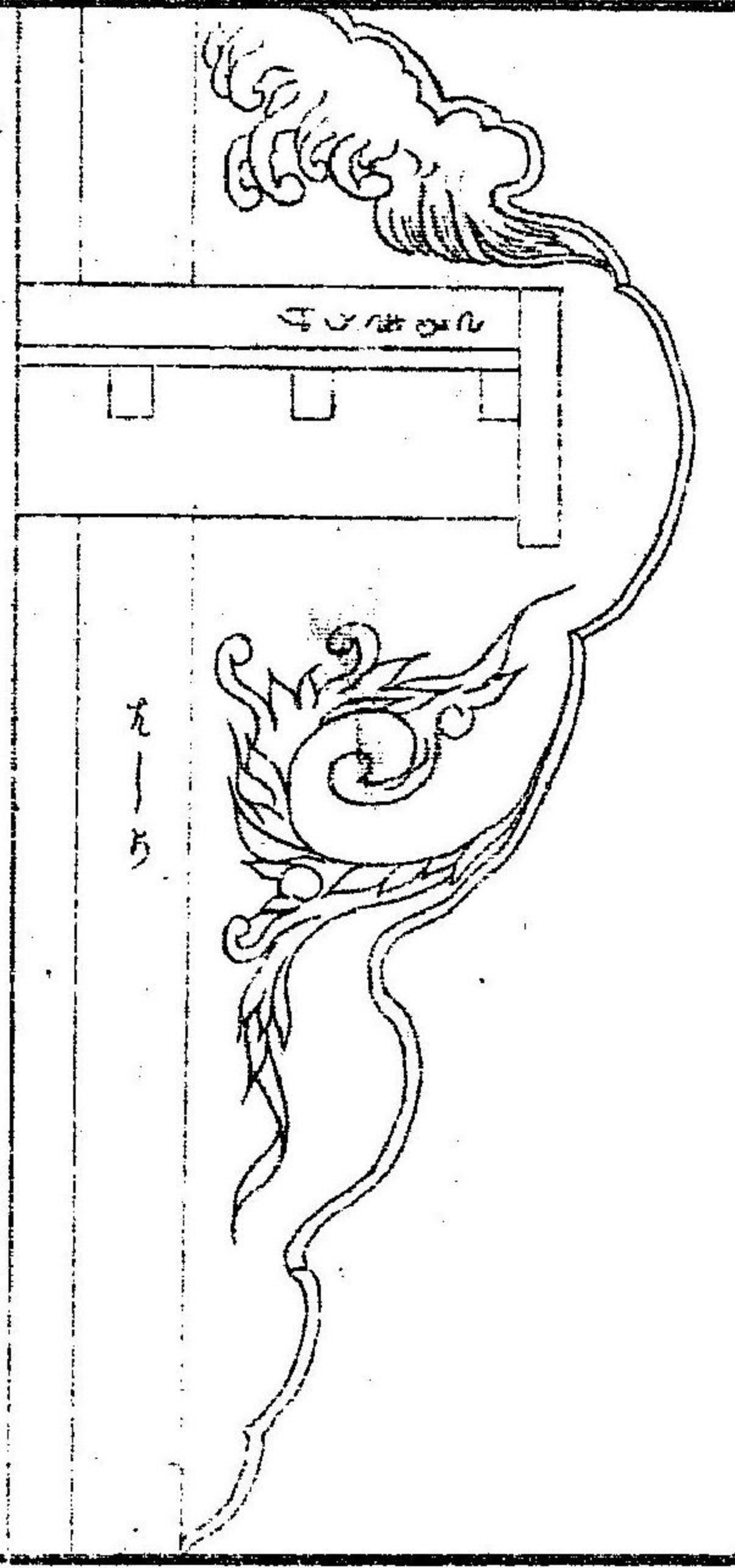
○唐波風懸魚



蝶羽止惠振板  
雲形大なりの圖



惠振板若葉の図



春上世

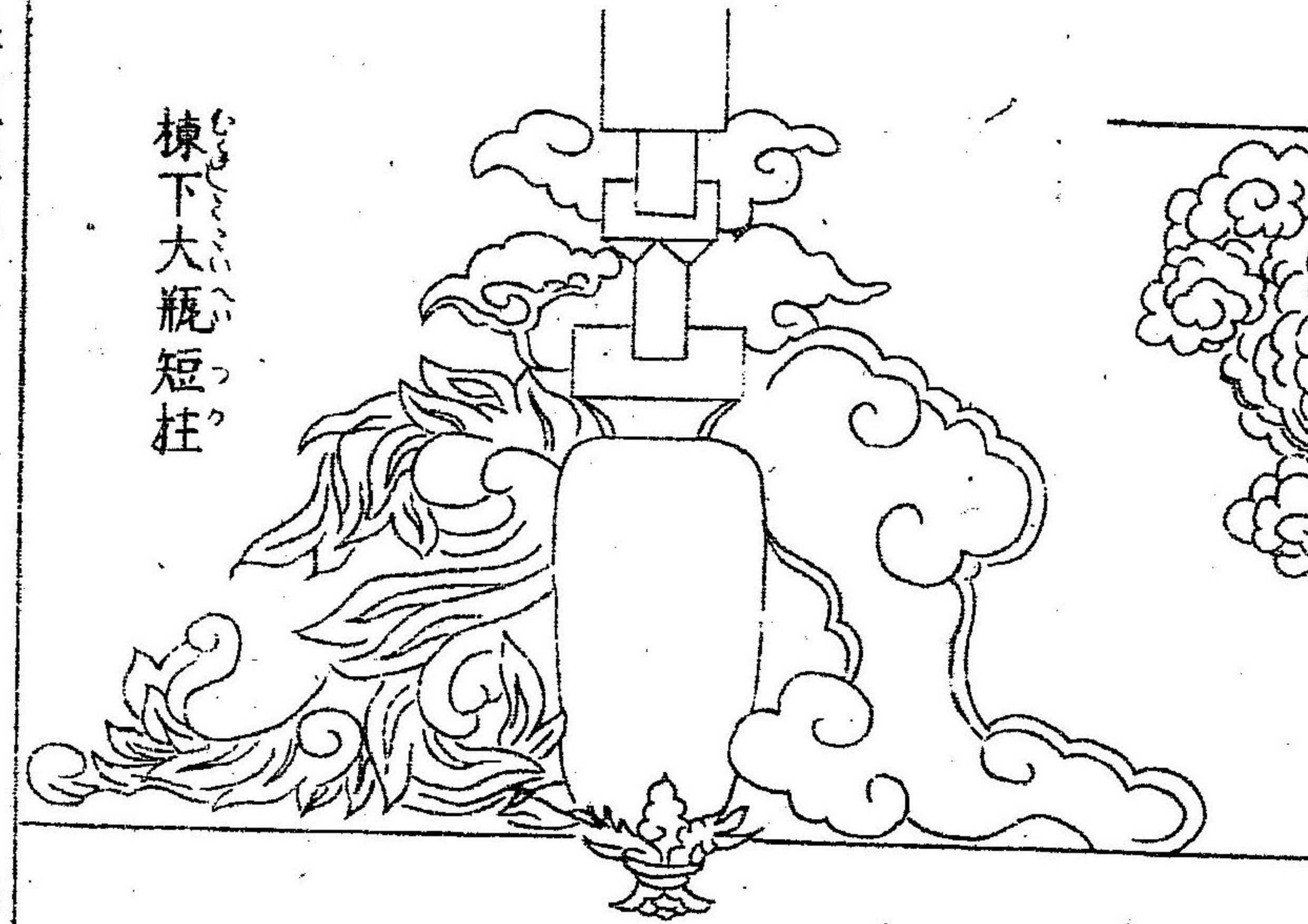
八

春上世

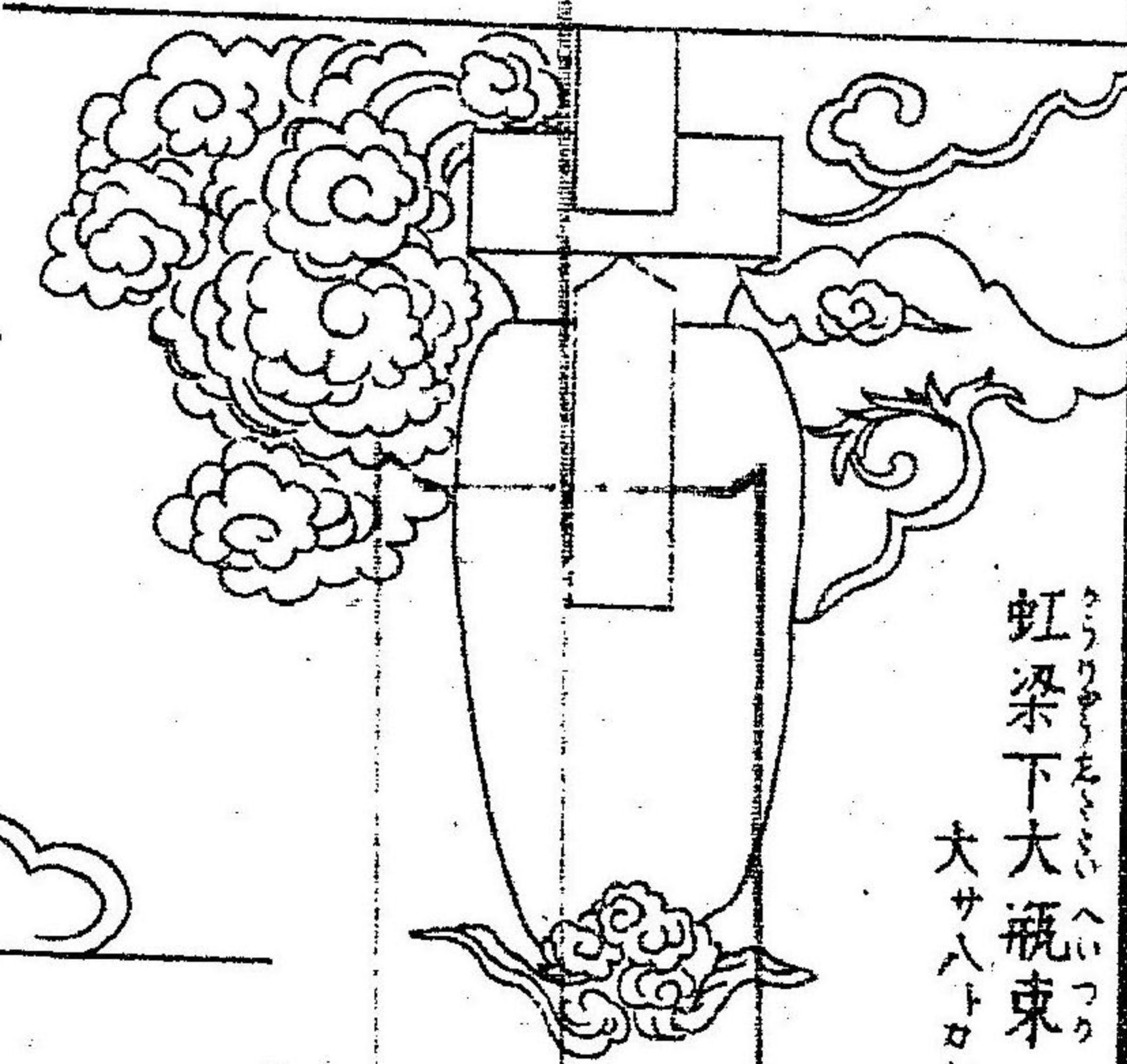
八



棟下大瓶短柱



大サ  
八分

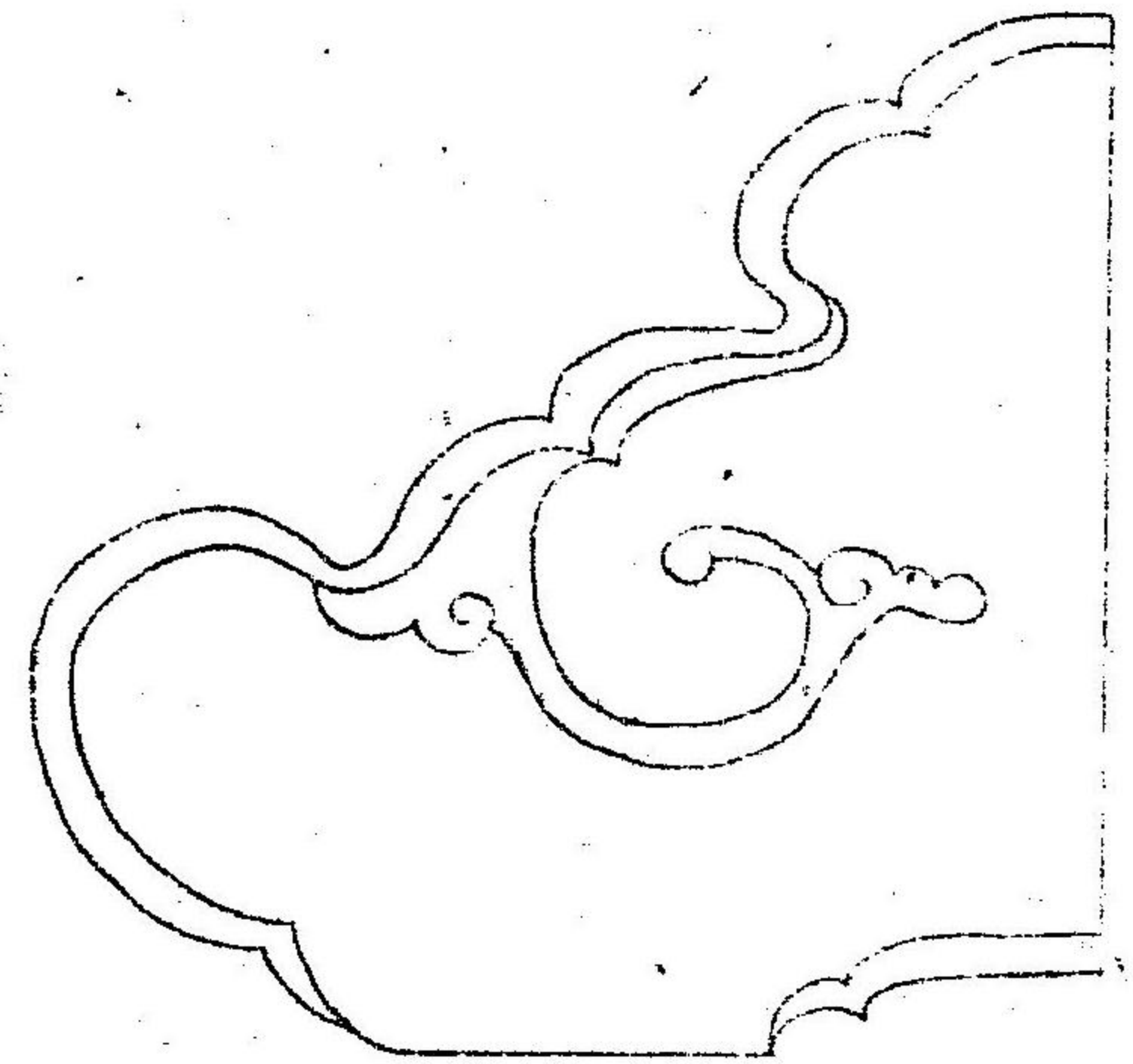


虹梁下大瓶束  
大サ八トカセト

惠夫利板雲の圖

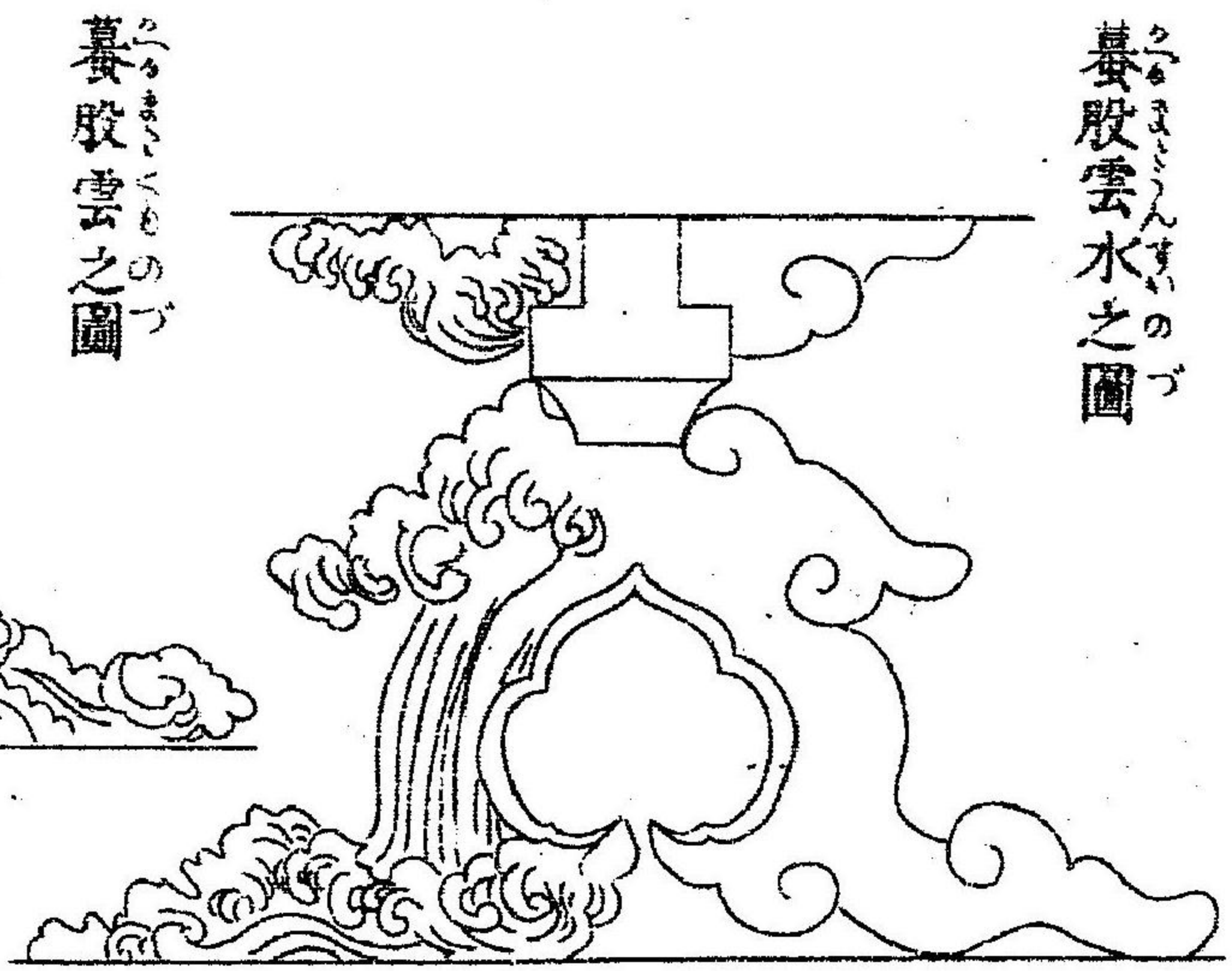


堀惠振板

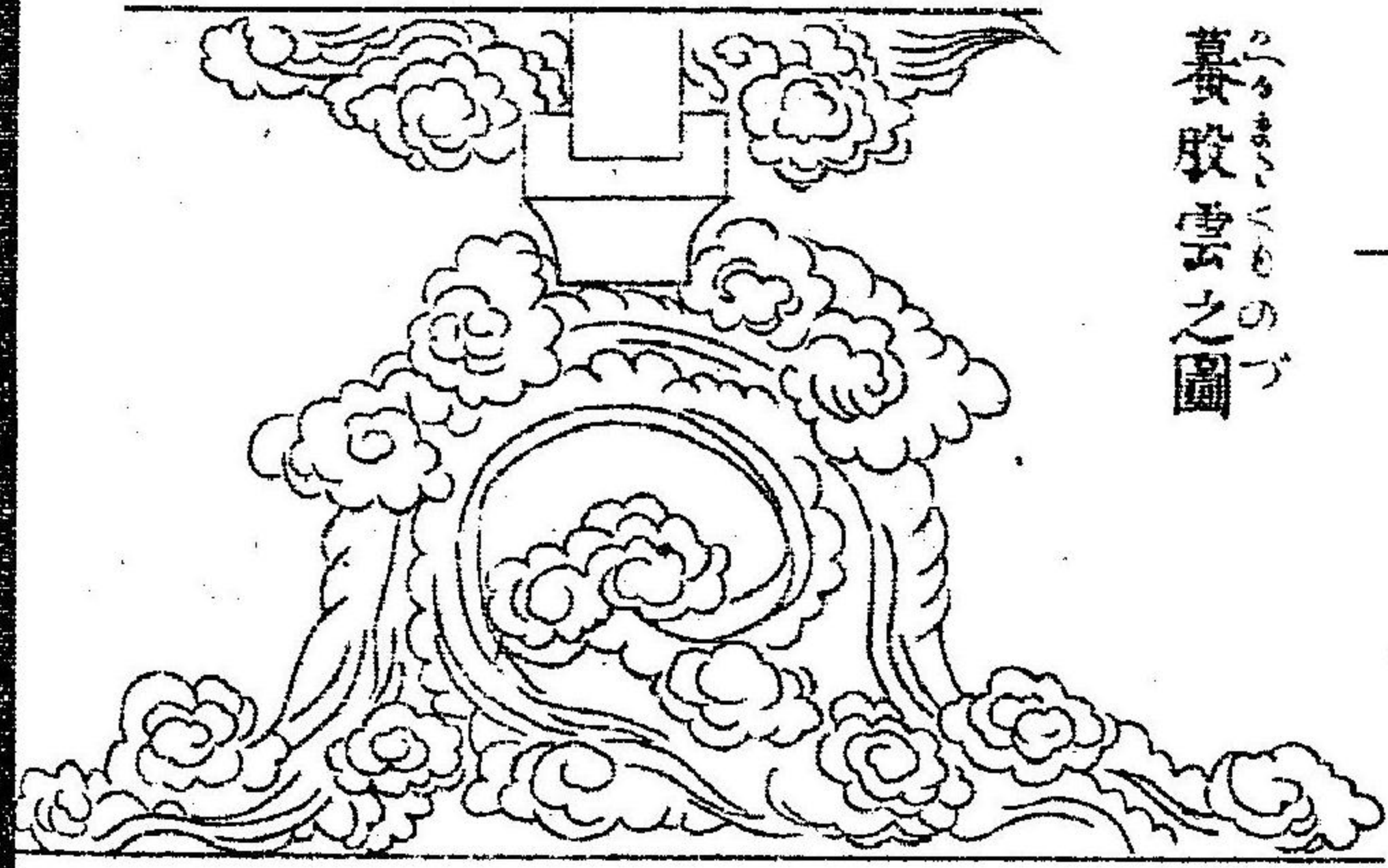




蔓股雲水之圖



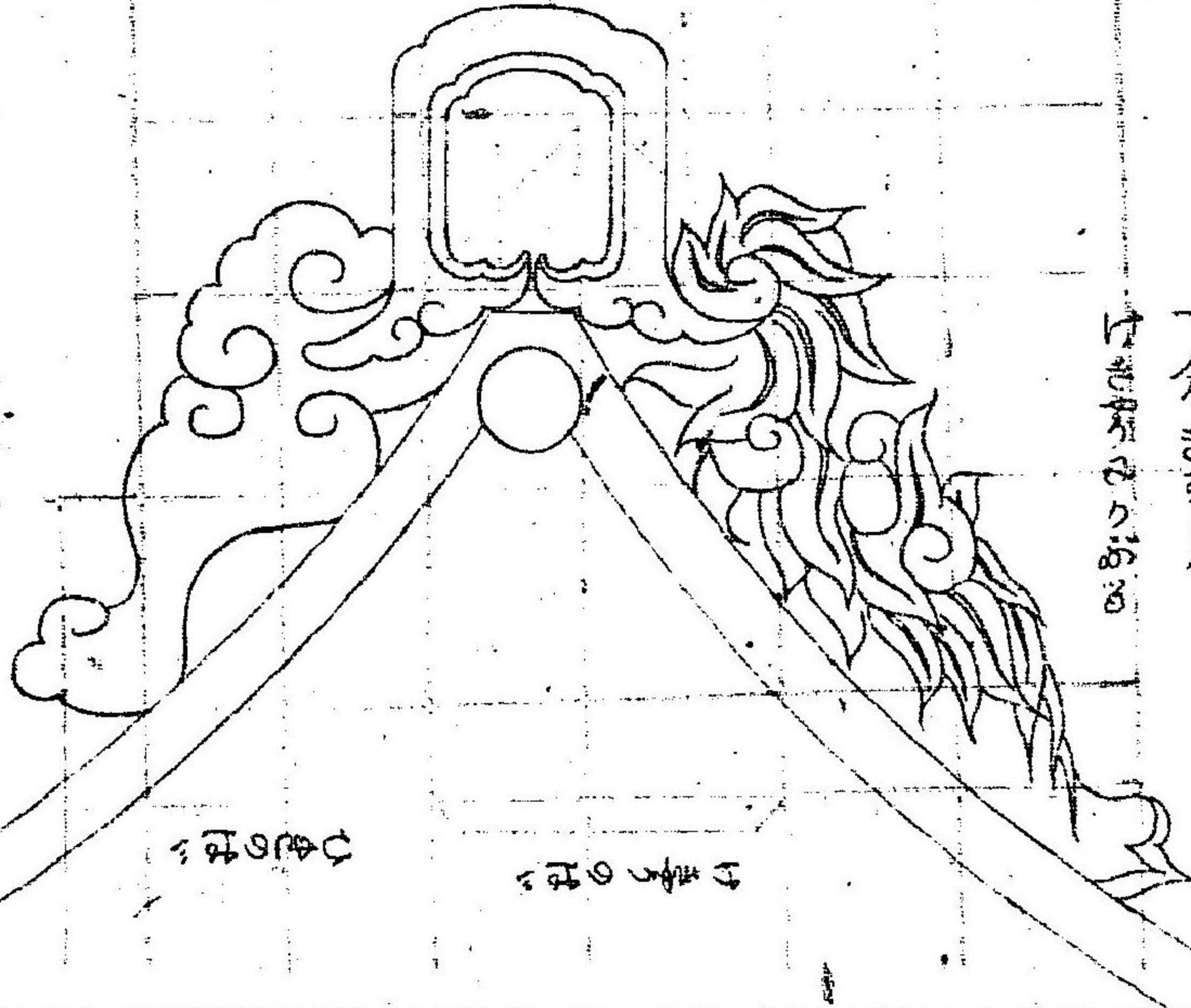
鬼板雲水の圖



鬼板雲水の圖

一分ま

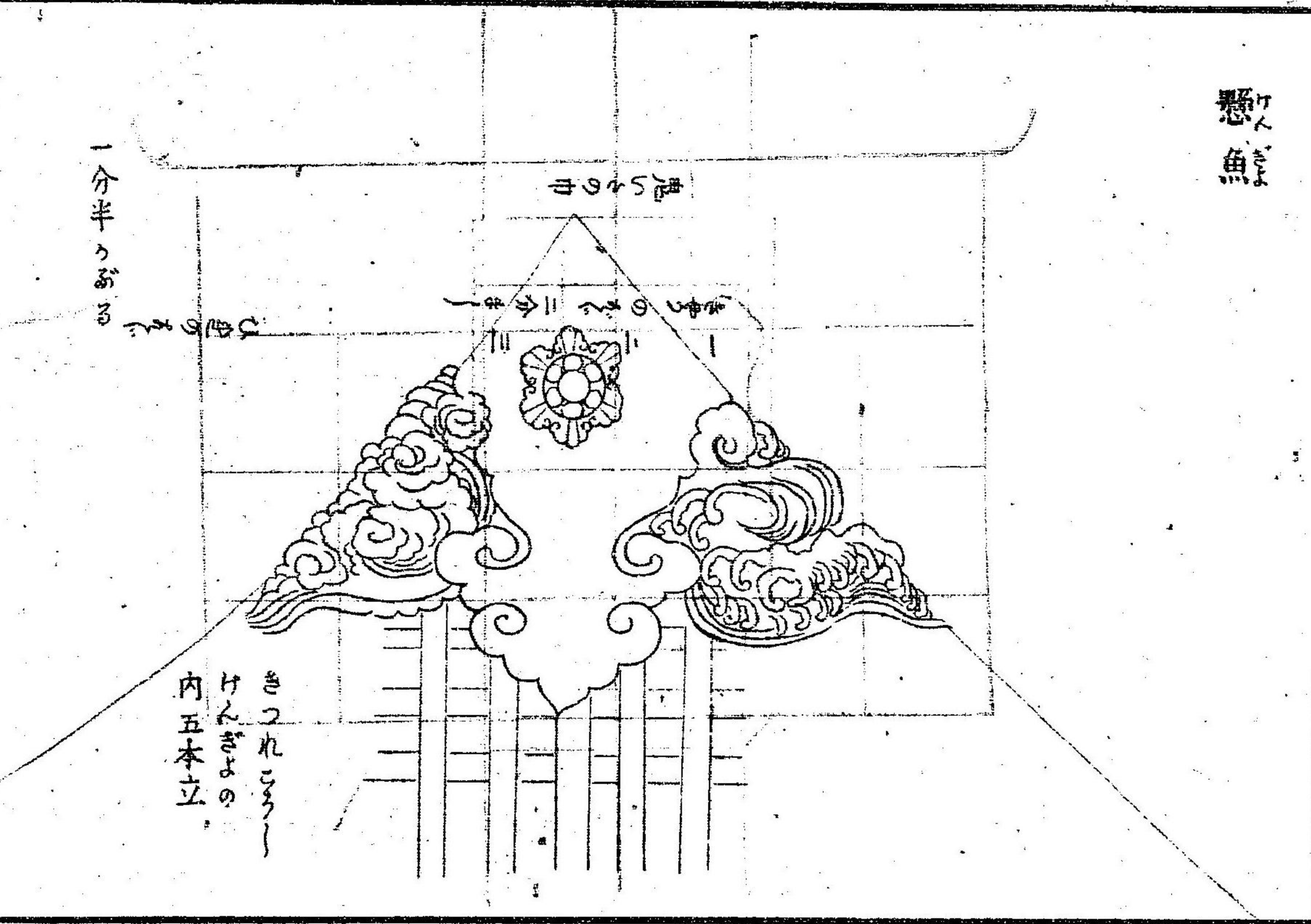
一尺



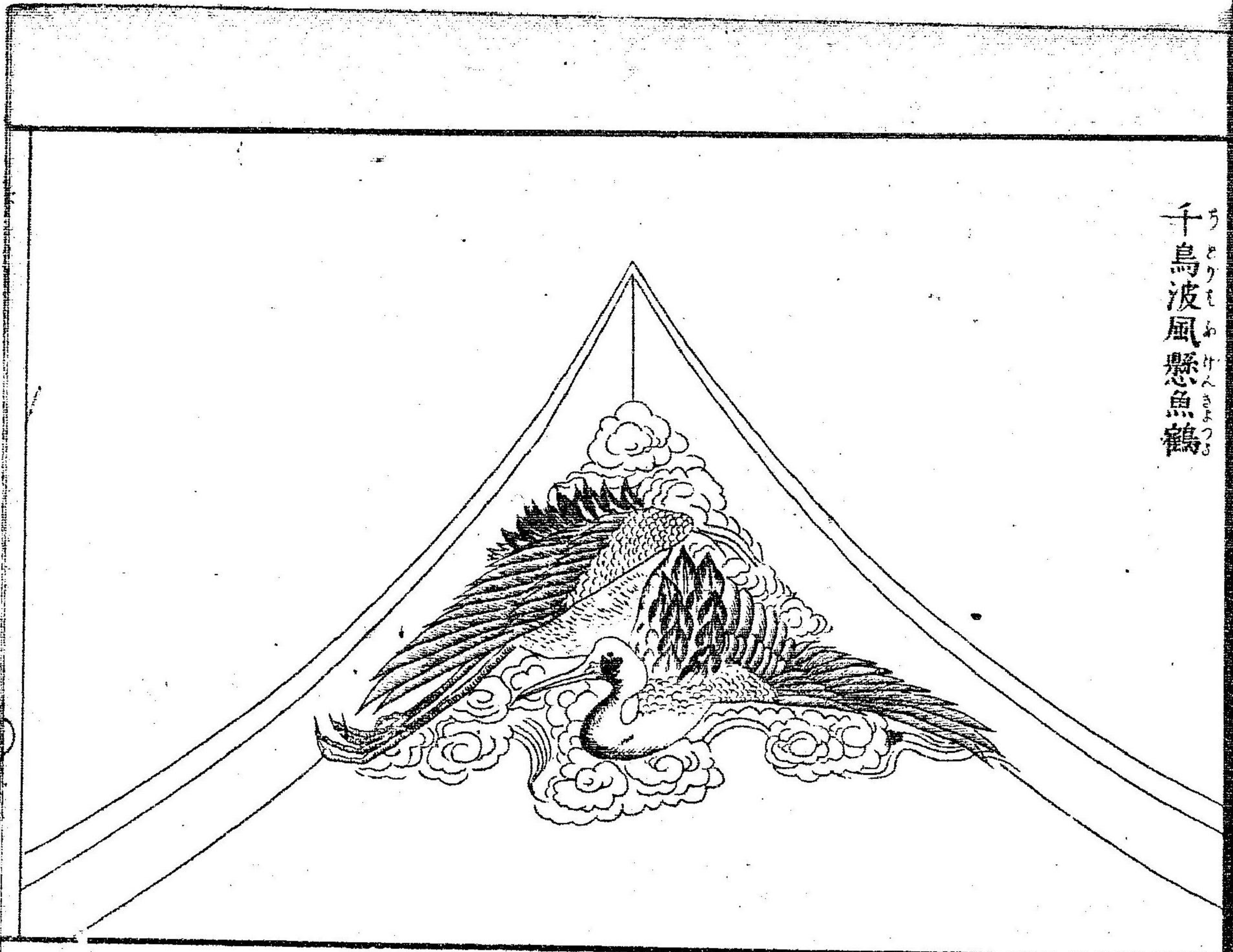
外の大ナ波風のこりやど



懸魚

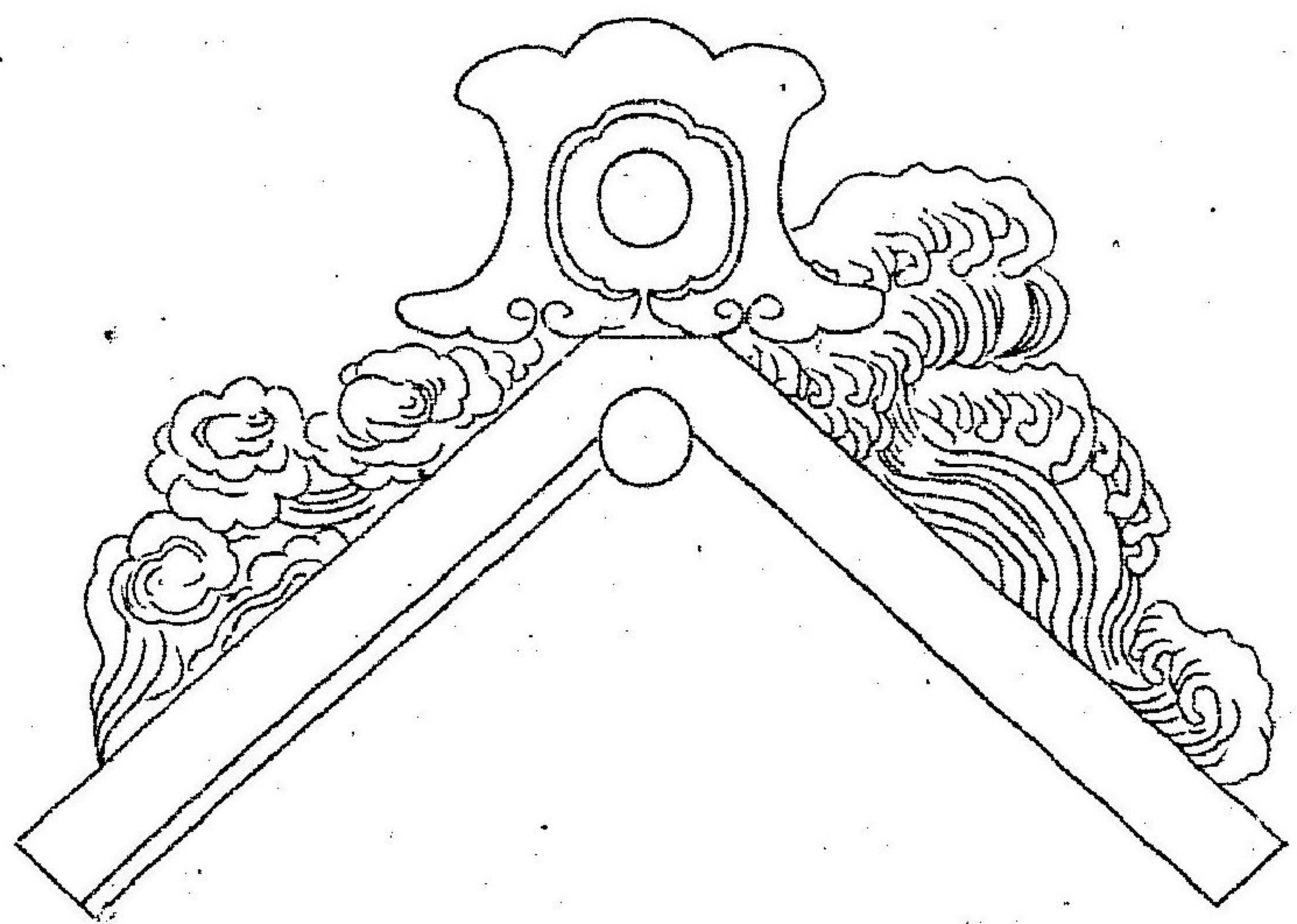


千鳥波風懸魚鶴

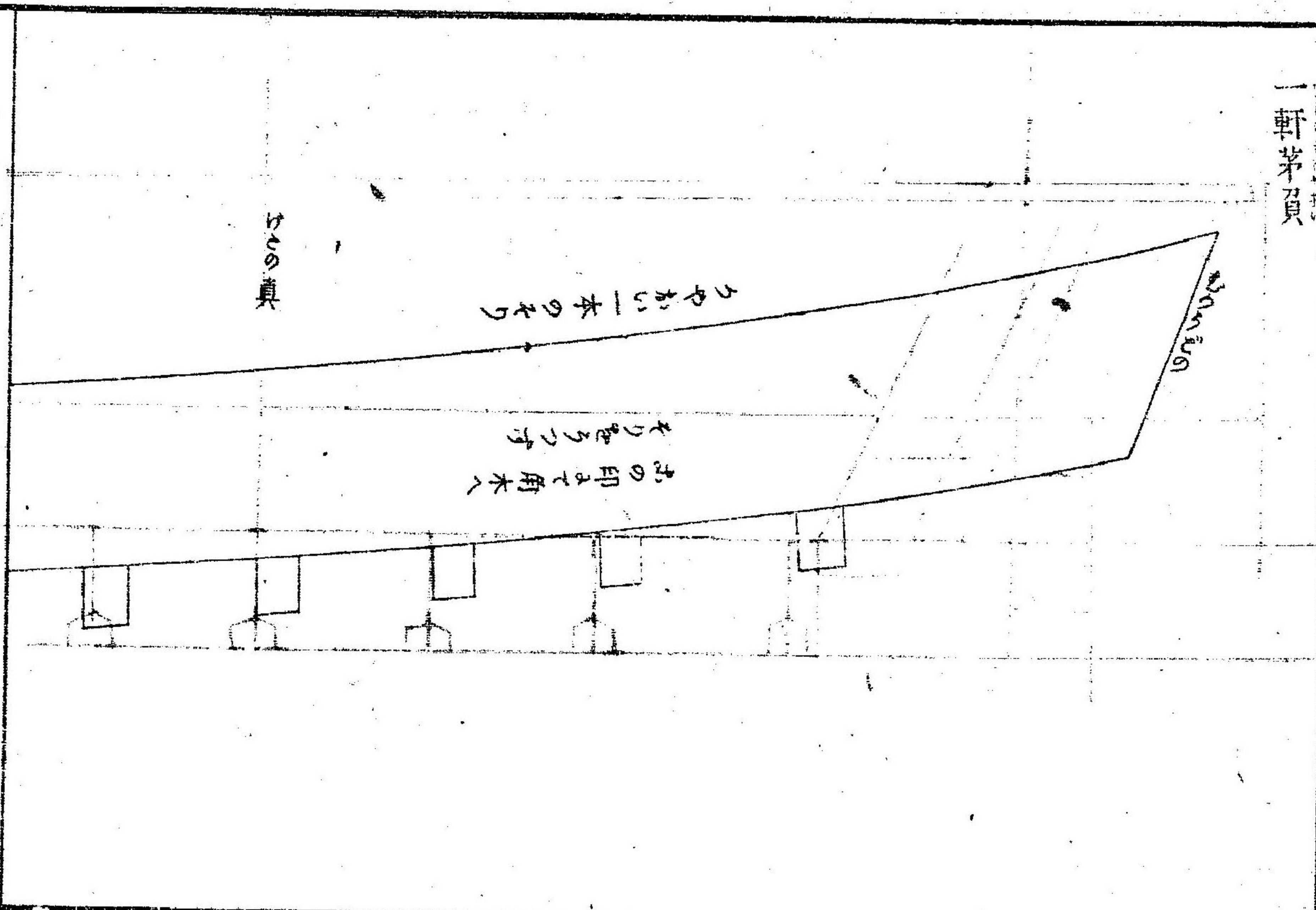




鬼板  
こまいた



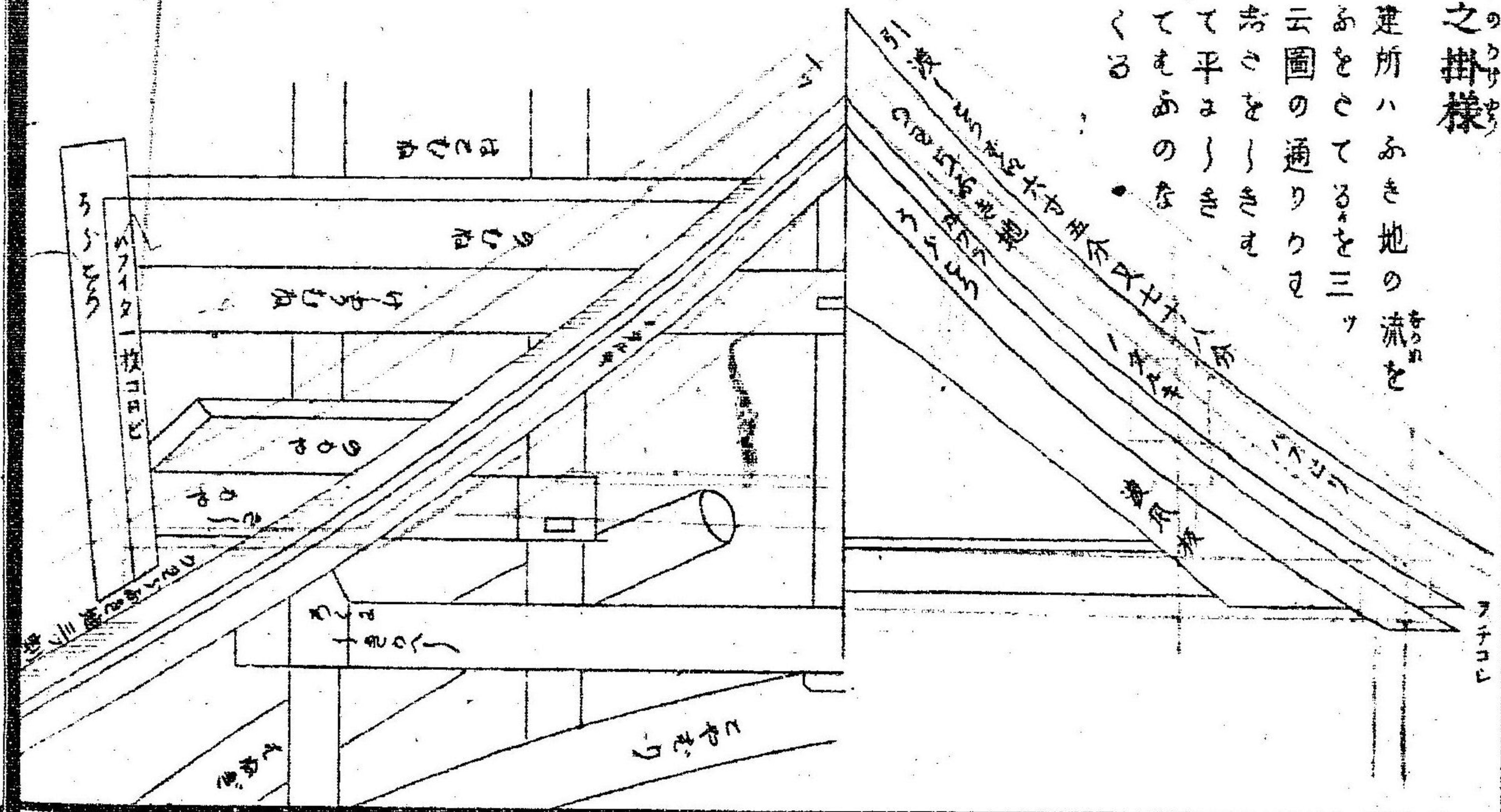
一軒茅瓦  
いっけんぼうわ





妻之掛様

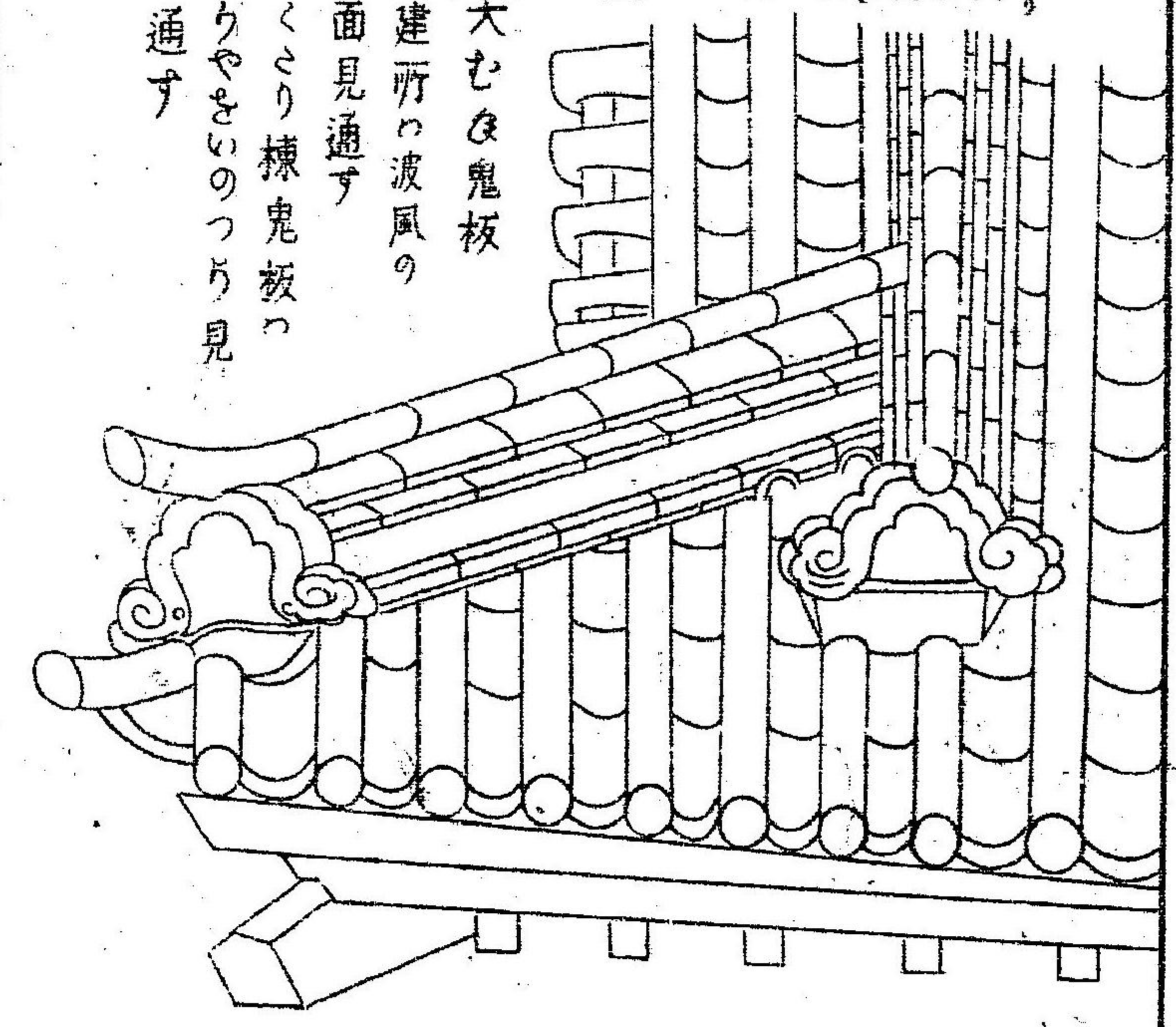
波風の建所ハふき地の流を  
三割をふをこてるを三ッ  
母屋と云圍の通りりま  
ちがききくをくまき  
ふをたて平まうき  
のいしてまあのを  
りをつくる



拾眉りき

七眉りき

降棟軒端ノ図

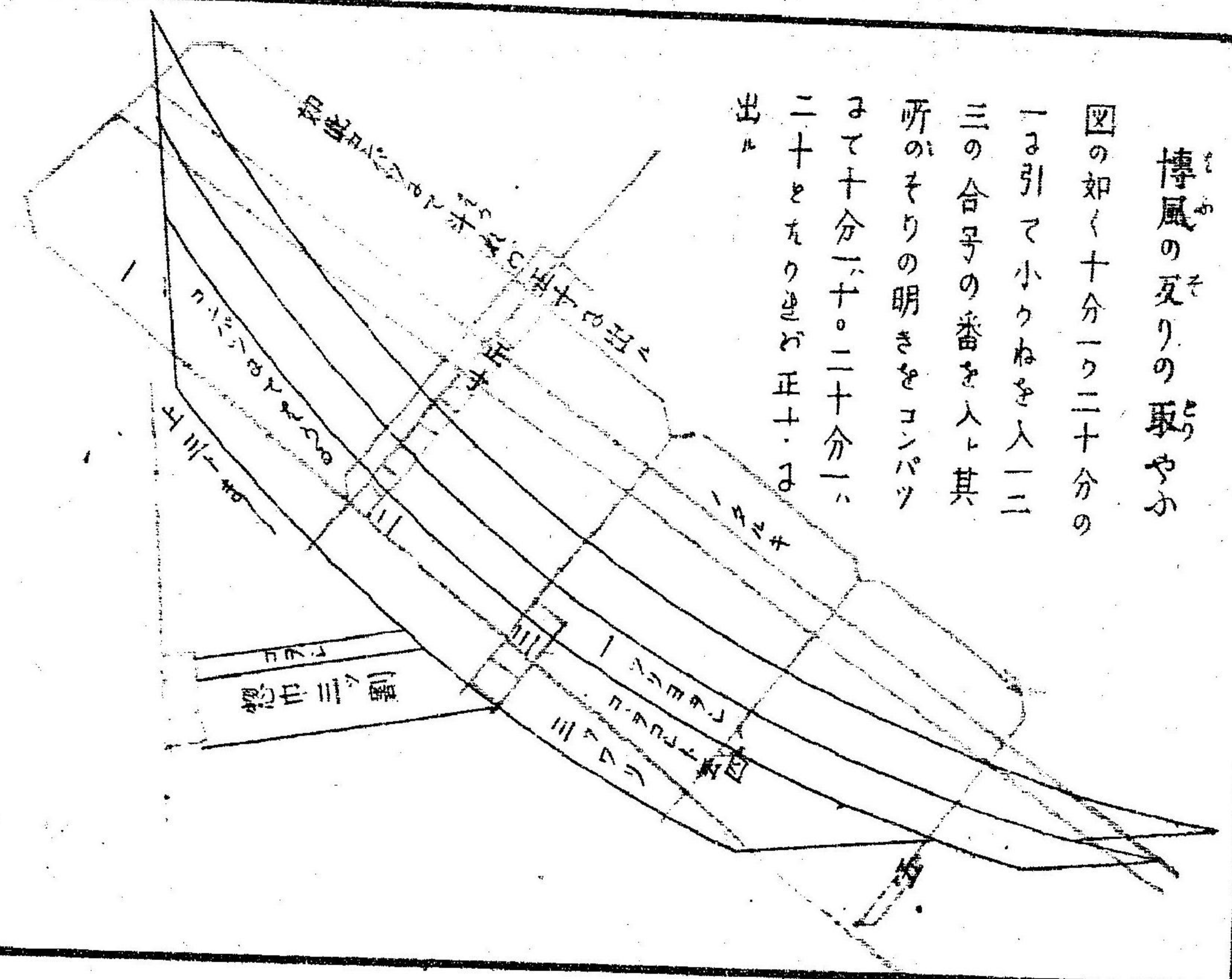


大むら鬼板  
建所ハ波風の  
面見通す  
くさり棟鬼板の  
ウやをいのつり見  
通す



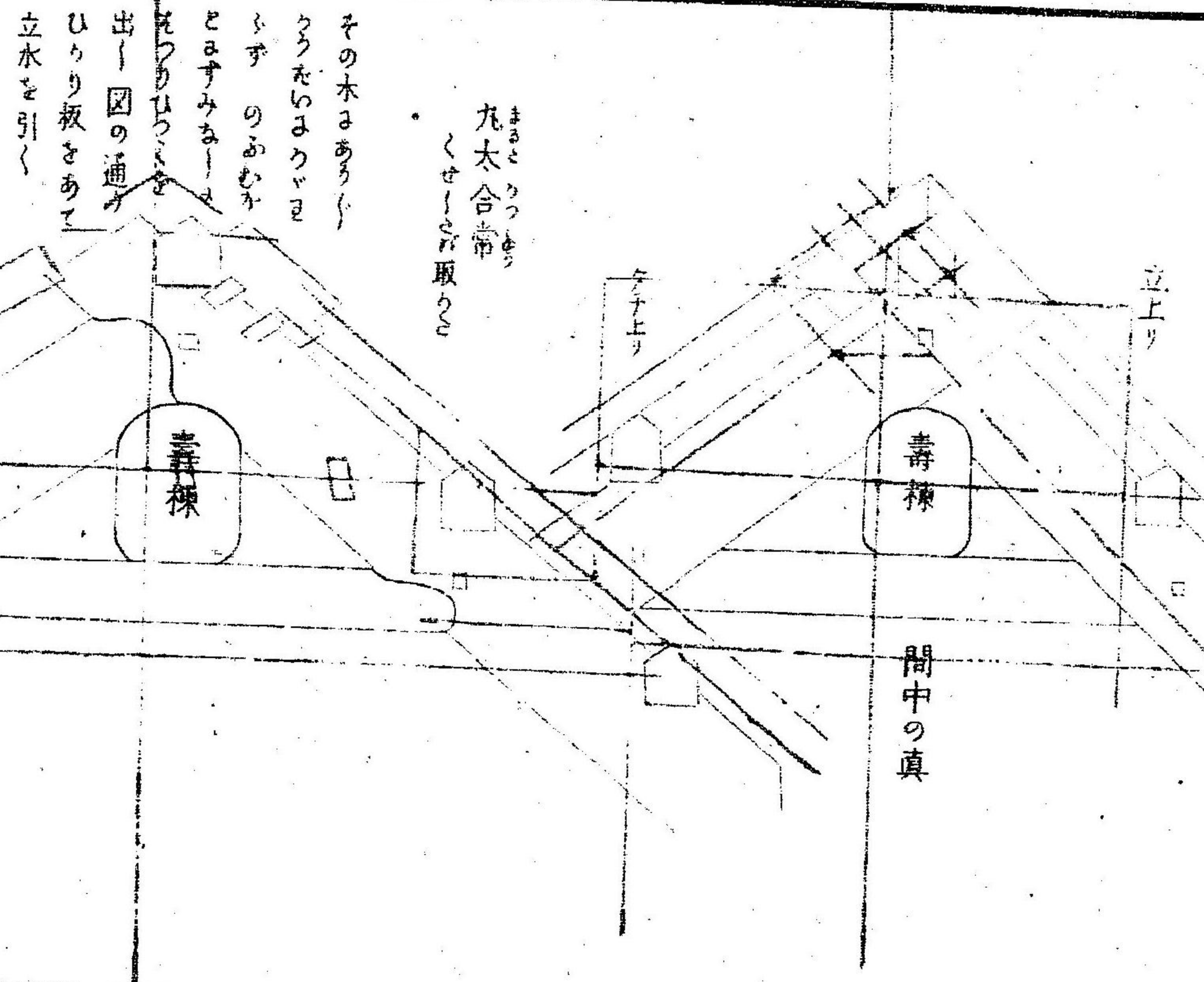
### 博風の反りの取やふ

図の如く十分一ウ二十分の  
 一は引て小ウねを入一ニ  
 三の合子の番を入レ其  
 所のそりの明きをコンパツ  
 まで十分一十。二十分一ハ  
 二十と九り並ぶ正十一ハ  
 出ル



母屋とるくの取りとも同法なり

### 合常之圖

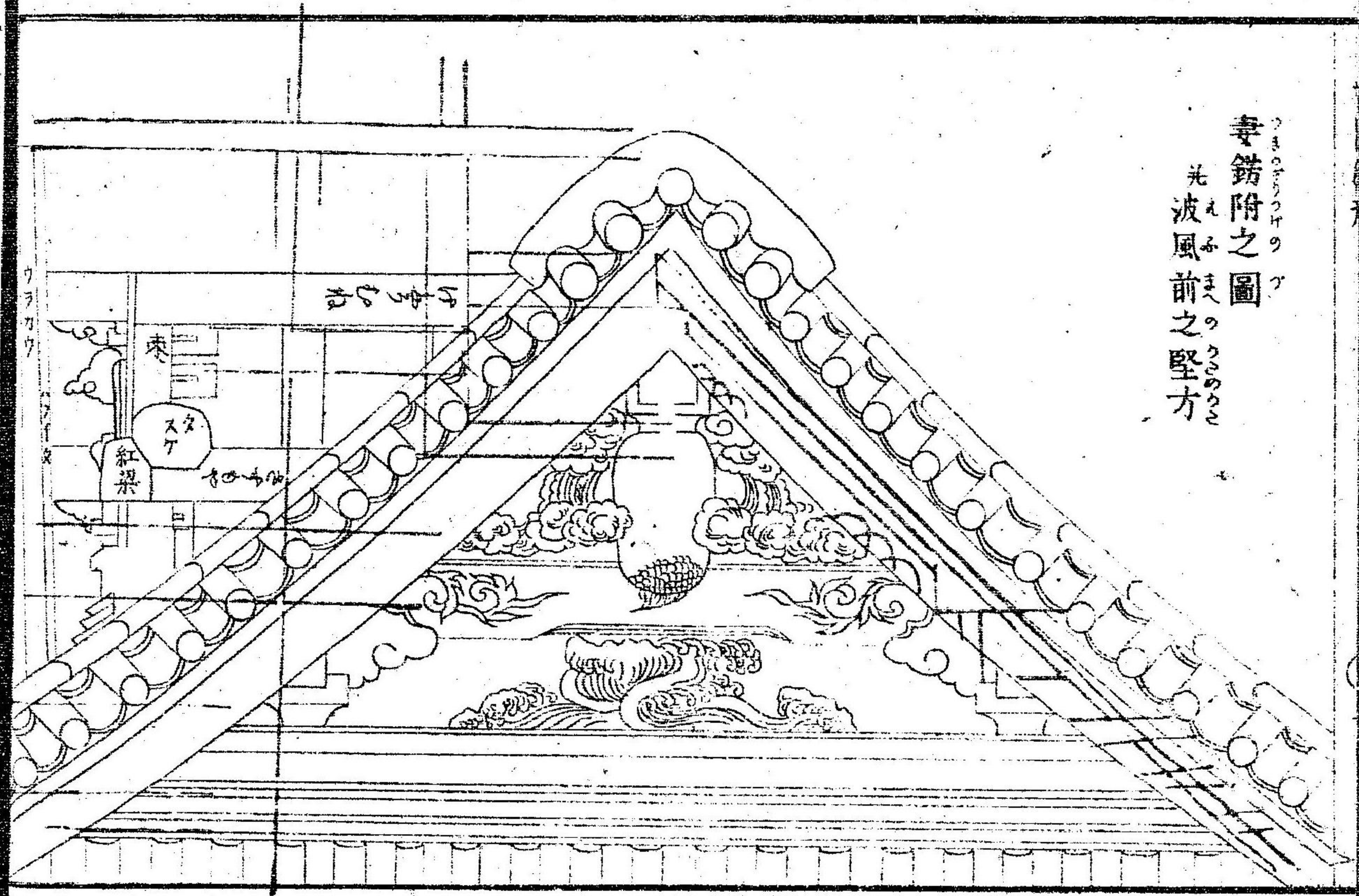


丸太合常  
 くせしと取りと

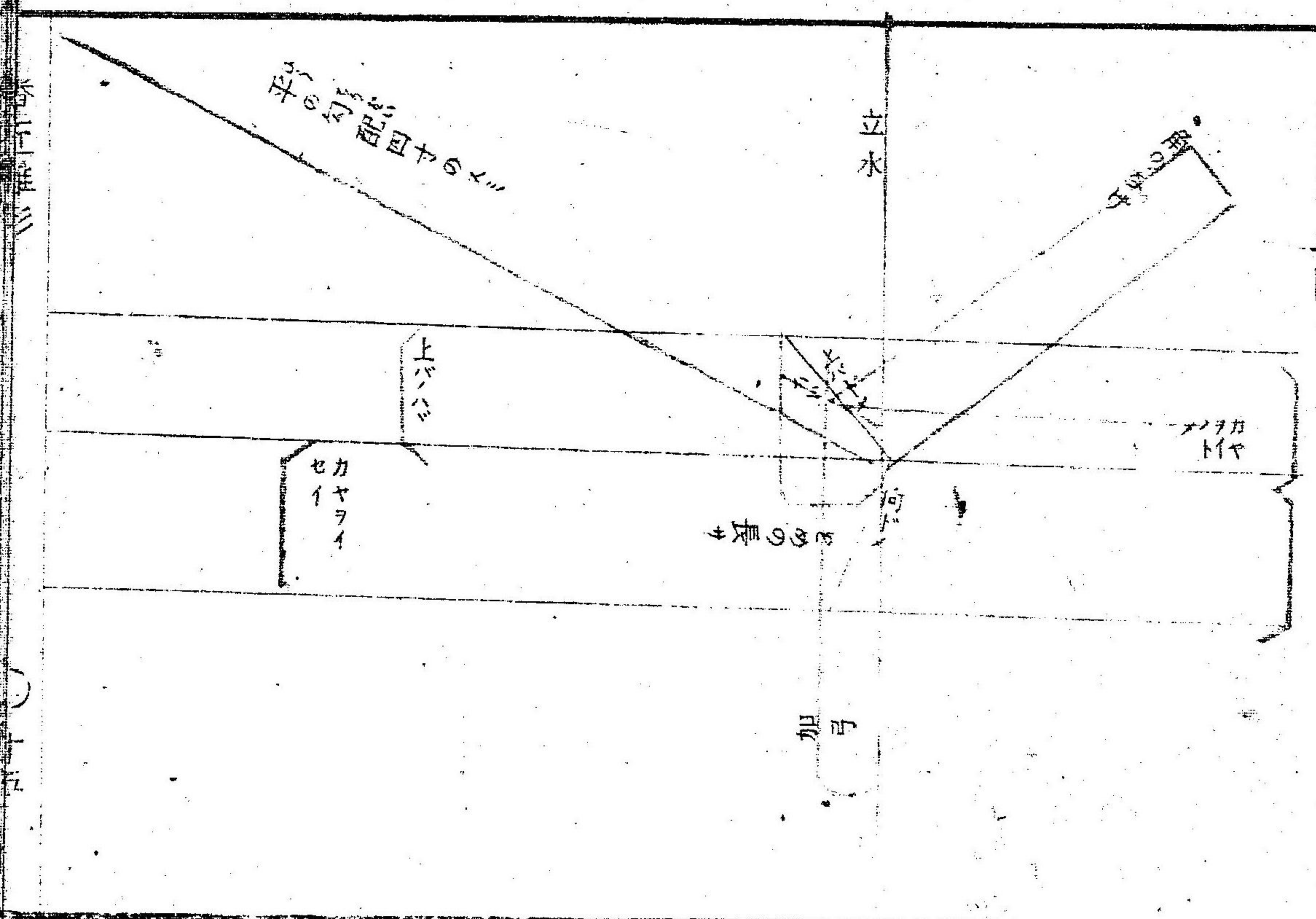
その木はあう  
 うろたいはうやま  
 はず のあむか  
 とはすみま  
 せつひつと  
 出ー図の通  
 ひかり板をあて  
 立水を引く



寺鋸附之圖  
光波風前之堅方



茅葺留之圖

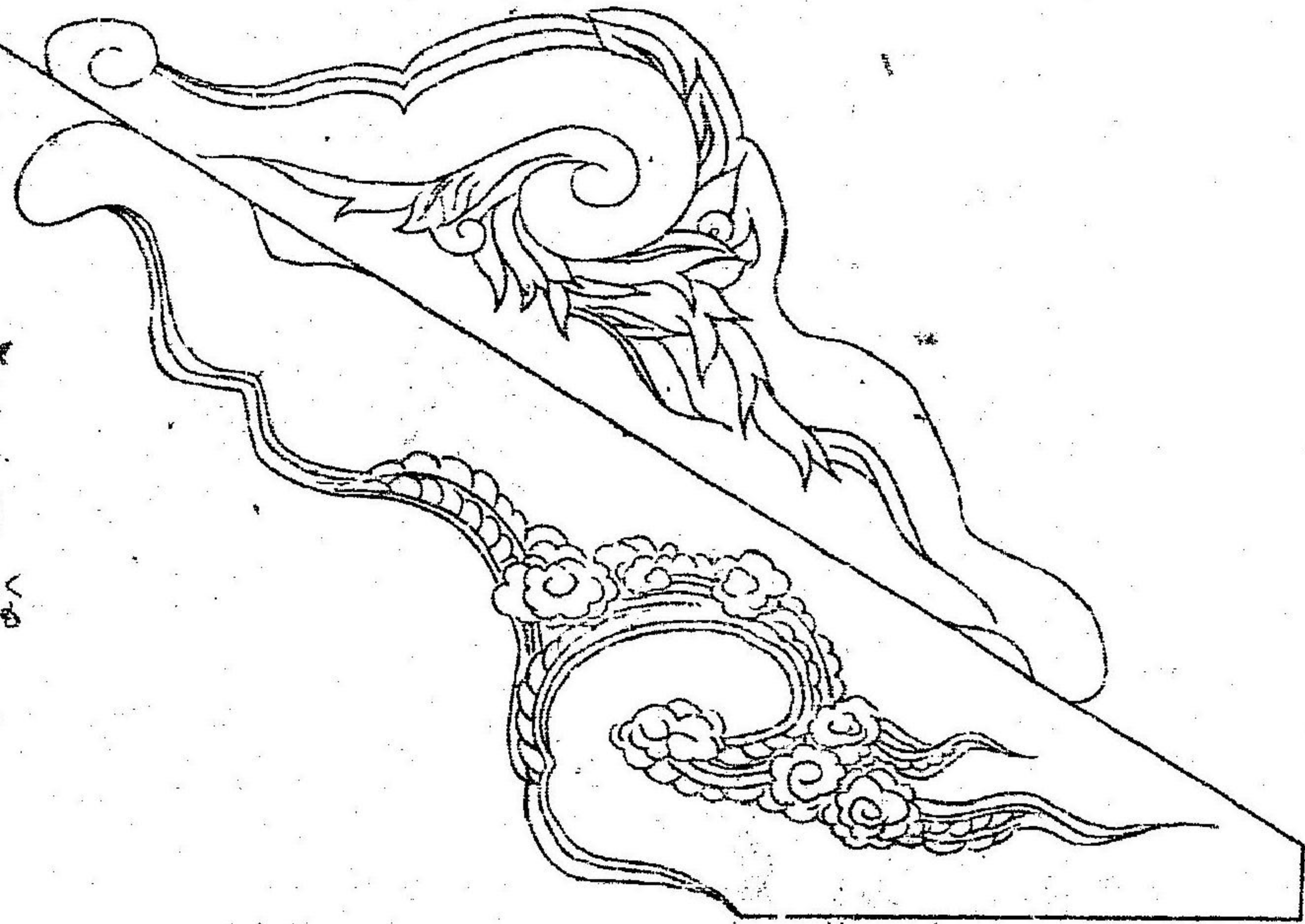








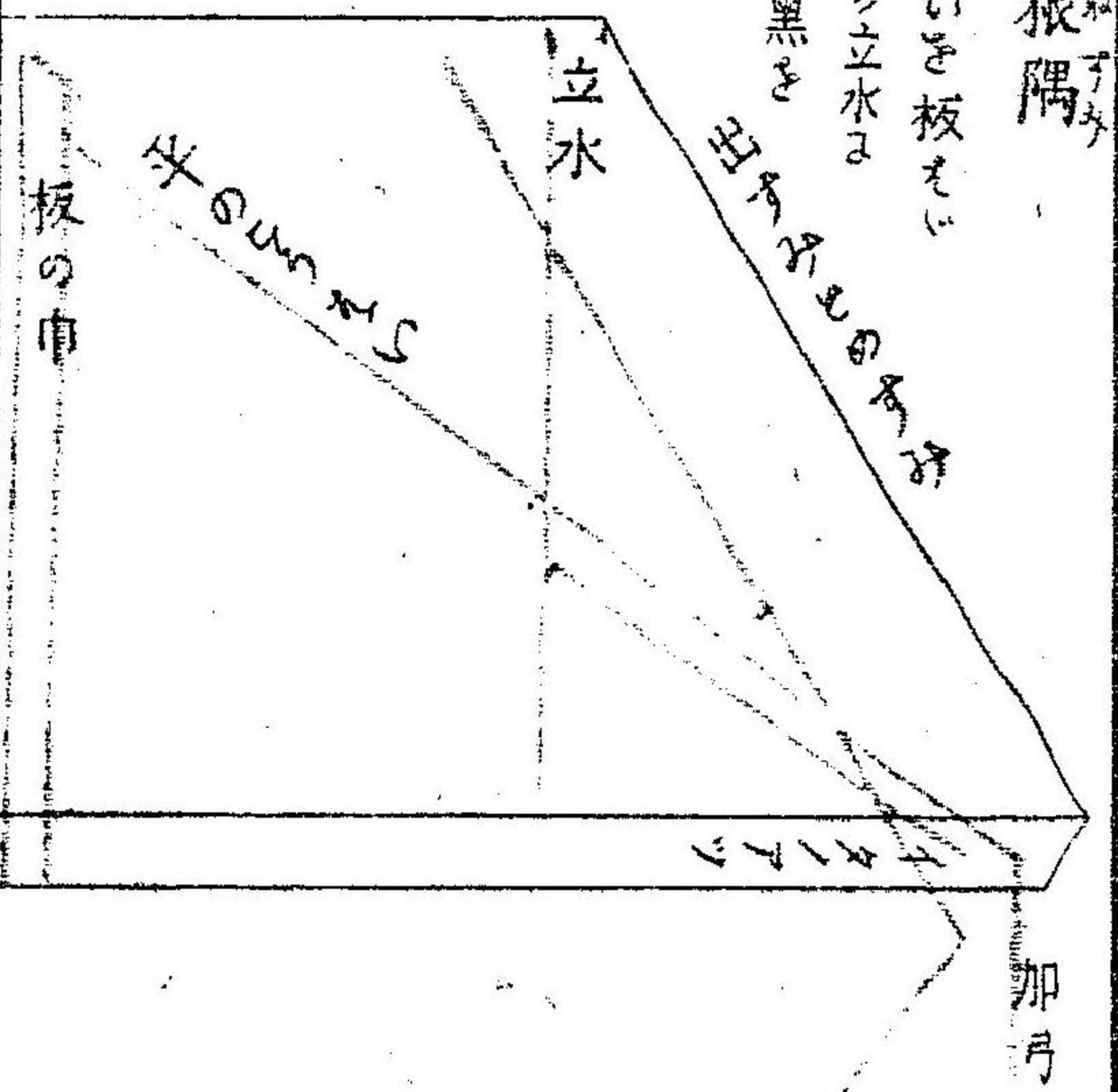
惠夫利板



同雲

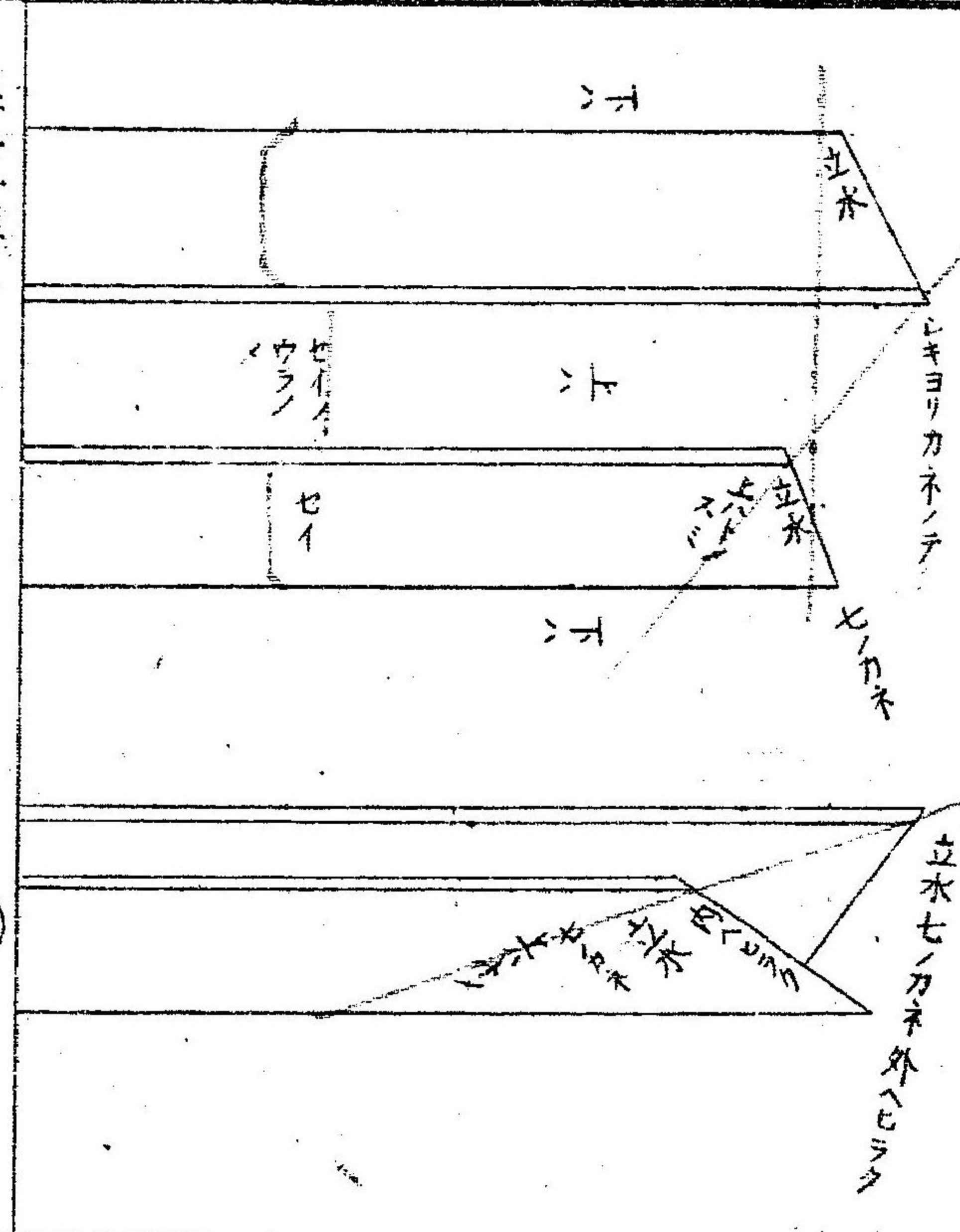
厚板屋根隅

平のころをいざ板をい  
ほどひきまの立水も  
引上げとの黒き  
ひく



薬研櫛切墨

七ノカネハ平のころをい  
七ノセラカケル

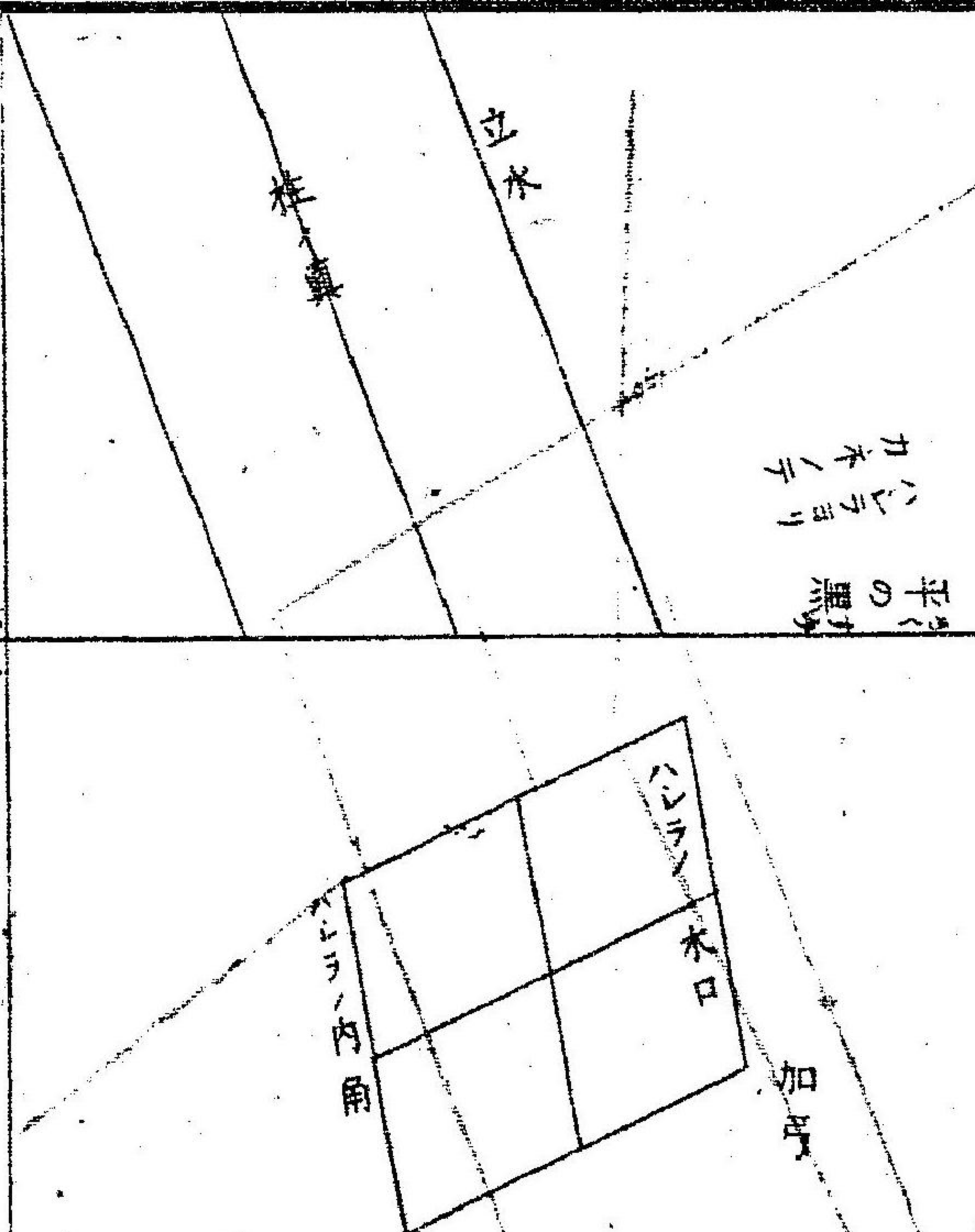


平の工

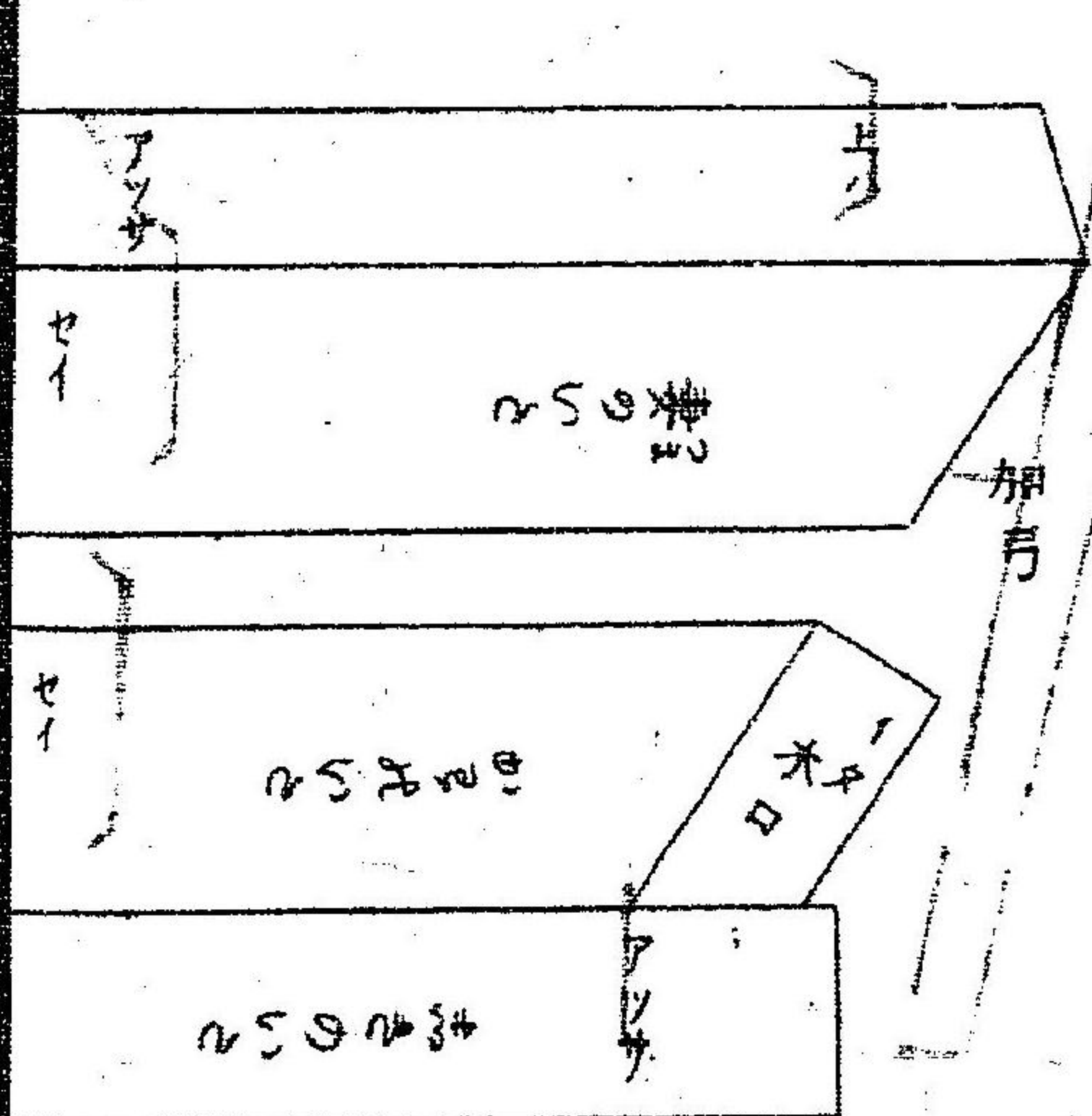
七



四方轉加弓之取樣

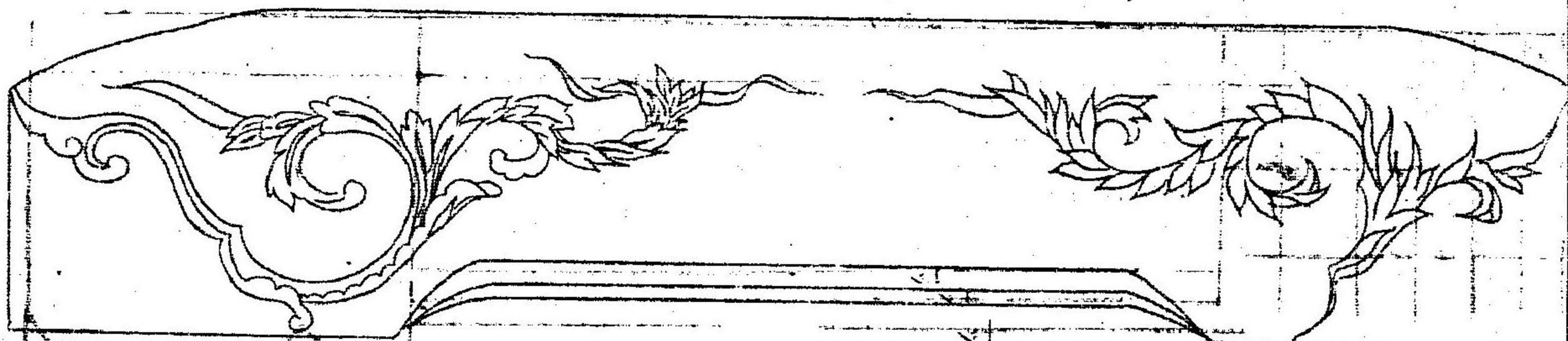


漏斗加弓之取樣



虹梁之図

素のざり下のくろ  
み大サ寸とり上  
のろろ九分とり  
なり固くまり  
中十よ一て一ツ  
半とくなり  
繪様の四ツワリの  
黒子のくむやうの  
き入べ  
左右いんやうの  
く事りんよあて

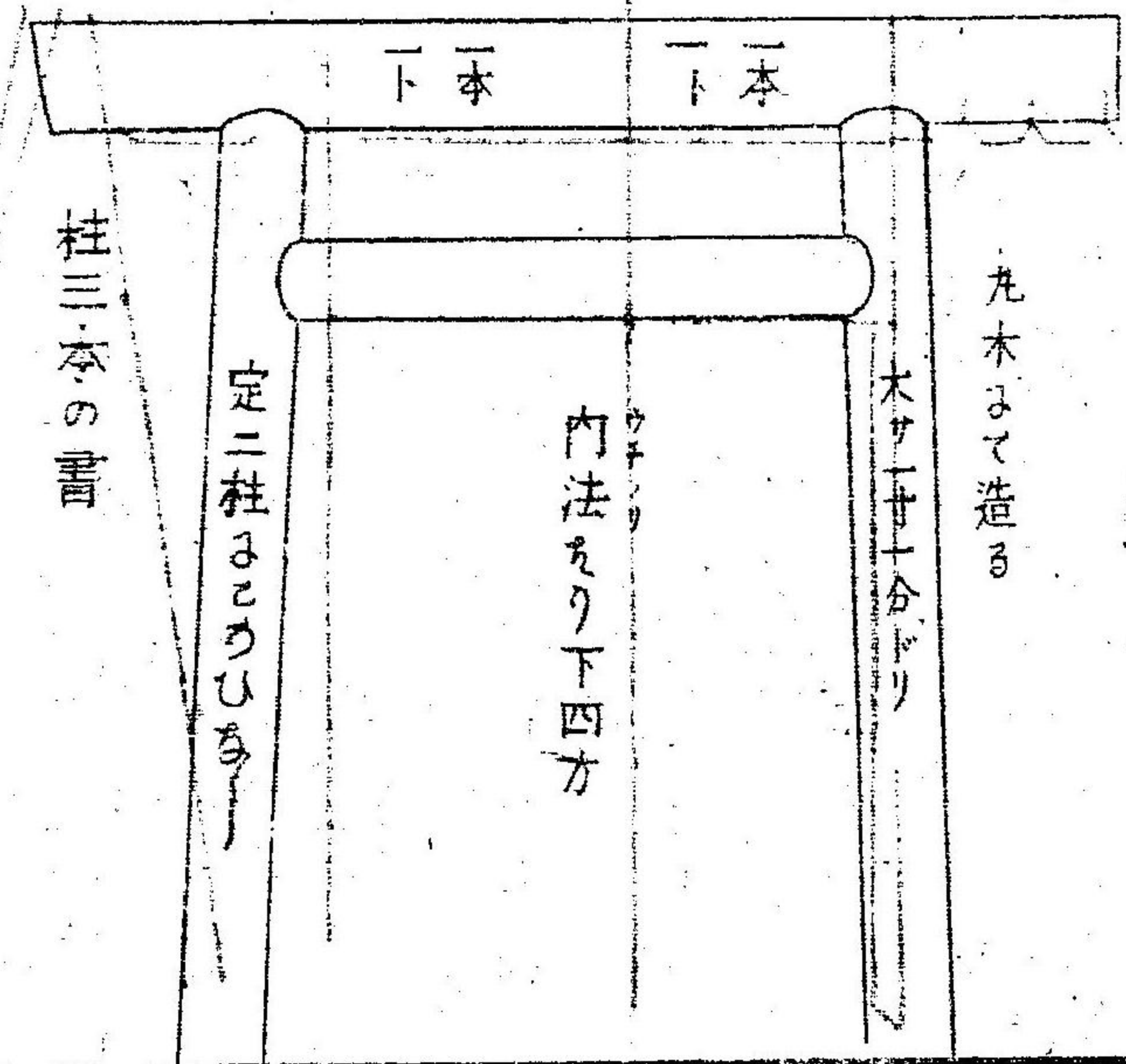


巻オボ 廣竹木ボ

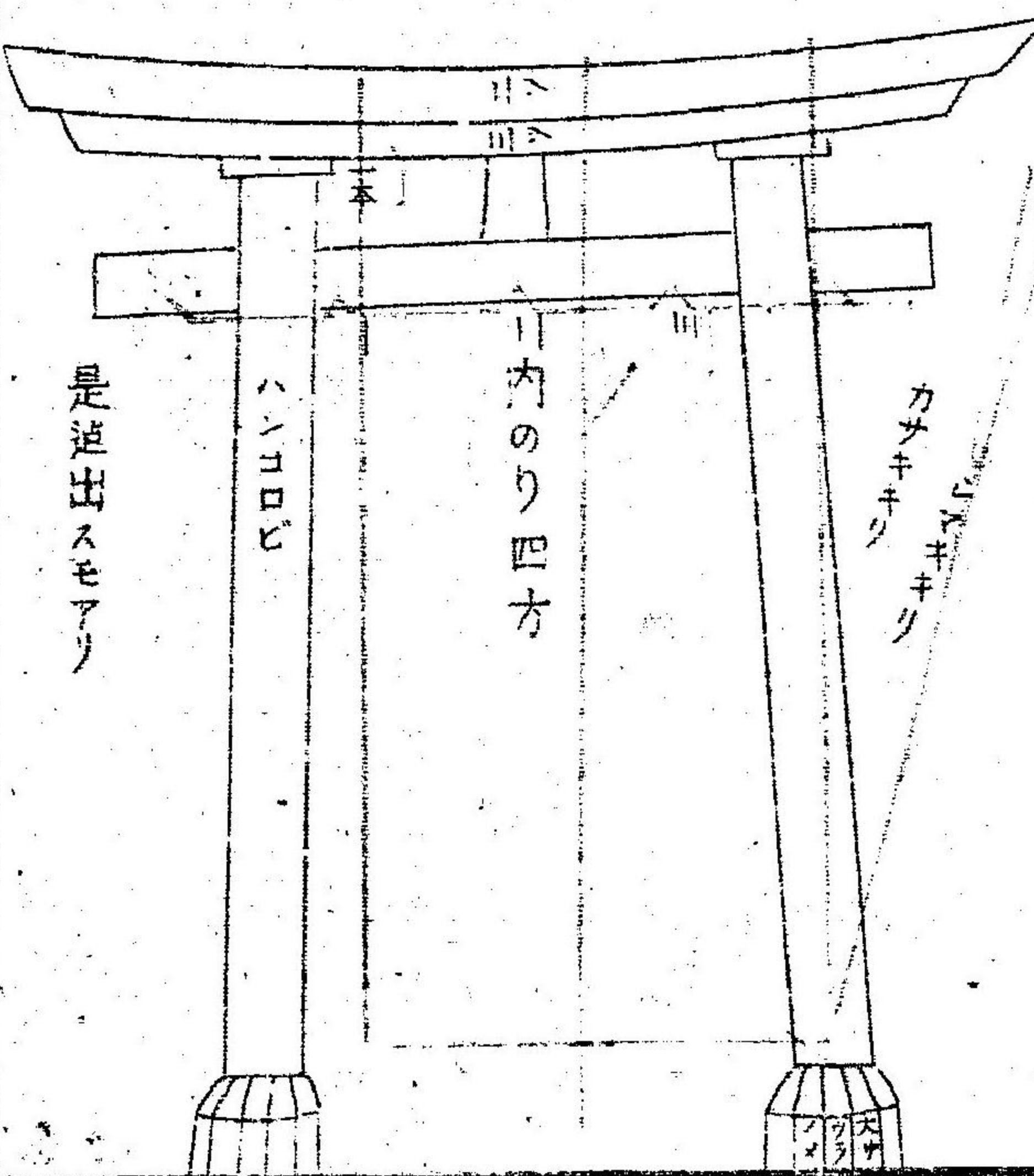


黒水神門

柱のとうび一ト  
ころびぢぢさの  
上ひらいてみ  
むるぢぢ

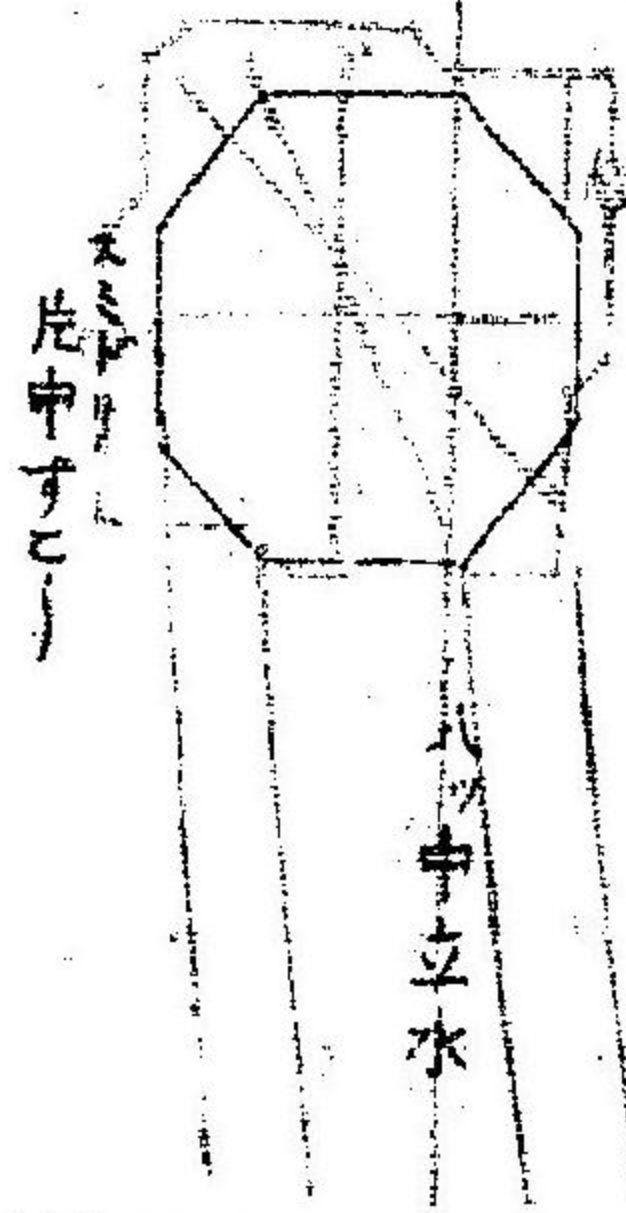


明神鳥居

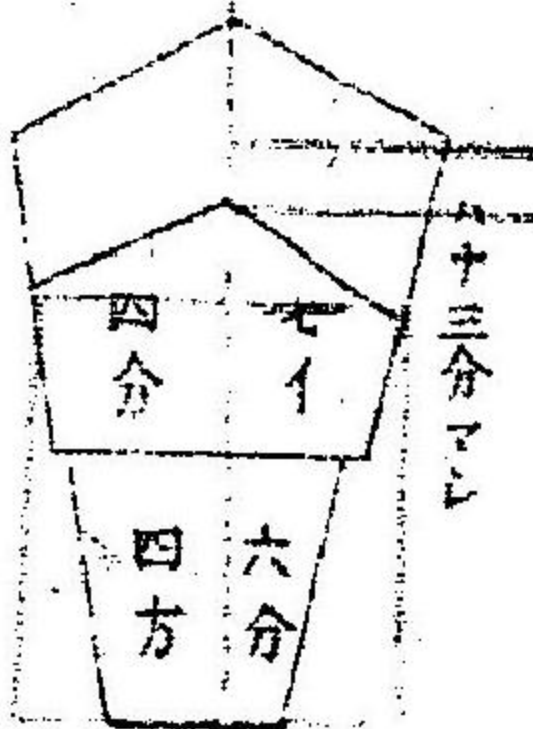


笠水墨之仕様

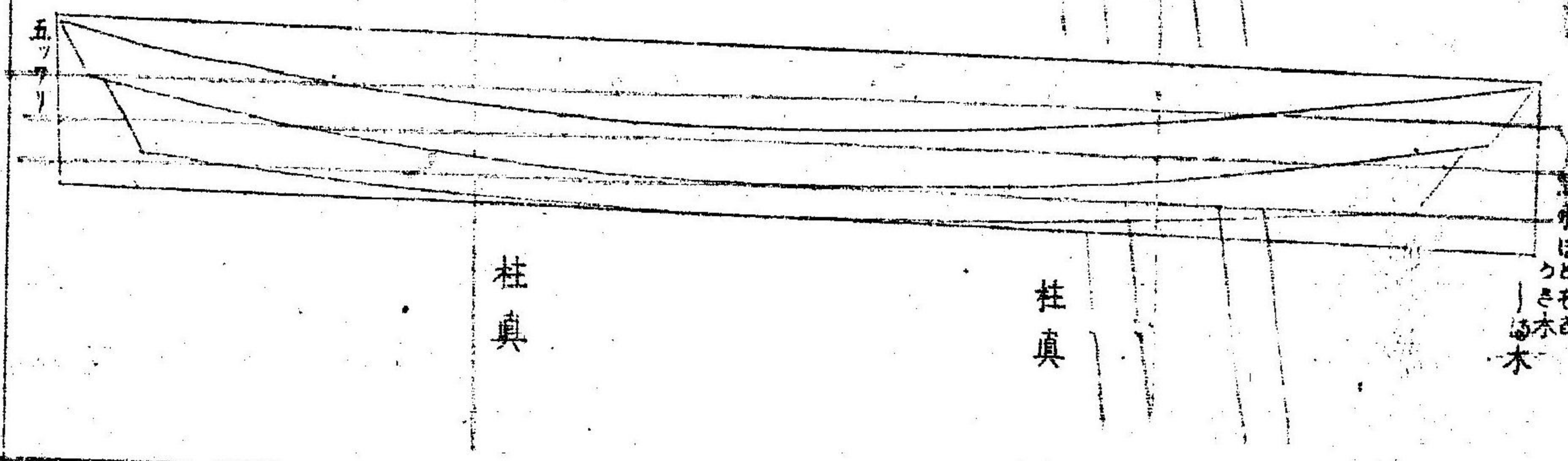
八角指越墨  
先ハツ中之墨



うさ木島木の割

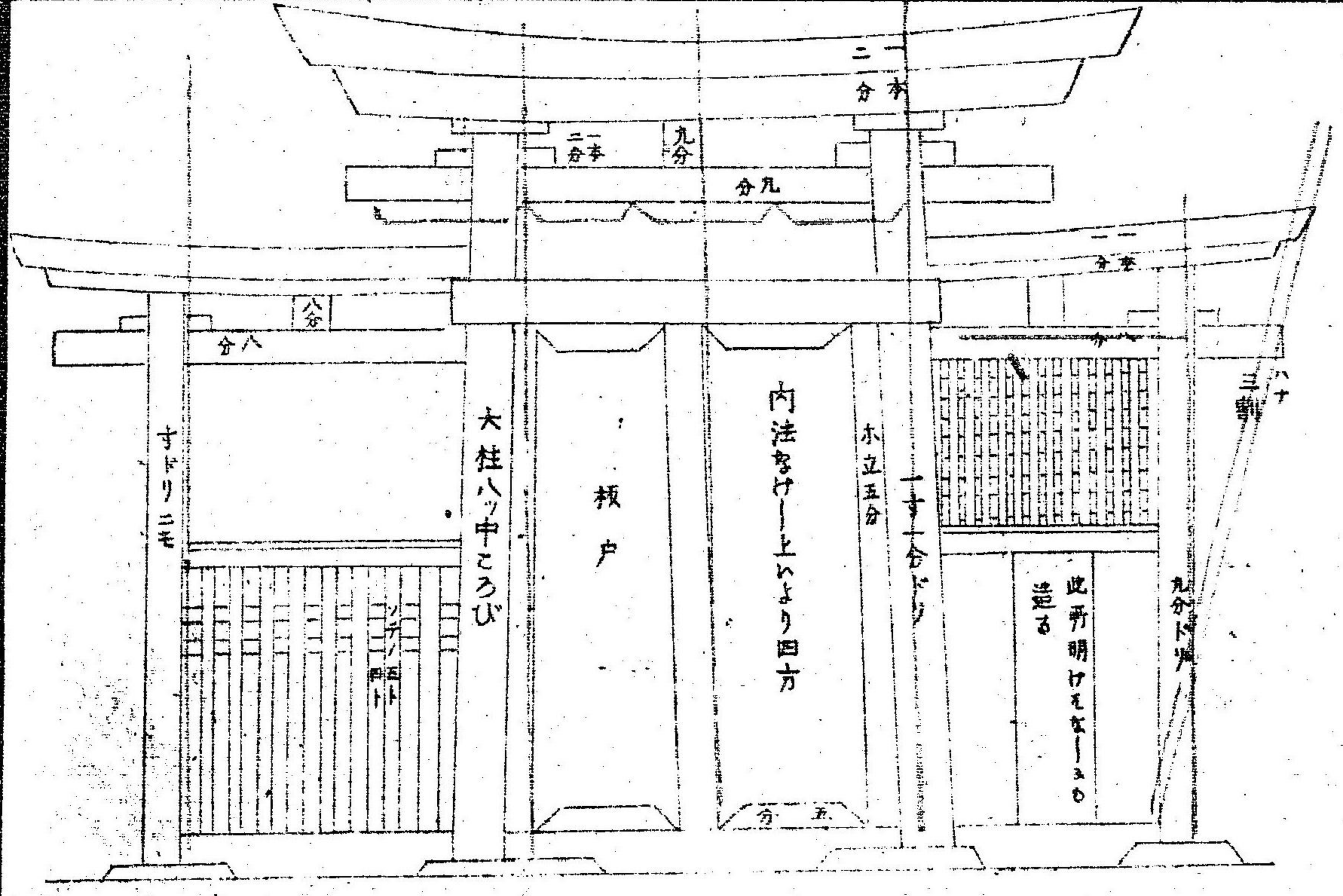


うさ木束のしんよるみと取  
事うんやうなりさるみ一分と云へ  
ども権現鳥居の三里取りそりみ  
を、サベ、さるみさるみの中高く  
見ゆるぢぢ、是鳥居の秘傳也

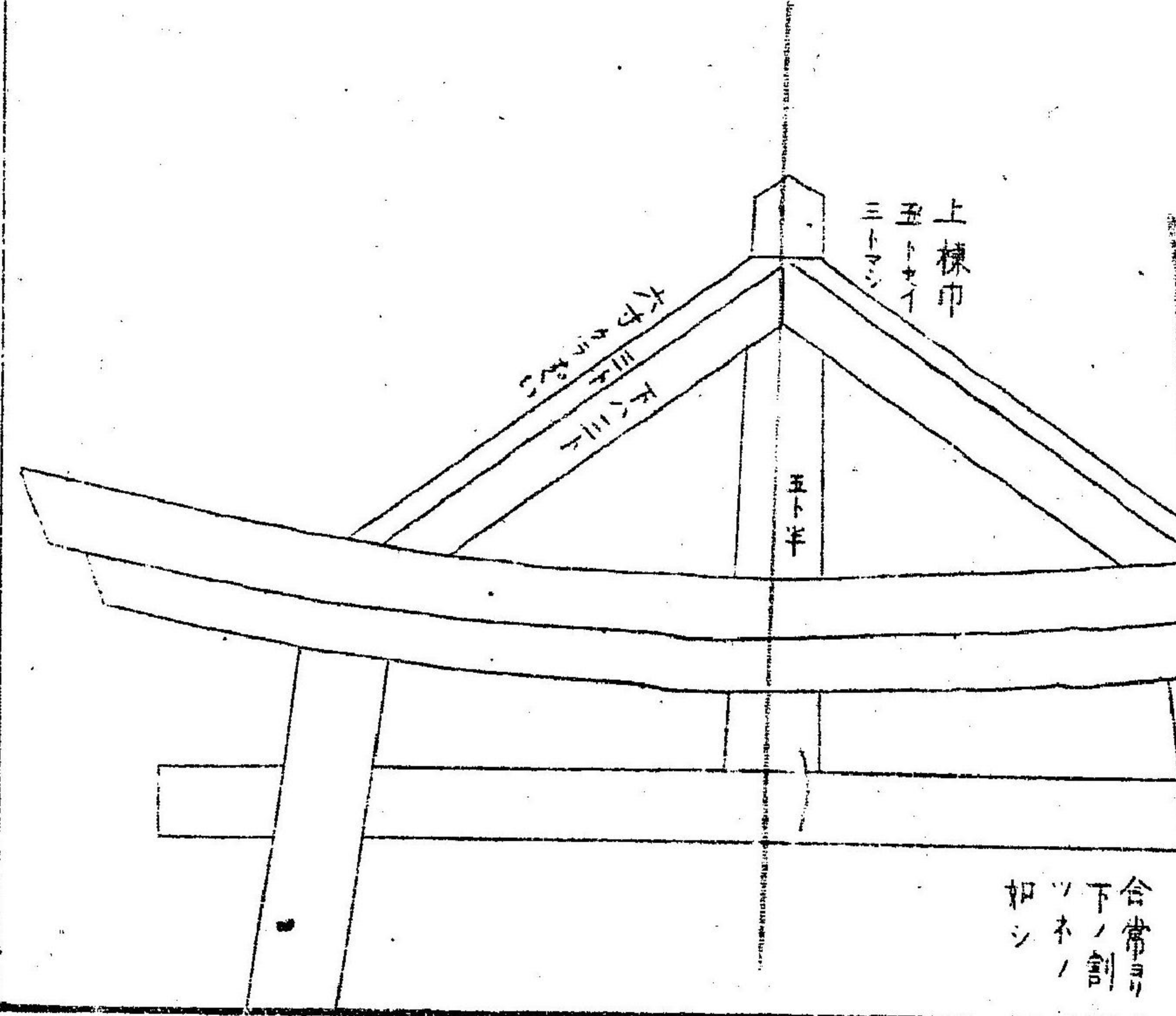




三輪鳥居



總合鳥居  
 俗山王鳥居  
 又合常花表





鳥居の木割

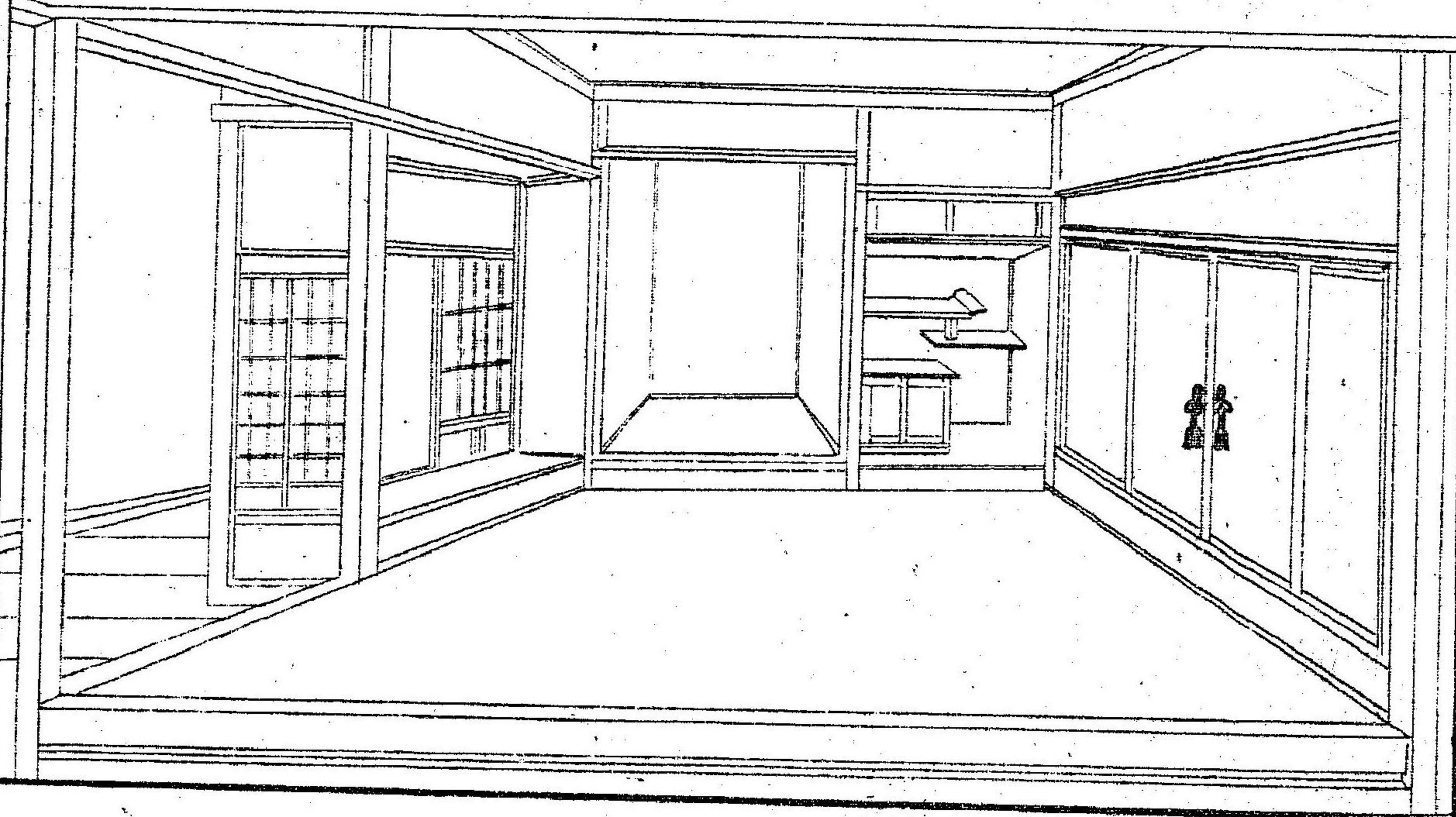
高さ根包上ハより貫下バ込内法り四角也柱の大  
大間拾三割一ツ是を寸取と云なり貫の中ハを  
しう拾三割八ツ厚サニツなり鼻のでき大  
間三ツ割一ツ鼻の切やうハ朱曳の通り束  
の大貫の中不と厚サぬきの面内をやり  
ハ柱のころびみならうべし

屋椽の大柱の裏の目厚サ柱三ツ割一ツ笠  
木島木柱不ど又や衾なきハ柱二分ま  
右を五ツ又より二ツ笠木三ツ島木なり  
笠木のちやうハ種く有叩拾三割笠木四ツ  
島木六ツと割なり下バも六ツと割もあり  
とをき異みて割もよし

余を朱引みあるは何きも木の元を社  
の右よりて未を左とす

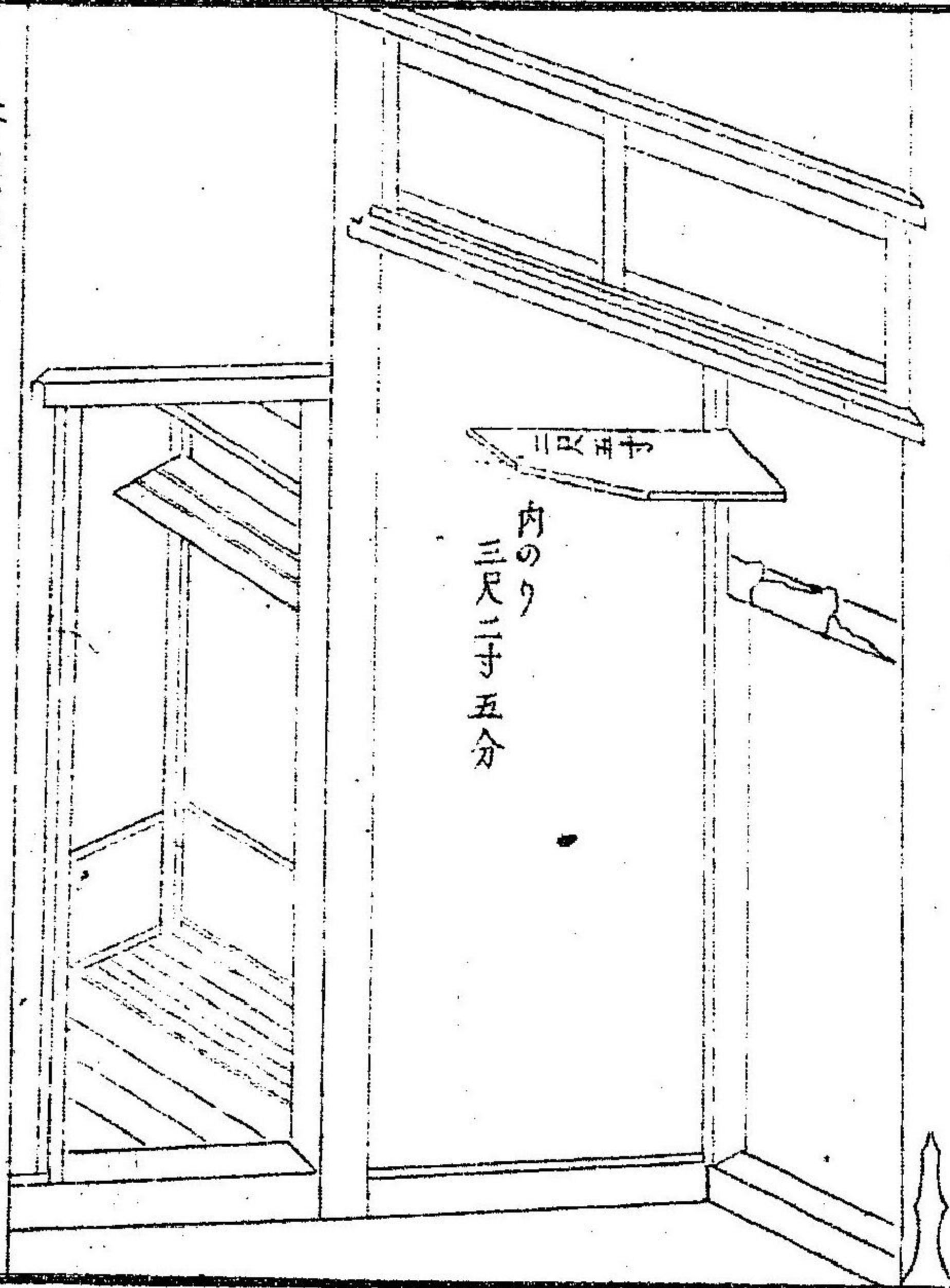
惣高サハ所の高下よる見上る所ハひく  
見下る所ハ高く根包まで高下付る

圖アの院書び及臺の兆段上





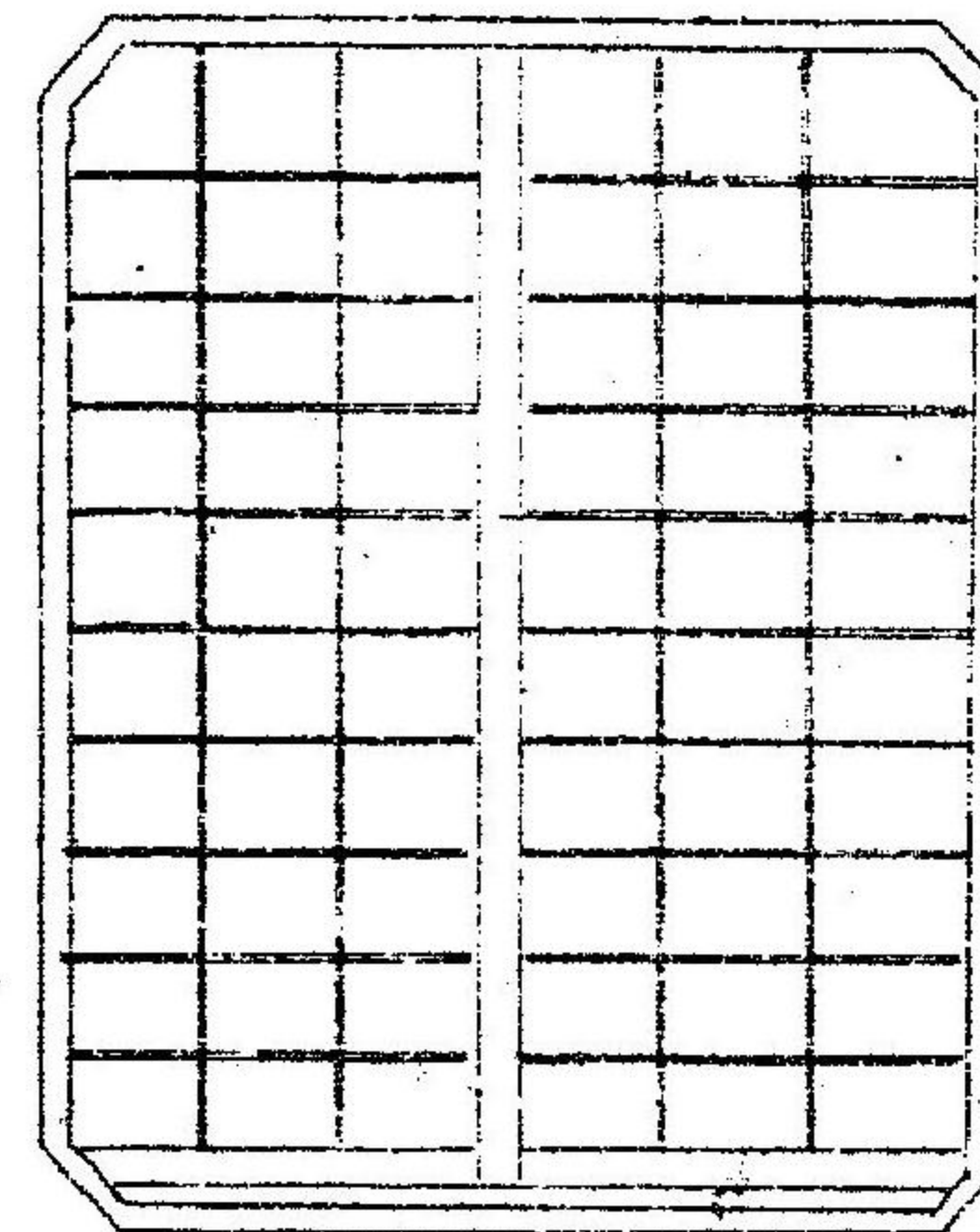
業 柳



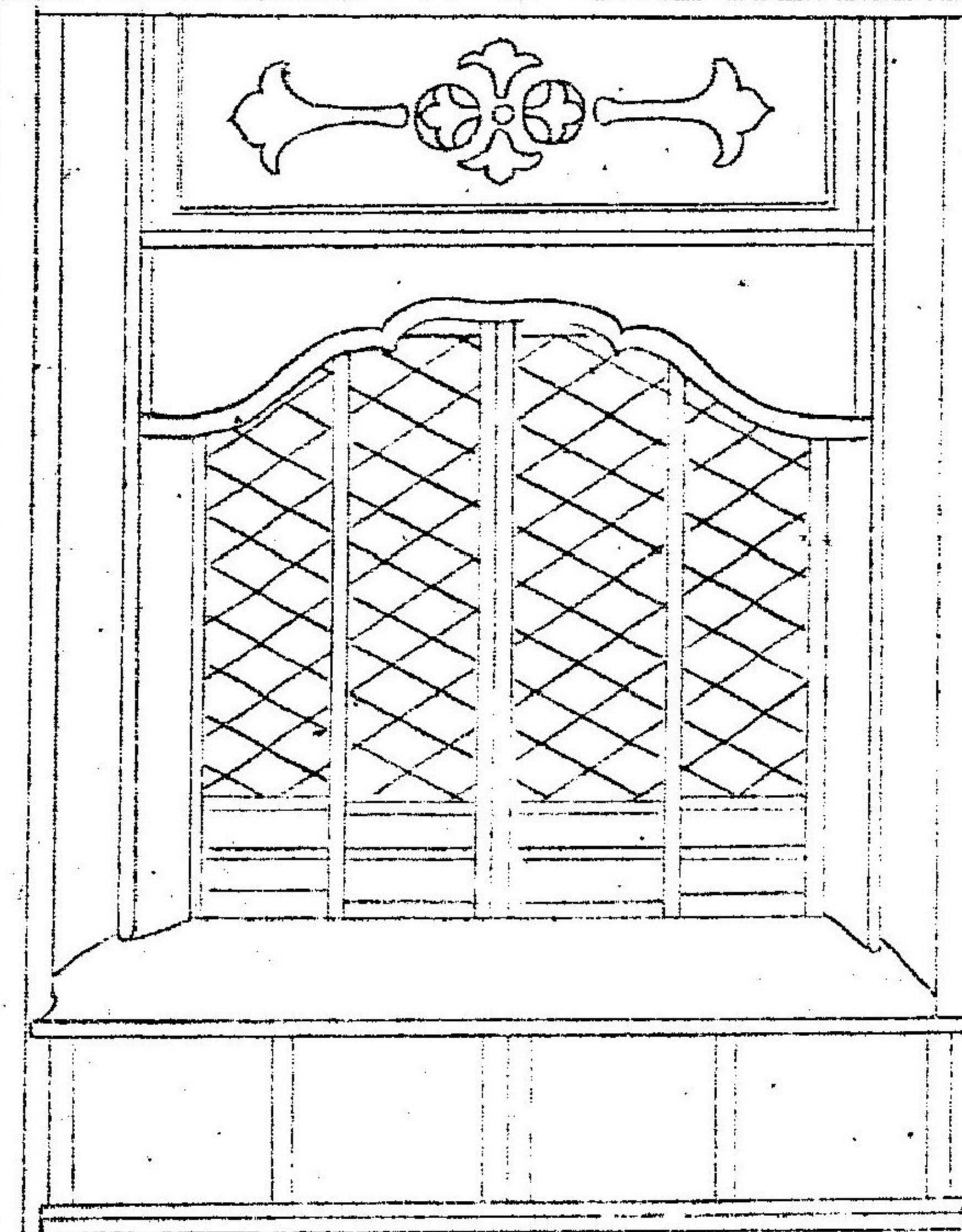
内ノリ  
三尺二寸五分

窓 洞 手 勝 運

格 子 窓 の 中

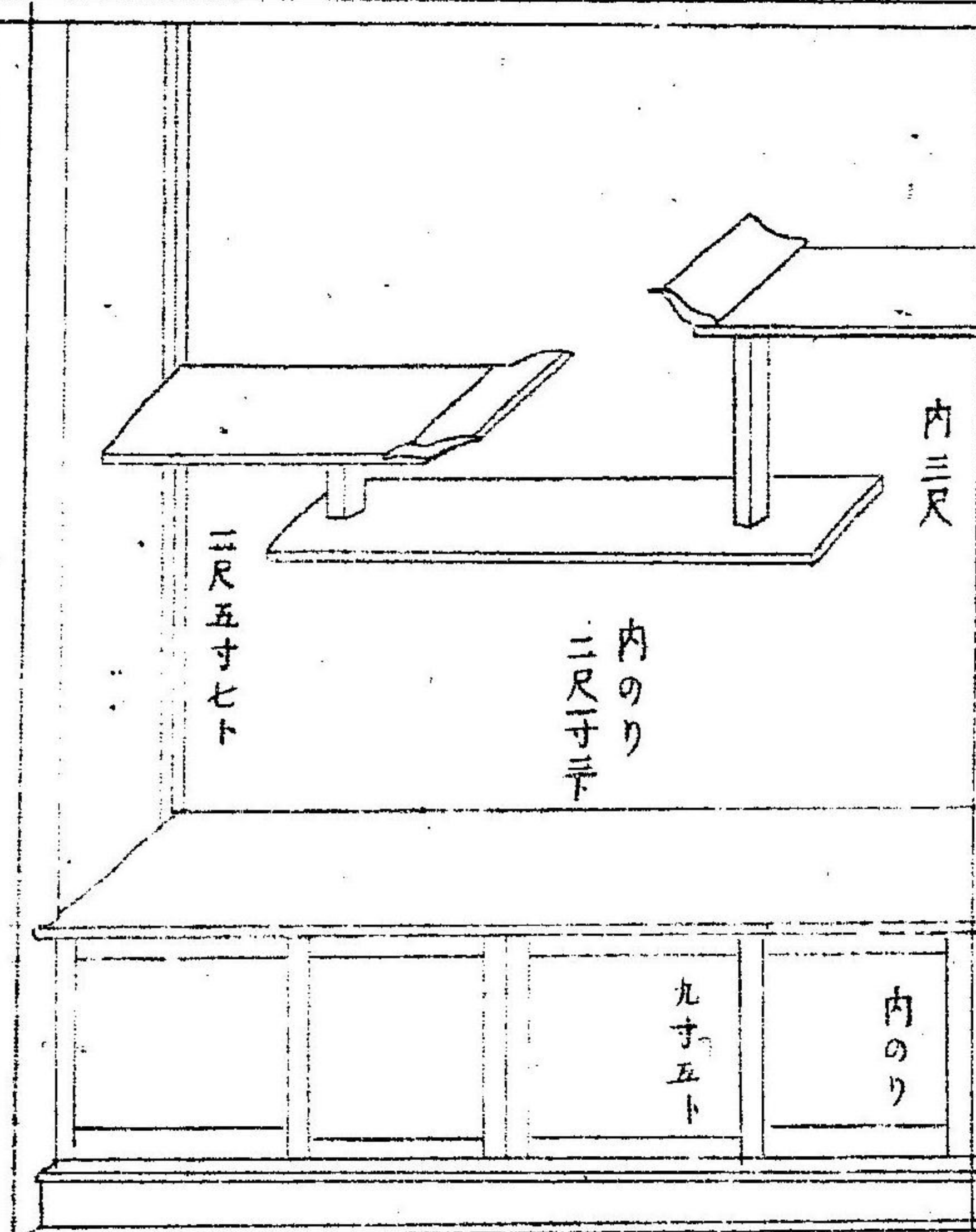


燈 加 道 山



内ノリ  
三尺二寸五分

棚 見 二



内ノリ  
九寸五分

内ノリ

内ノリ

内ノリ



棚具表

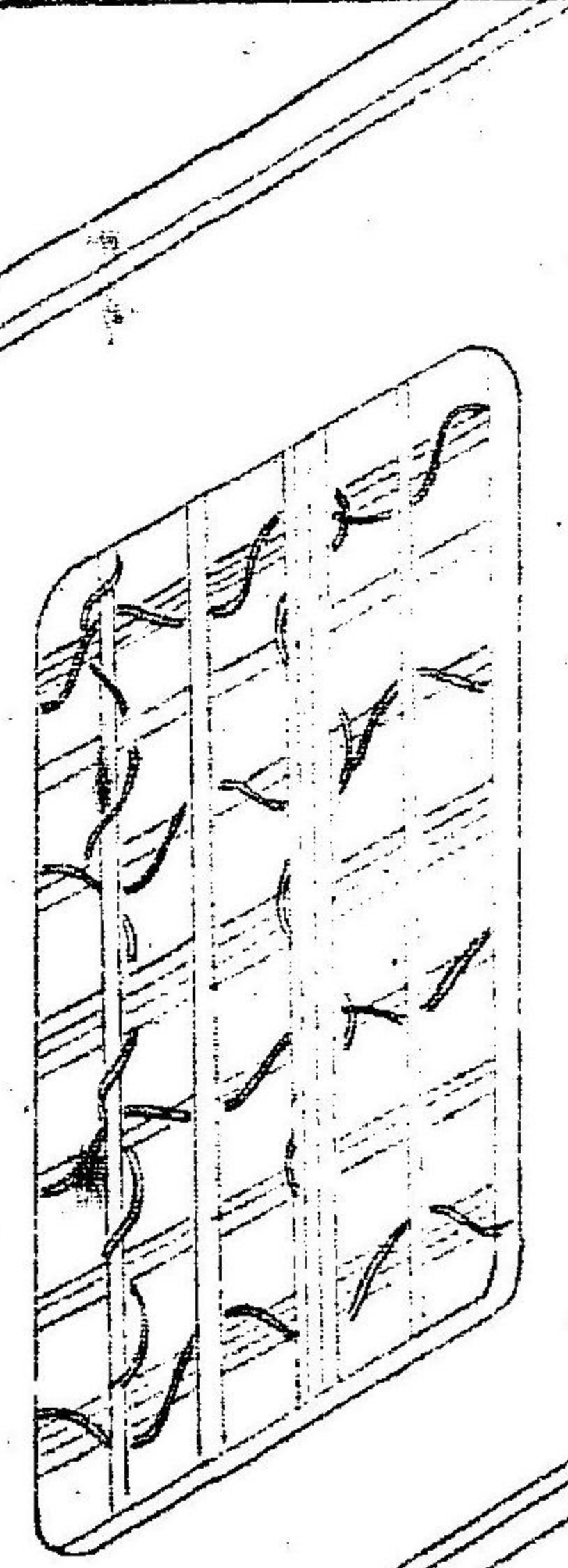
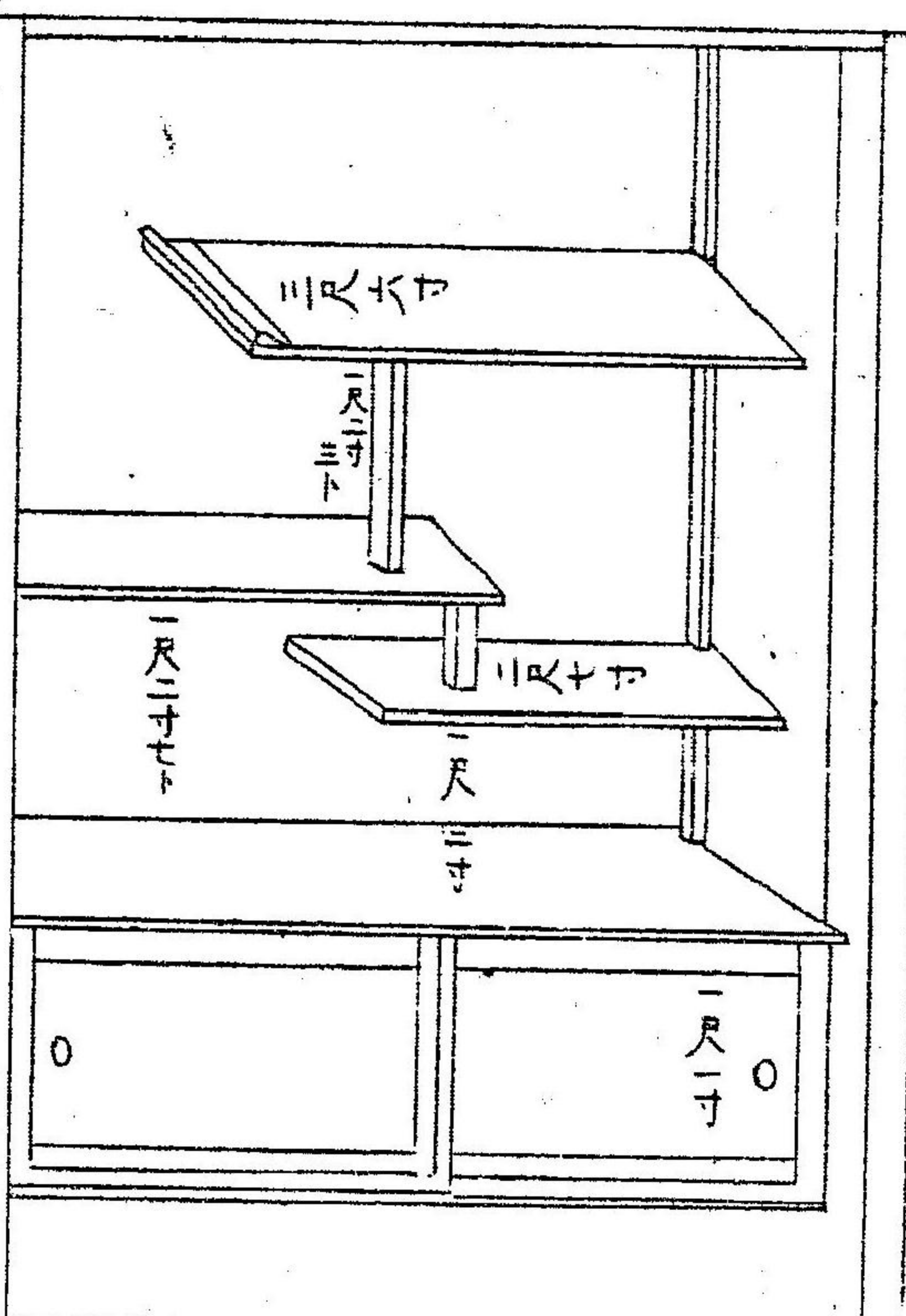
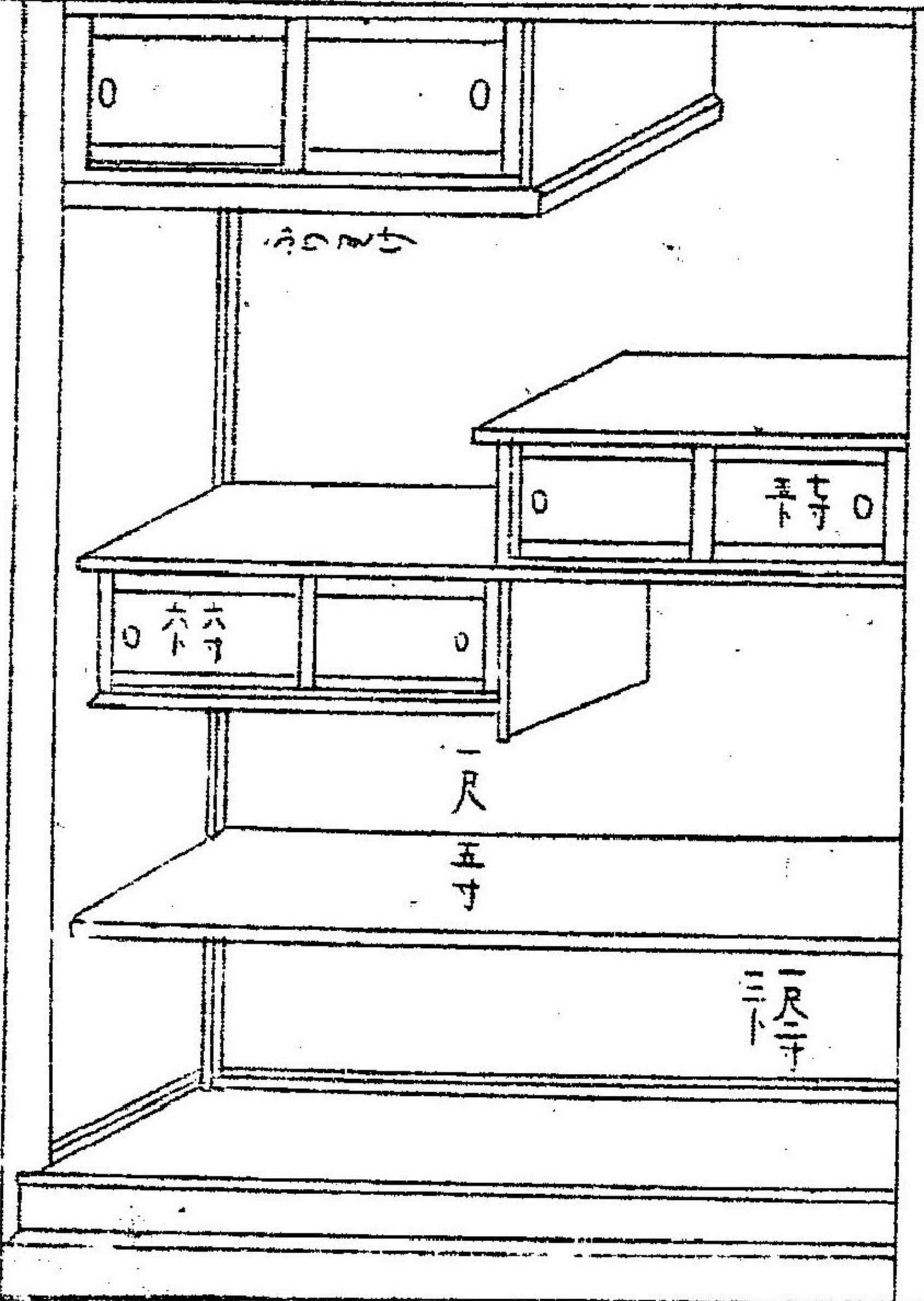
棚架の違

同

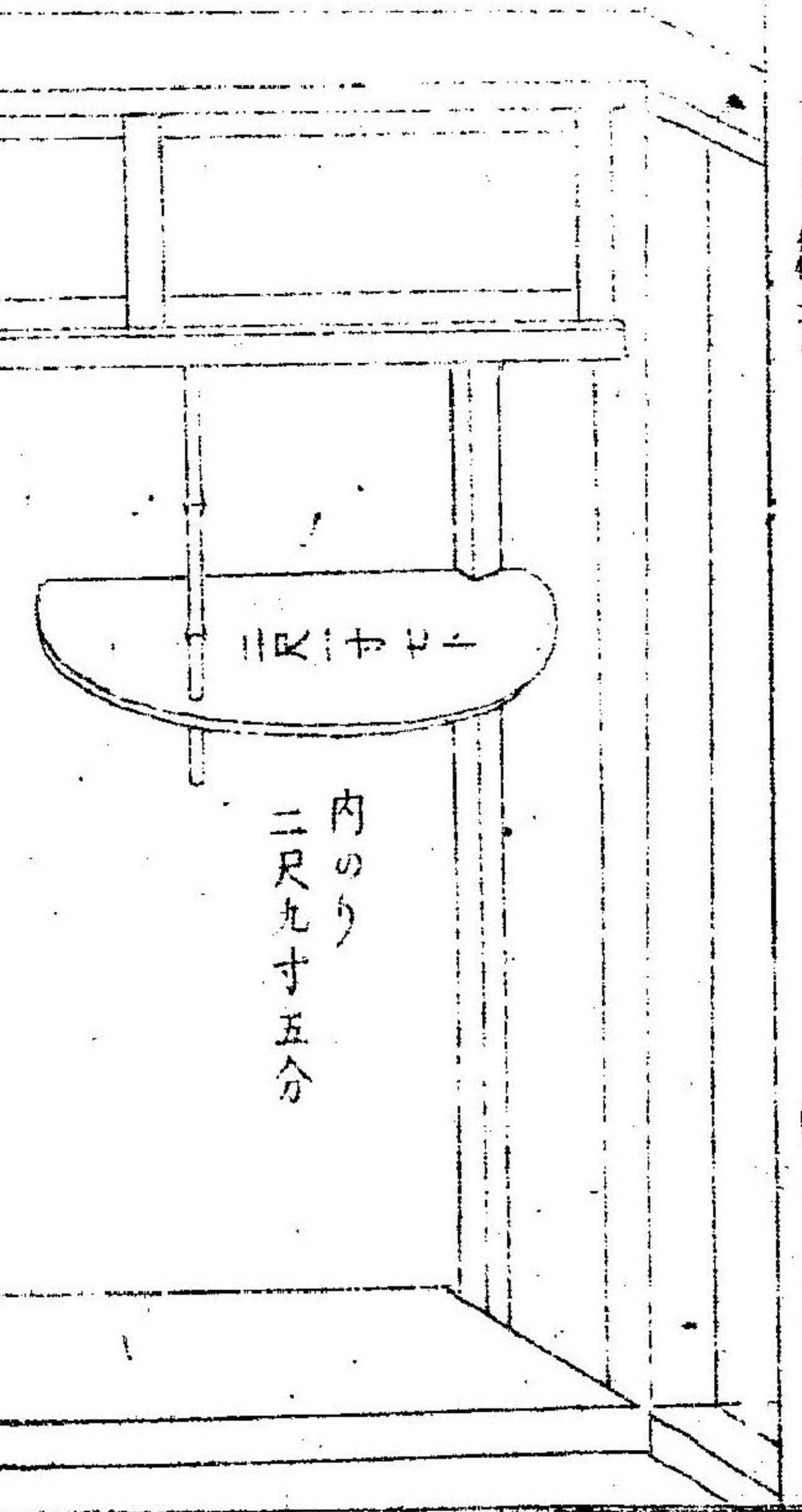
棚架の形

番五推

番五推



を介してつらして二分ま



内のり  
二尺九寸五分

七三

七三

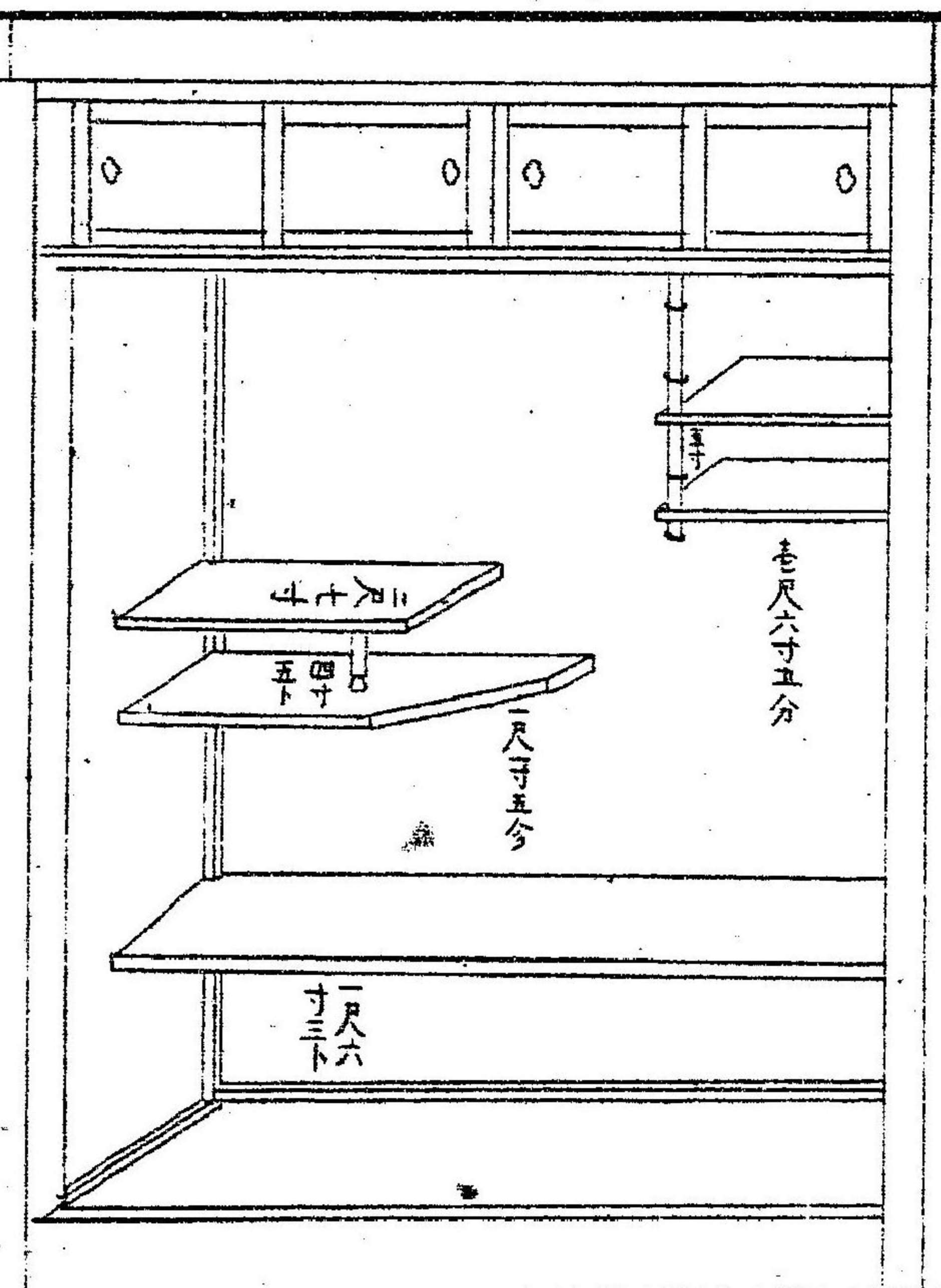
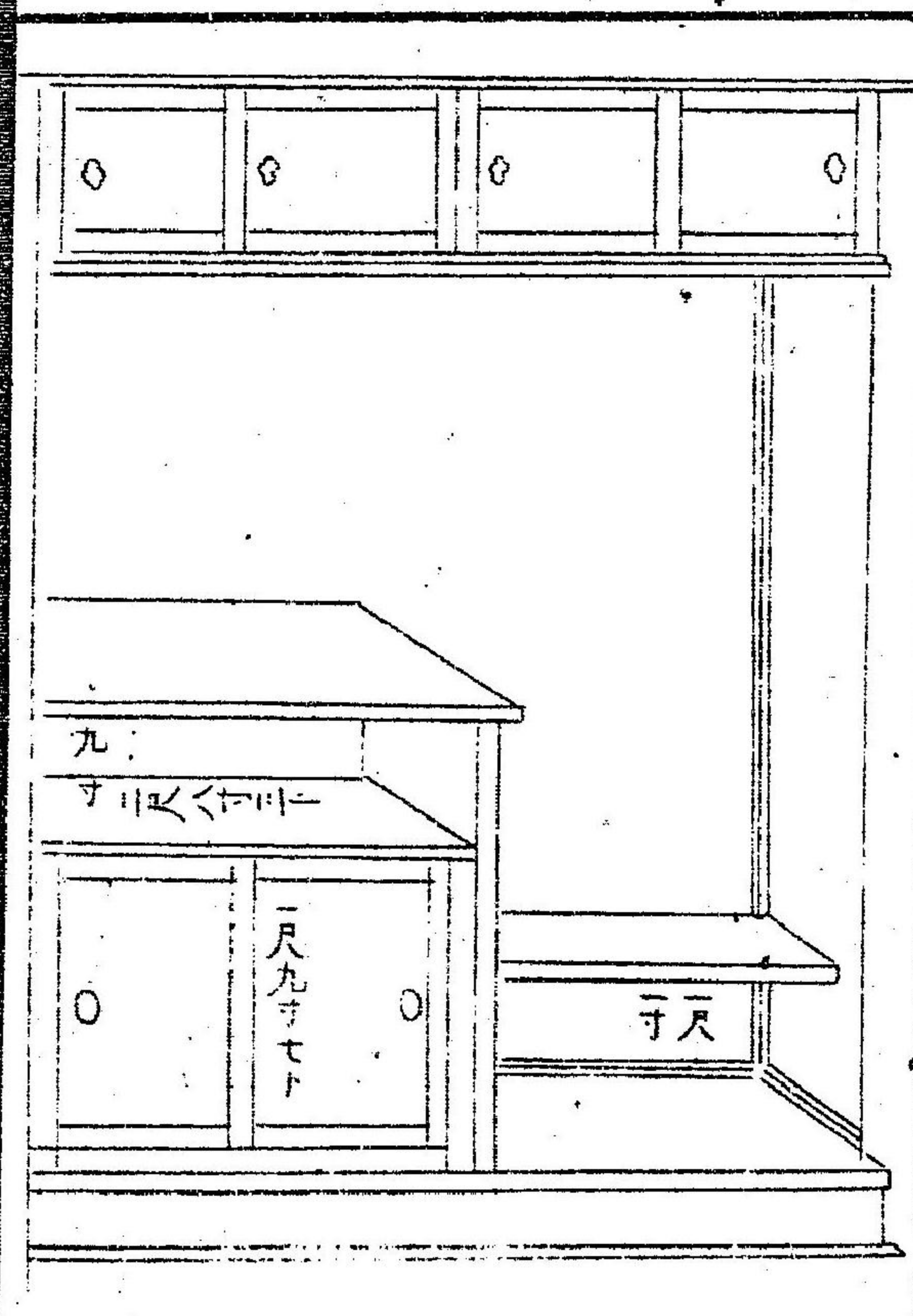
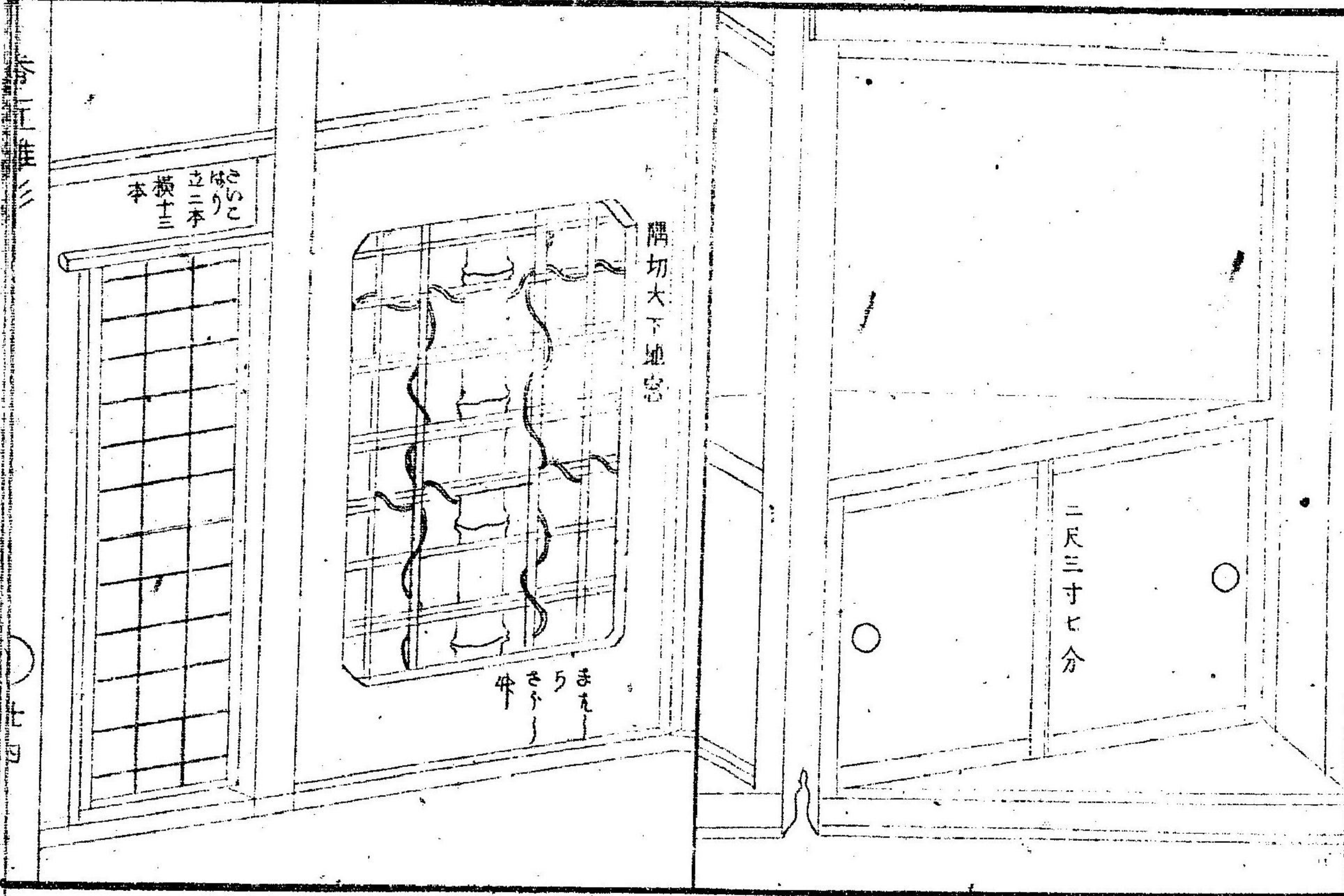


棚 平 大

棚 鯨

棚 葉 紅

棚 雲 東



寸 七 五

寸 六 二



窓 月 籠

棚 亀

棚 龍

書院調子

二尺二寸

書院調子

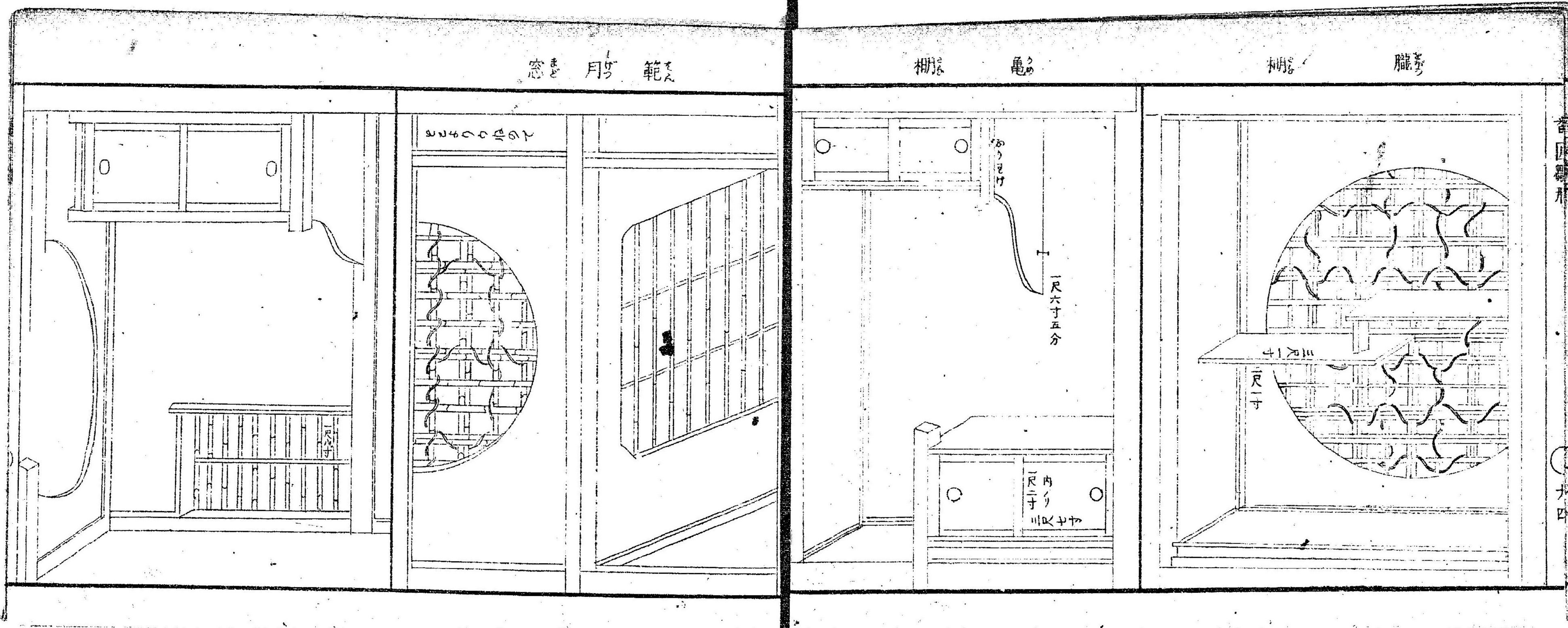
ありけ

一尺六寸五分

一尺二寸

二尺二寸

内  
二尺二寸  
川吹ヤヤ



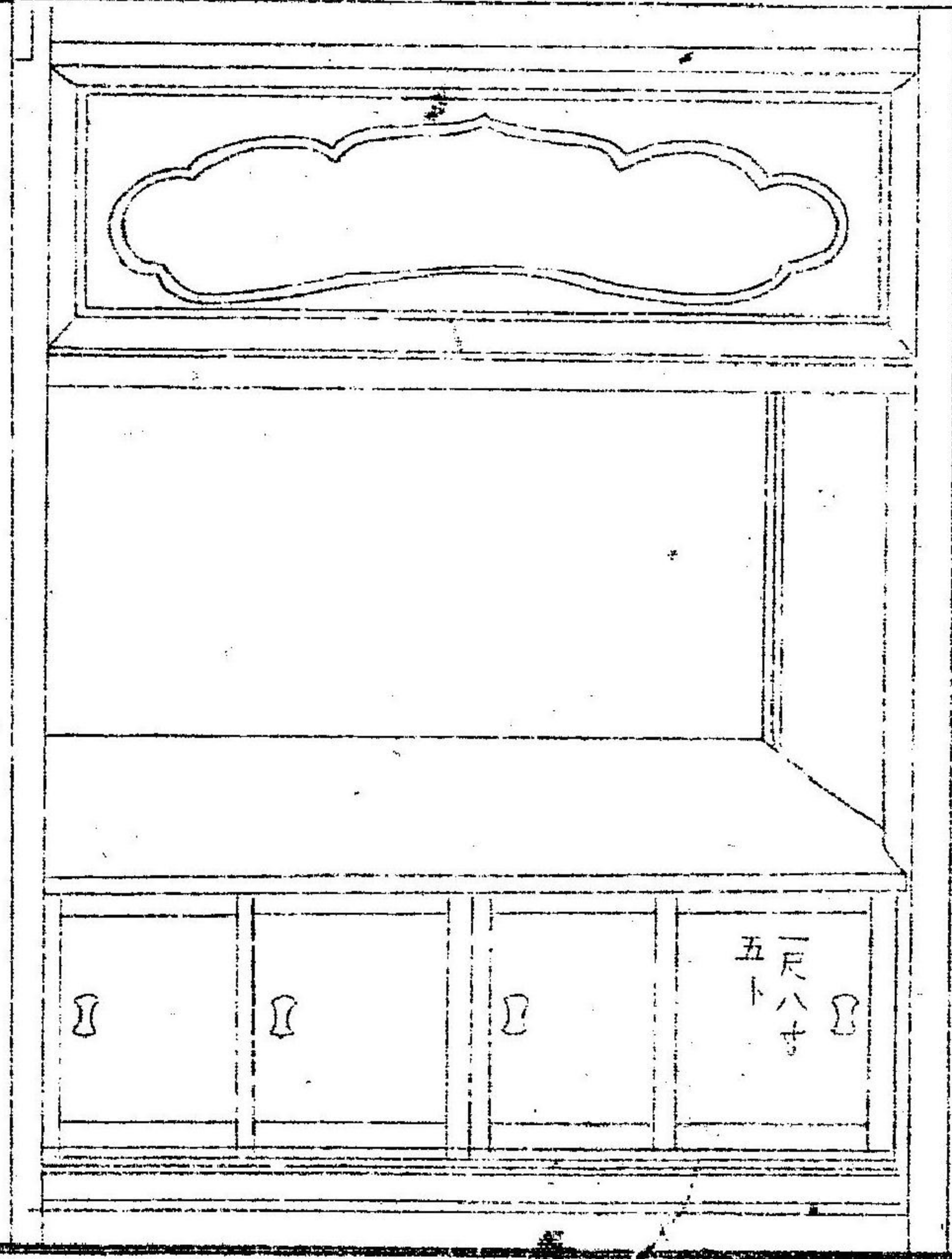
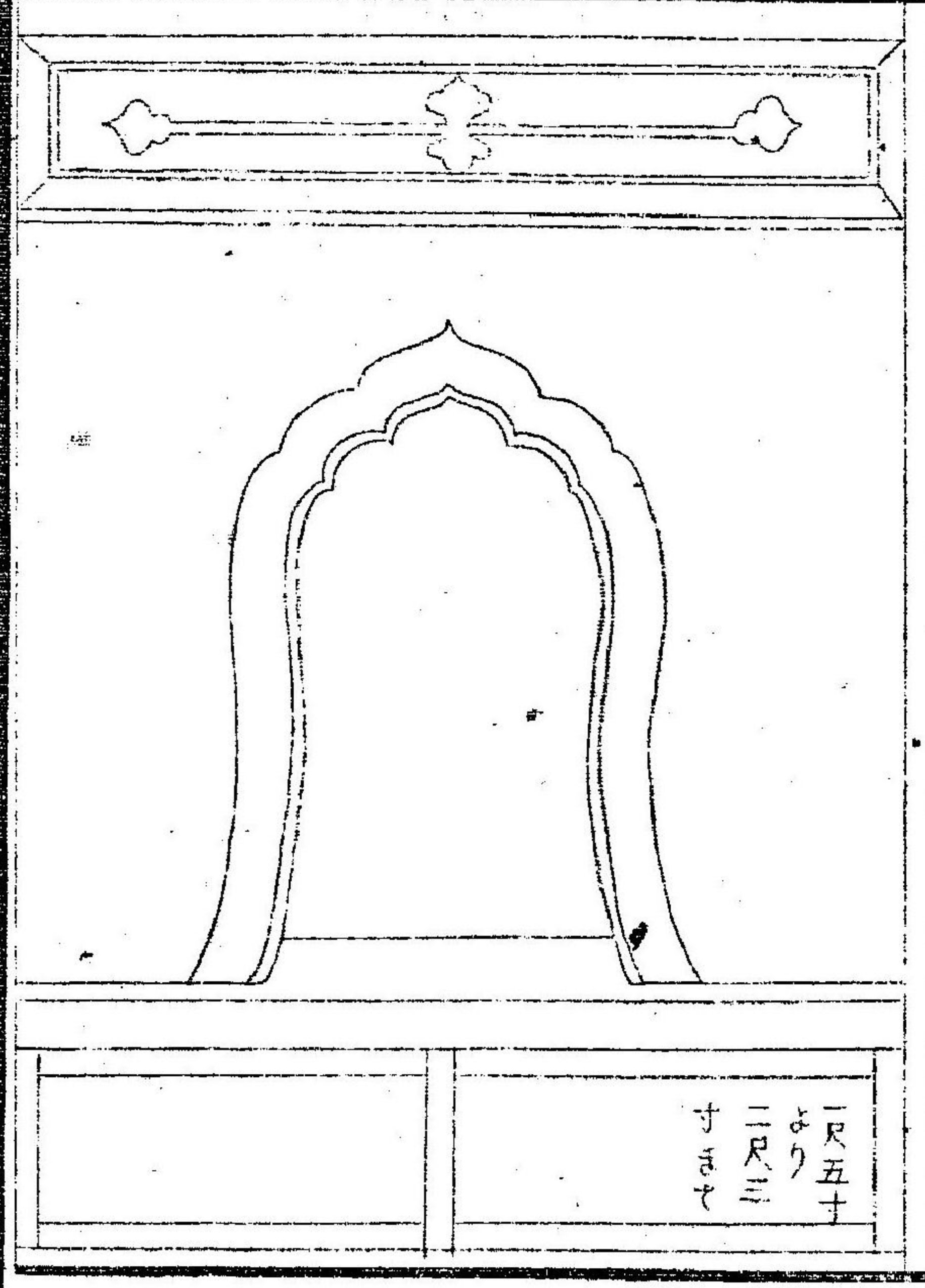
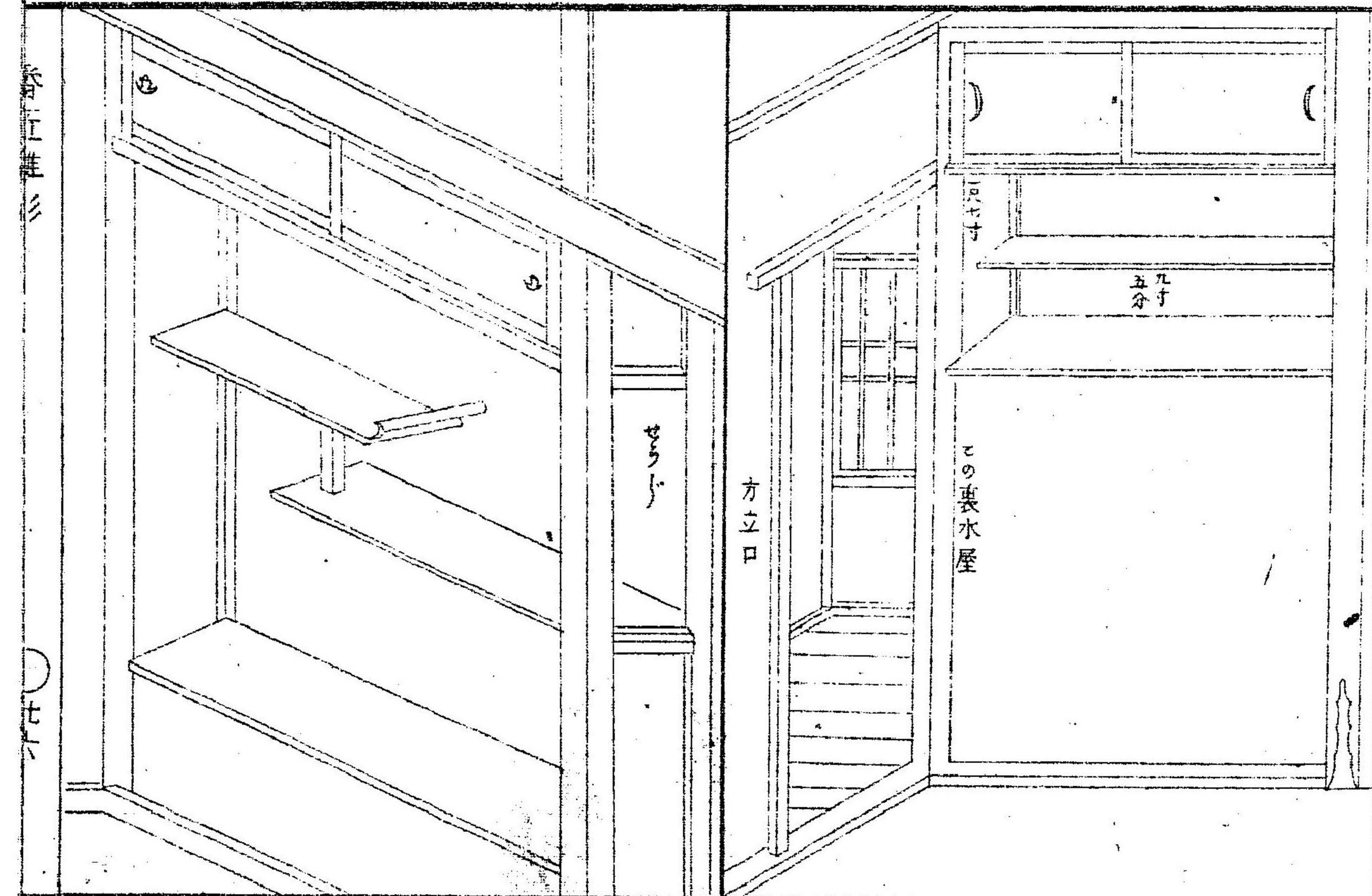


棚 股

棚 室 氷

棚 櫃 經 佛

棚 廣 惠 壽 神



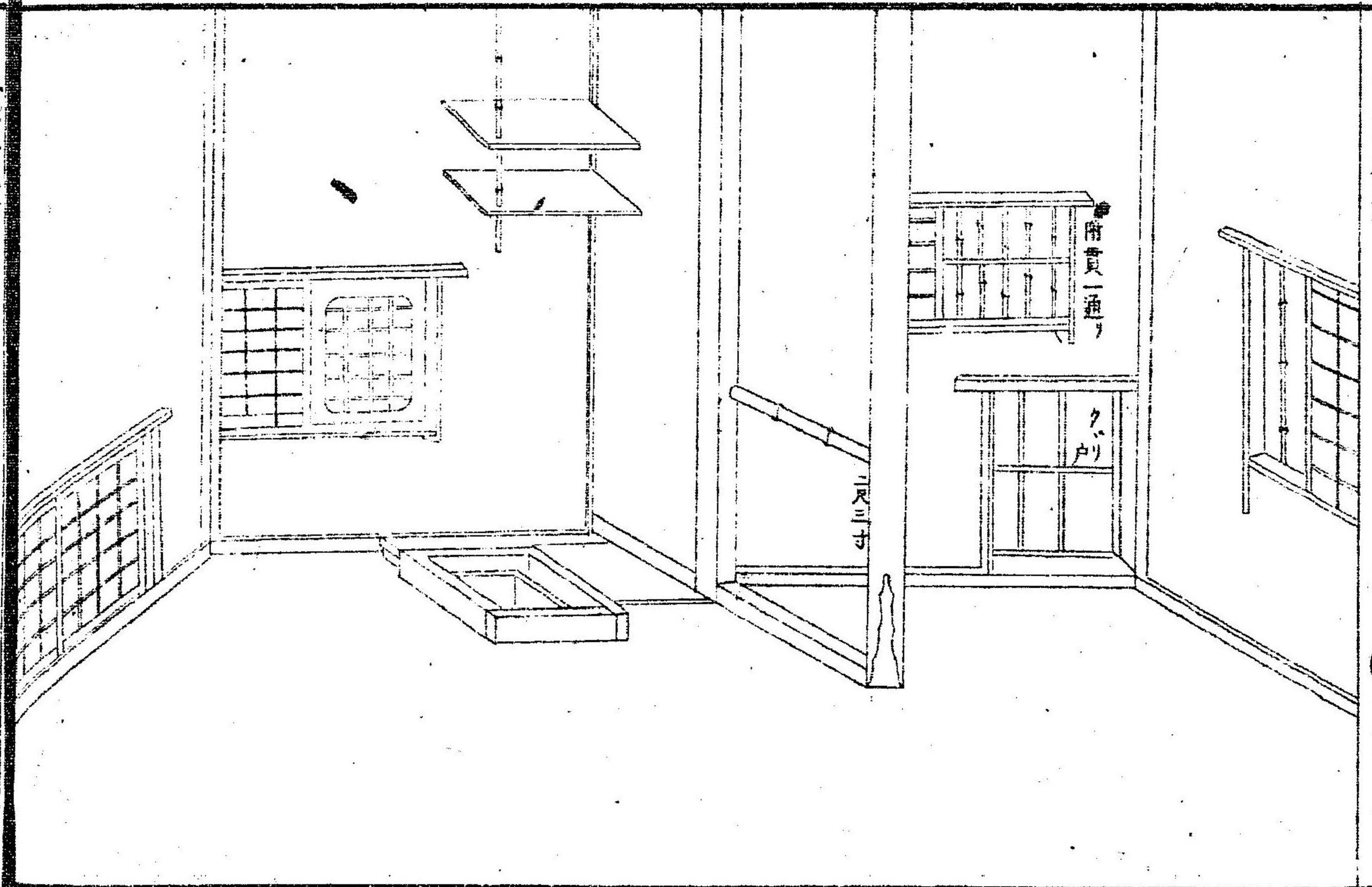
番匠雜形

〇九六



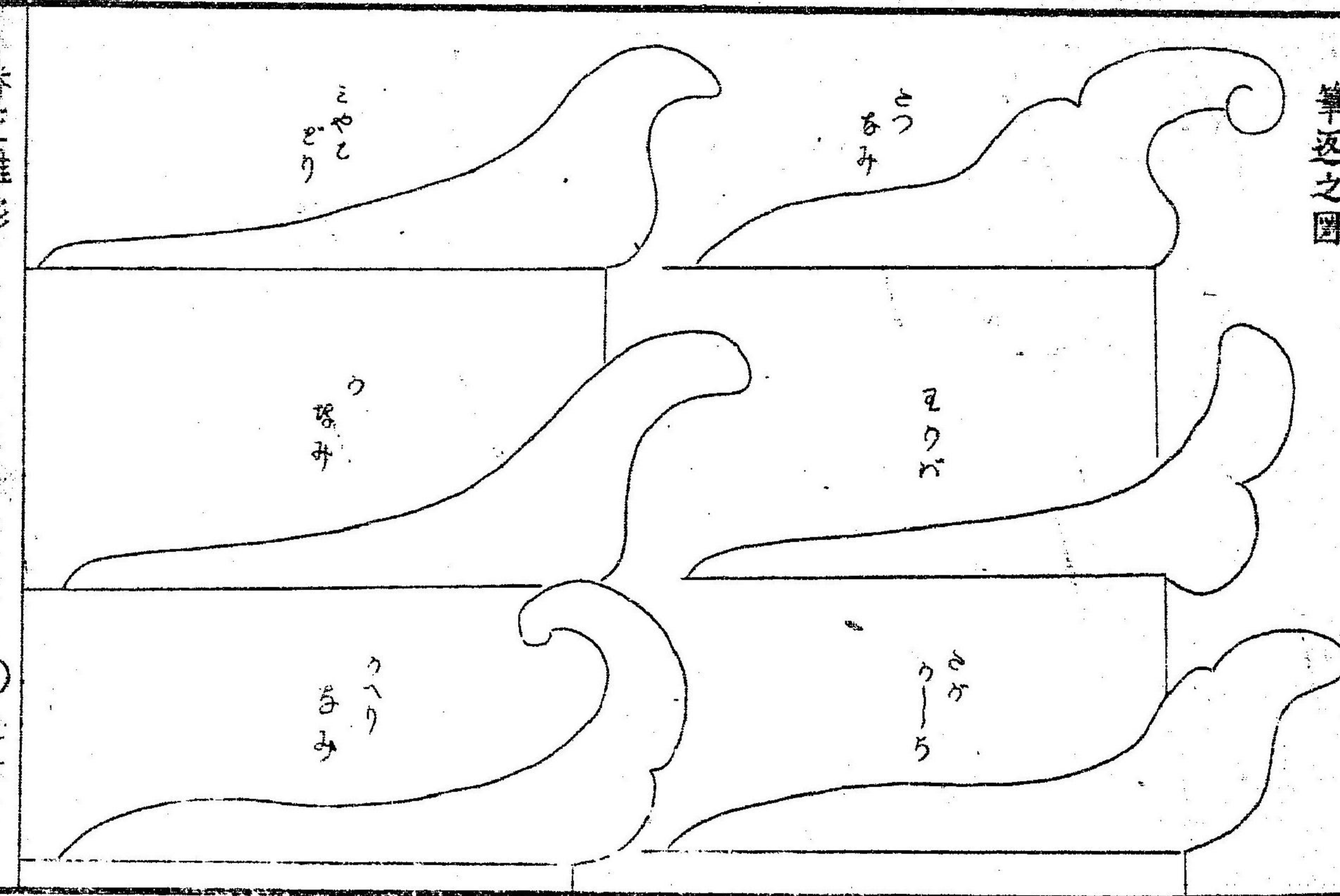
小座鋪の圖

音口開



筆返之圖

クハリ

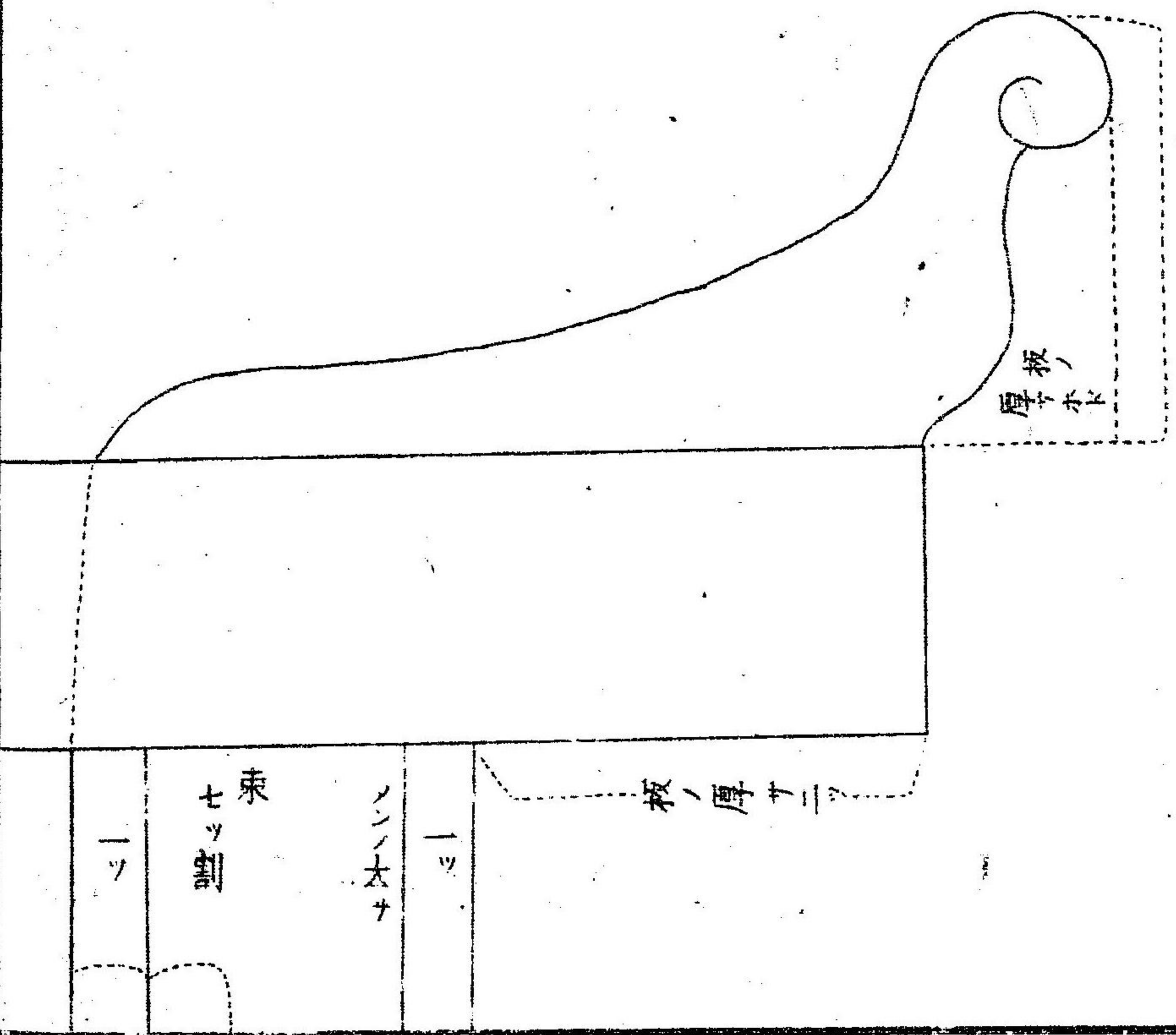


音口開

クハリ



タナ板厚一ツ半



○博風板の割様

波風の取様の數種あり大のちいさく小のちいさくとりなり  
 寸取八分七分六分と取なり寸取と云い流  
 八尺のもふ板を腰まで八寸の巾まつくるを  
 是を十はより上三ツます事を三分まゝと  
 下は一分のまゝ有り又下はの腰同断まこ  
 くもあり  
 波風尻落込の小のちいさのより  
 大波風のちいさのちいさのより  
 甲の大まふのこゝ三ツ割一ツの厚サな  
 前包の大ナ波風のこゝやとなり  
 是を三ツは割一ツ兩押は用ふる又八分はつ  
 くるも有人母屋の六分と

○博風板眉の割

波風板十はより一ツ二ツとくくなり是  
 十眉のきと云  
 又七ツは割一ツ壹ツ半とくを七眉の  
 きと云  
 割付の上中下と指付をせより反りを  
 つけ可



明治十二年五月廿四日  
版權免許  
同十三年十二月發行

定價拾錢

編輯者

東京府平民

樋口繁三郎

同上

神田區若本町十八地

出版者

大森太郎

深川區仲大工町  
二十七番地





東 京 古 書 館

東 京 古 書 館

一 冊	二 六 七 号	七 架	七 函	屬	類
--------	------------------	--------	--------	---	---

四八



7
2/7



